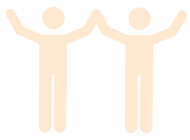




第14回全国高校生金融経済クイズ選手権

エコノミクス甲子園 実施報告書



ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 2

概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3

エコノミクス甲子園はこんな大会です！・・ P. 4

各地方大会概要・全国大会参加者感想・・ P. 6

全国大会・・・・・・・・ P. 104

参加者アンケート・・・・・・・・ P. 110

メディア掲載実績・・・・・・・・ P. 111

事前学習教材・・・・・・・・ P. 112

協賛社紹介・・・・・・・・ P. 113

Special Thanks・・・・・・・・ P. 114

リーダー挨拶・・・・・・・・ P. 116

エコノミクス甲子園の歩み・・・・・・・・ P. 118

歴代全体写真・・・・・・・・ P. 121





第 14 回エコノミクス甲子園を終えて

金融知力普及協会 理事長
エコノミクス甲子園 実行委員長
金子 昌資



2006 年度より実施しております 全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園大会もこのたび第 14 回大会を無事終えることができました。これまでこの大会を作り上げてきた、延べ 2 万人を超える参加者の皆様、地方大会を主催した金融機関の皆様、さまざまなご支援をいただいた協賛・協力企業の皆様、後援をいただいた内閣府、文部科学省、環境省、金融庁、金融広報中央委員会、国際金融公社の皆様、そして様々な形でこの大会に関わった全ての皆様に御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

第 1 回大会は全国 3 か所での地方大会、25 校 99 名の参加者から始まったこの大会も、ネットを含め 46 の地方大会、479 校 2,414 名の参加者を得るところまで成長しました。現在の教育課程では金融経済の知識についてなかなか学ぶ機会がありません。しかしながら、よりよい人生を築くためには必須の知識であると考えております。これを楽しみながら身につける機会を提供することの価値を多くの方に認めて頂いているからこそ、現状のように成功できていると感じております。

金融経済の知識をつけるということは、投資で濡れ手に粟のもうけを狙うようなものではありません。豊かな人生を送るために、お金という道具の使い方を学ぶことです。このような考え方は最近少しずつ理解を得られてきたと感じておりますが、まだまだ多くの方に伝えていかねばなりません。そのためにもこれまで以上に多くの高校生がこの大会に参加し、金融知力を身につけ、その後の人生に活かし、そして周りの方に広げていただければと願っております。

また、第 10 回大会より、全国大会出場者の中から、経済的にゆとりある大学進学が困難な若者を対象に、返済不要の 200 万円の奨学金を授与しております。金子・森育英奨学基金という名称ですが、これを受賞した 12 名のうち、9 名は大学への進学を開始しております。引き続き有為の若者を支援してまいります。

新型コロナウイルスの世界的流行という、未曾有の事態を受け、世界の経済は不透明さを増しております。すでに新卒者の就職活動には多大な影響も出ているといわれており、若者への金融経済教育の重要性は今までも増して高まっております。

第 15 回大会も全国の高校生の為に必ず成功させてまいります。引き続き皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



名称	第14回全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園
趣旨	社会にはばたく寸前の高校生が、世の中の金融経済の仕組みを理解しライフデザインやお金とのかかわり方を考える力＝「金融知力」を楽しく身につける為の教育イベントとして開催する。
期日	・募集開始 2019年8月15日 ・地方大会 2019年11月10日～12月22日 全国46か所（インターネット大会含む） ・全国大会 2020年2月8日～9日
主催	・地方大会主催 各地の金融機関有志 ・全国大会主催 認定NPO法人金融知力普及協会
後援	内閣府、文部科学省、環境省、金融庁、金融広報中央委員会、国際金融公社

プラチナ
スポンサー



ゴールド
スポンサー



Wiennomori Corporation



RHEOS CAPITAL WORKS

シルバー
スポンサー



ブロンズ
スポンサー



近畿日本ツーリスト



日本G & M文化財団

地方大会主催



協力





エコノミクス甲子園はこんな大会です！



1

ポスターや学校の先生に教えられて 出場を決意！

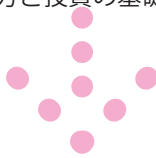
- ・公式 Web サイトから応募
- ・参加は無料！



2

金融知力普及協会から送られてくる 事前学習教材で経済を勉強

- ・18 歳までに学ぶ 契約の知恵・・・・・・・・・・・・・・寄贈：金融広報中央委員会
- ・これであなともひとり立ち・・・・・・・・・・・・・・寄贈：金融広報中央委員会
- ・大学生のための人生とお金の知恵・・・・・・・・・・・・・・寄贈：金融広報中央委員会
- ・マナブとメグミのお金のキホン BOOK・・・・・・・・・・・・・・寄贈：全国銀行協会
- ・そんぼのホント＜フレッシュャーズガイド＞・・・・・・・・・・・・・・寄贈：日本損害保険協会
- ・株式会社制度と証券市場のしくみ・・・・・・・・・・・・・・寄贈：日本証券業協会
- ・ほけんのキホン・・・・・・・・・・・・・・寄贈：生命保険文化センター
- ・もっと知りたい税のこと・・・・・・・・・・・・・・寄贈：財務省
- ・今日から始められるかんたん不動産投資 初めての J リート・・・・・・・・・・・・・・寄贈：不動産証券化協会
- ・基礎から学べる金融ガイド・・・・・・・・・・・・・・寄贈：金融庁
- ・少額短期保険ガイドブック 2019・・・・・・・・・・・・・・寄贈：日本少額短期保険協会
- ・わかりやすい投資信託ガイド 2019 年版・・・・・・・・・・・・・・寄贈：投資信託協会
- ・不動産投信 REITGUIDE 2019 年版・・・・・・・・・・・・・・寄贈：投資信託協会
- ・前払式支払手段で利用者みなさまへ・・・・・・・・・・・・・・寄贈：日本資金決済業協会
- ・進学にかかるお金と奨学金の話・・・・・・・・・・・・・・寄贈：日本 F P 協会
- ・10 代から学ぶパーソナルファイナンス・・・・・・・・・・・・・・寄贈：日本 F P 協会
- ・持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則・・・・・・・・・・・・・・寄贈：環境省
- ・今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎・・・・・・・・・・・・・・作成：金融知力普及協会



3

地方大会に参加

- ・地方大会は各地の地方銀行など金融機関が地域貢献として開催
- ・生活していく上で是非知っておいて欲しい経済の基礎知識や地元経済などについて出題
- ・筆記問題（50 問）と早押しクイズ、そして決勝ラウンドで競う
- ・地方大会で優勝したチームは全国大会に出場





エコノミクス甲子園はこんな大会です！



日本全国の高校生達に
金融経済を学ぶ機会を提供！
将来の日本をリードする人材の育成！



優勝チームはニューヨーク・ボストン研修旅行にご招待

5

- ・現地で活躍する様々な方々へのインタビューや
経済に関する様々な場所を見学



全国大会に参加

4

- ・経済用語についての深い知識を問われる筆記クイズや
他チームと協力したビジネスラウンドなど、
より深い知識や理解が求められる形式の様々なクイズに挑む





北海道大会

11月24日(日)開催

主催 北海道銀行

参加校一覧 札幌創成高等学校、旭川実業高等学校、市立札幌開成中等教育学校、北海道遠軽高等学校、北海道羽幌高等学校、北海道紋別高等学校、北海道湧別高等学校、北海道札幌南高等学校、北海道旭川東高等学校、北海道名寄産業高等学校、北海道千歳高等学校、北海道北見北斗高等学校

申し込みチーム数 30チーム(12校)

運営スタッフ感想 全道各地から29チームが集まり、ハイレベルな戦いが繰り広げられました。

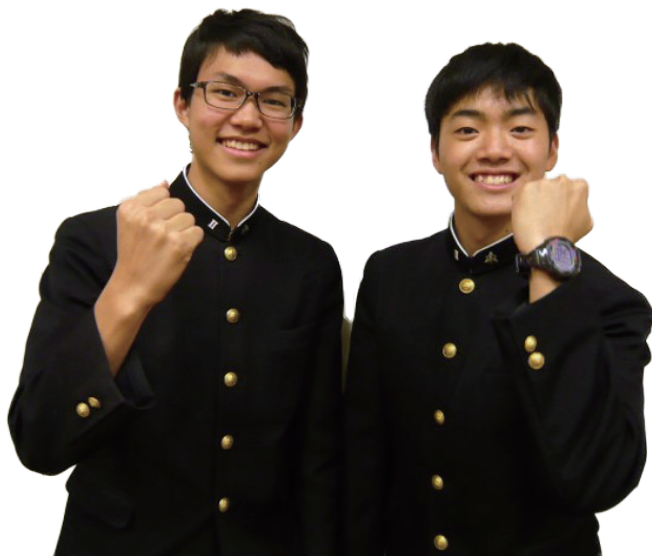
優勝を勝ち取ったのは北見北斗高校のチームで、5年連続で優勝していた札幌地区のチームを破り、念願の初勝利を収めました。

当日は共催いただいた信用金庫・信用組合の方々にも運営のお手伝いをいただき、盛会のうちに終わることができました。

これからも、高校生に金融経済について楽しく学んでもらえる場を提供できるように取り組んでいきたいと思います。

優勝チーム 北海道北見北斗高等学校「E&ME」





北海道大会代表 北海道北見北斗高等学校 2年
本 庄 海 築

今回、このエコノミクス甲子園全国大会に参加させて頂き、たくさんの貴重な経験をさせて頂くことができました。最初は、数あるクイズ大会のうちの1つとして地方大会に参加させて頂きましたが、全国大会では、単なるクイズ大会とは大きく異なることに驚かされました。特に土曜日のビジネスラウンドでは、聞かされていなかった2回目のプレゼンを行うなど、予定外のことが何度も起こって大変でした。ただ、予想外のことを起こすのはいいのですが、一回目と二回目のプレゼンでのベンチャーキャピタルさんの態度の変化がわざとらしく感じました。とはいえ、ビジネスラウンドでは全体としてやりきることができ、ビジネスの難しさを体感することが出来たので、良い経験になったと思います。日曜日の本番クイズ大会では、負けてしまっても何度かチャンスがあったことは良かったと思います。運要素の強すぎるルールが(第2ラウンドなど)良くなかったと思います。また、早押しラウンドではクイズ研究会とそうでないチームを分けていましたが、クイズ研究会といっても、正式な部活であるもの、同好会として認められているもの、学校に正式に認められておらず活動が少ないものなど様々なので、二分するのは良くなかったと思います。そもそもクイズ大会としても開催しているのですから、そこを分けるべきではないと思います。決勝については、難しいルールではありましたが、丁寧に説明していたので、ルールをすぐに理解できるかという点も含めて競うと考えて、良いものだったと思います。とにかく、良い経験をさせていただいたことに変わりはありません。本当に、運営の皆様ありがとうございました。

北海道大会代表 北海道北見北斗高等学校 2年
伊 井 快 斗

僕は小中学校合わせて7年間ほど陸上競技をやっていました。しかし、中学校3年生の時の全道大会であと少しだけ足りず、結局全国出場の夢は叶えられませんでした。今

回のエコノミクス大会は、種類は違うとしても、その時のリベンジマッチのようなものでした。全国出場が決定したときの嬉しさは心に強く焼き付いています。

「極寒の地 北海道」から飛び立った僕たちにとって、東京の気温はまるで夏のように感じられました。これが全国大会かと実感したはじめての瞬間です。その暖かさになかなか慣れず、半袖で過ごさせていただきました。おかげで、少し注目されることができ、すぐに友達も作ることができました。なかなか他の都道府県の友達を作ることは難しいので、とても良い機会になりました。今回作ることができた仲間はかけがえのない友達として、この先も大切にしていきたいです。今回僕たちは残念ながら予選敗退でした。ですが、この全国大会に参加したことには、勝ち負けの価値があったと思います。優勝は後輩に託します！

改めて、このような貴重な経験をさせていただいたことを本当に感謝しています。大会の関係者の皆様、各都道府県の銀行の皆様、そして、今回一緒にペアを組んでくれた本庄君、本当にありがとうございました。





みちのく銀行

青森大会

12月15日(日)開催

主催 みちのく銀行

参加校一覧 青森県立青森高等学校、青森県立弘前高等学校、青森県立十和田西高等学校、青森山田高等学校

申し込みチーム 10チーム(4校)

優勝チーム 青森県立弘前高等学校
「火をし /」



青森大会・総合成績		
1位	青森県立弘前高等学校 (火をし/チーム/菅原 亮希・桜木 亜美)	122 pt
2位	青森県立青森高等学校 (アリアドネチーム/後藤 悠都・小山西 優人)	105 pt
3位	青森県立弘前高等学校 (やべ文理間違えたチーム/西野 結子・山口 頌樂)	92 pt





青森大会代表 青森県立弘前高等学校 2年

菅原 充希

「こうちゃんに会えるかも」私たちがエコ甲に出ることを決めたのはこんな軽い気持ちからだったのですが、全国大会に向けて株や信用取引について勉強していくにつれ、経済を面白いと思えるようになりました。それなりに勉強したつもりではありましたが、本番の早押し、四択では緊張と勉強不足が重なってあまりいい結果が残せませんでした。しかし、私はもともとクイズを見るのは好きだったので実際のボタンでクイズができたことはとてもいい経験になりました。

そして、今回の大会で一番印象に残っているのはなんといってもビジネスラウンドです。私たちの会社では、コロナウイルスの影響で入手が困難となっているマスクが商品の中に入っていたために計画を立て直す必要がありました。そこで急遽販売する商品を三種類に分けることにしたのですが、プレゼンでは厳しい言葉をたくさんいただきました。何とか二度目のプレゼンで資金を出していただき、販売の準備を始めました。商品を完売させることはできませんでしたが、すべての作業が終わった時の達成感は今まで感じたことがないくらい大きかったです。

エコ甲に参加することで触れる予定がなかった経済に興味を持つことができました。関わってくださった銀行の方、スタッフのみなさん、そして一緒にビジネスラウンドを頑張ってくれたみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。経済という学問は自分の将来に直接役立つものなので、今回の経験を大切にしたいと思います。

青森大会代表 青森県立弘前高等学校 2年

櫻木 亜美

理系で地理・世界史選択、クイズ研究会は幽霊部員というこの肩書きで、本当にエコノミクス甲子園に出場しているのだろうか。全国大会前日までそう思う日々が続いた。経済という学問に全くの接点を持たなかった私が、エコノミクス甲子園に出場しようと思ったきっかけ

は、「QuizKnockのこうちゃん来る」というツイートを見たことだ。元々私はQuizKnockの大ファンで、いつか彼らに会えたら、と何度も思っていた。そこで、同じくQuizKnockのファンである友人に声を掛けたのが始まりだ。

東京に到着して2日目のビジネスラウンドでは、当日の朝に初めて顔を合わせたメンバーでチームを組むということで、私の中には緊張と不安、そして期待が入り交じっていた。男子の多いチームだったが、自分の中では、全員との同じくらいのコミュニケーションを取れたのではないかと考えている。その日の終わりには、本当に初対面だったのか分からないほど打ち解け合うことが出来た。

そして、本番の全国大会。私たちの予選順位は22位、それに対して相手の洛北高校は6位と、かなり厳しい戦いになるのではないかと考えた。「たとえ負けても1問は必ず取る」ということだけを考えて臨んだ。結果は残念であったが、私たちのベストは尽くすことが出来たと思う。

この大会を通じて、学校では学ぶことの無い経済に触れることが出来たことは本当に良い経験になった。また、他県の代表の生徒や、スタッフとして私たちを支えてくださった大学生の方々と仲良くなったり、その人の地元の話を知ったりと、滅多にない経験をすることが出来た。最初是不安だった全国大会も、帰る頃にはまだみんなと話したいと思えるようになっていた。来年は受験生なので大会自体に参加することは出来ないが、大学生になった時にはまた別の形で参加出来れば良いと考えている。本当に楽しく、充実した3日間を過ごすことが出来た。

最後に、この大会を運営し、私たちを支えてくださった方々、スポンサーの方々、そして共にあの場所で過ごしたみんな、本当にありがとうございました。





北日本銀行

岩手大会

12月8日(日)開催

主催 北日本銀行

参加校一覧 盛岡中央高等学校、岩手県立種市高等学校、岩手県立盛岡第三高等学校、岩手県立盛岡第一高等学校、岩手県立岩泉高等学校

申し込みチーム数 6チーム(5校)

運営スタッフ感想

- ・参加チームがなかなか集まらず苦労した。
(過去実績のある高校等に直前の電話による再勧誘を行うなど実施したが、大きな効果は得られなかった。何とかして集められればいいが、最小参加チーム数を10チームに定めるなどし、それに満たない場合はインターネット大会に併合するなど工夫が必要と思われる)
- ・事前学習の度合いによって、正解がなかなか出ず、地方大会が盛り上がらないケースもあり、特に難易度の低い予備問題をある程度の数の準備をしていただきたい。
(難しめの問題はメールで追加いただきましたが、逆のケースにも備えるため)
- ・決勝ルールが分かりづらいとの声があり、地方大会では、より単純なルールが好ましいと思われる。

優勝チーム 岩手県立岩泉高等学校
「チキンの波」





岩手大会代表 岩手県立岩泉高等学校 2年

佐藤 恵人

まず、エコ甲に関わって運営してくださった方々、本当にありがとうございました。スタッフの方々の温かく巧みな運営のおかげで楽しく意義のある3日間を過ごすことが出来ました。

私は、昨年もエコノミクス甲子園に参加しました。しかし昨年は知識の不足により岩手大会止まり。全国大会に出場すること自体夢物語で終わってしまいました。そのため2度目の出場となった今年、岩手大会優勝が決まった時の喜びは今も覚えています。

1日目、エコノミカ大会。この日はクイズをしたわけではありましたが、漠然と「ここにいる人たちはみんな、全国大会に向けて僕より勉強をしてきてるんだろうな…」と緊張を覚えました。エコノミカはとても楽しかったです。

2日目、ビジネスラウンド。どんな人と一緒にするのか分からない不安が、僕の中にはあったのですが…。無意味でした。みんなとてもいい人。最高の仲間ができました。この日もとても楽しい1日になりました。

そして迎えた3日目。緊張でとても胃が痛かったのですが、第1ラウンドはなんとか突破。とても嬉しかったです。しかし第2ラウンドと敗者復活ラウンドは知識と時の運及ばず、敗退。僕たちの全国大会はここで幕を閉じました。

悔しいです。とても悔しいので、来年、絶対また全国の舞台に立ちます。絶対です！

改めて、エコノミクス甲子園に関わってくださったすべての方に感謝します。ありがとうございました。

岩手大会代表 岩手県立岩泉高等学校 2年

八重樫 薬

今回、エコノミクス甲子園全国大会に参加してみて、経済に対する僕自身の考え方が変わるきっかけとなりました。今までは経済と言えば社会科の時間で学ぶ事ぐらいしかあ

りませんでした。このエコノミクス甲子園に参加する事になって、これまでよりもさらに深く経済の事について知ることができました。

また、全国大会では他校の人たちと協力して一つのビジネスを立ち上げるビジネスラウンドで、より良いものを作り上げるために様々な面で協力しあい、ビジネスを成功させる事の嬉しさと、大変さを学ぶことができました。ビジネスラウンドを通じて、他校の生徒との親睦を深めることもできました。

全国大会本番では、自分が予想してたよりも高い難易度の問題が出されたりして、改めて自分自身のレベルを知りました。経済の用語等は勿論、今現在の社会情勢などの時事ネタを取り込んだ問題など、多岐に渡る内容で、非常に為になるものでした。それらの問題を通じて新たな発見があったり等、参加して損は無いなと感じました。

どの学校もレベルが高く、僕が分からない問題をサクサクと解いていたので、凄いなと感じました。

初めは軽い気持ちで参加したこのエコノミクス甲子園ですが、大会を通して参加して良かったなと感じています。最後に、このエコノミクス甲子園を終えて、改めて経済の奥深さを知ることができました。来年、社会科の授業に政治・経済があるので、その時に今回のエコノミクス甲子園で学んだことを活かすことができたらいいなと思いました。

高校生活の中でとても思い出に残る三日間でした。

来年も機会があれば、参加したいと思います。





77 七十七銀行 BANK

宮城大会

12月15日(日)開催

主 催 七十七銀行

参 加 校 一 覧 聖ウルスラ学院英智高等学校、宮城県築館高等学校、宮城県多賀城高等学校、宮城県仙台第二高等学校、宮城県仙台第一高等学校、宮城県仙台二華高等学校、仙台白百合学園高等学校

申し込みチーム数 15チーム(7校)

運営スタッフ感想 準備が大変ではありましたが、民法改正、NISA等、今後の高校生に向けて金融教育の重要性を伝える非常に良い機会になりました。大会内容については、正答率が高く、皆さんの勉強の成果には驚かされましたし、決勝についても、最後大逆転劇が起こるなど、最後の1問まで順位がもつれるという、非常に白熱した展開になりました。今後も金融教育を通じて、地域経済の発展に貢献していけたらと思います。

優勝チーム 聖ウルスラ学院英智高等学校「陶片追放」





宮城大会代表 聖ウルスラ学院英智高等学校 2年
三 浦 輝

昨年は県大会3位に終わってしまった私は「今年こそは」という気持ちで県大会に臨み、最終ラウンドでは運を味方につけて、なんとか全国大会への出場を果たすことができた。

本格的な勉強は1月に入ってから始めたが、それはこれまでの人生で最も勉強した1カ月だったのではないと思う。毎日図書館に籠り、経済学の書籍や事前学習教材、インターネット用語集などを漁る日々。この「本気で勉強する経験」は私がエコノミクス甲子園に参加して得られた最も大きなものの1つだと感じる。実際、勉強の成果は表れ、全国大会においても既知の用語が多く、準決勝進出、という結果を残すことができた。

また、「全国の仲間と関わる経験」も私にとって貴重なものとなった。これまでも東京で開催されるプログラムに参加したことはあったが、北は北海道、南は沖縄までほぼ全都道府県からの同年代と一度に会うことができたのは初めてだった。エコノミクス大会、ビジネスラウンド、全国大会本番それぞれに交流の機会は設けられており、背景の違う、しかし経済学への興味と知識が共通した仲間との会話は学校では経験できない貴重で楽しいものと感じた。特に、ビジネスラウンドで1日を通して活動した仲間とは、また会いたいと思えるほどに濃密な時間を過ごした。

エコノミクス甲子園での経験は、今後の人生に必ず生きてくると確信している。参加を通して得た、「知識の楽しさ」と「全国各地の仲間」は私が大学生、社会人になった後もかけがえのない財産となるだろう。

宮城大会代表 聖ウルスラ学院英智高等学校 2年
渋谷 駿介

今回のエコノミクス甲子園では最初から最後まで楽しむことができました。今までこのような大会には参加したことがなくてどのような感じなのだろうと楽しみにしていたし緊張もしていました。実際に参加してみると思っていた以上に楽しくて大会の進行なども上手でとても参加もしやすかったです。まず1日目のエコノミクス大会では、あまり

練習しないまま参加しましたが意外と周りの参加者も同じような状態で少し安心しました。だからエコノミクス自体も勝ったり負けたりするハラハラ感で楽しむことができました。さらにそこは対戦した人と仲良くなれる機会となって友達の輪を広げることができました。次に2日目のビジネスラウンドではビジネスというものの最初から最後までやりました。例えば自分たちの計画から初めてプレゼンや買い出し、販売ということも行い最後にはお金の集計まで行いました。普通の高校生では絶対にしないような体験まで出来て面白かったし勉強にもなりました。最終日の本大会ではこれまでは感じられない緊張感や大会へのやる気が感じられました。1回戦では1対1の対戦でみんなの視線が集まっているのがわかってとても緊張しました。しかし相方のおかげもあり1回戦は突破できました。そして2回戦では突破のためには運が大きく左右するラウンドでした。2回戦もなんとか通過することが出来ました。準決勝では結果としては突破することが出来なくてとても残念でした。しかしここで学んだことがあり、それは1つのミスが違う結果を招くということです。私たちは問題選択の際に難しい問題を選んでしまい失敗してしまいました。ここで負けたのはほんとに悔しかったです。最後に今回のエコノミクス甲子園に関わってくださった皆様に感謝するとともに、今回の経験を元に今後活かせるようにしていきたいです。





秋田銀行

秋田大会

12月8日(日)開催

主催 秋田銀行

参加校一覧 聖霊女子短期大学付属高等学校、秋田県立秋田高等学校、秋田県立秋田南高等学校、秋田県立本荘高等学校、秋田県立大館鳳鳴高等学校、秋田県立仁賀保高等学校、秋田市立秋田商業高等学校

申し込みチーム数 30チーム(7校)

運営スタッフ感想 今大会では7校25チームに参加いただきました。

決勝では、最終問題まで「バブル崩壊まであと“1”」となり、複数のチームに優勝のチャンスがあるという手に汗握る展開を繰り広げましたが、リスクヘッジをうまく活用した予選1位通過の秋田高校「帰国子女」チームが逃げ切り、見事優勝を飾りました。

惜しくも優勝を逃した皆さんからは「来年も参加し、リベンジしたい!」などの熱い言葉をいただき、盛会裏に終了しました。

最後に、参加していただいた高校生の皆さん、大会にご協力いただいた関係各所の皆さまにお礼申し上げます。

優勝チーム 秋田県立秋田高等学校「帰国子女」





秋田大会代表 秋田県立秋田高等学校 2年

土橋 真人

「金融経済おもしろえ」そう感じた最高の大会でした。

教室の横の黒板にさりげなく貼られたエコノミクス甲子園のポスター、そしてそのポスターに1番近い席に座る五十嵐くん、これが私と彼のエコノミクス甲子園との出会いでした。まあ、なんというか、偶然というか、運命的なものでしたね。最初は全く興味はありませんでした。去年、クラスメイトがエコノミクス甲子園に出場して、教室で事前教材を使って勉強していましたが、正直なところ面白そうとは思いませんでした。でもなぜか今年は、一枚の小さなポスターに引き込まれて、半分ノリで参加しました。でも、いざ勉強を始めると、エコノミクスの魅力にどっぷりと浸かり、面白すぎて教材のページをめくる手が止まりませんでした。エコノミクスおそろしや。とんとん拍子で全国大会に参加することになり、ついにやって来た東京、そこで出会ったのは個性豊かなエコノミクスを愛する高校生たちでした。初日のエコノミカ大会はいい交流の場でした。初対面で緊張しながらも、金融経済のカードゲームというある意味エコノミクス甲子園のためにあるようなもので対戦を行い、そこで生まれた会話から仲を深め、この日だけでたくさんの友人をつくることに成功しました。二日目のビジネスラウンド、私はこの日が一番楽しかったです。当日の朝にメンバーが発表されて、朝食の約一時間後にはプレゼンを行うという、なかなかないスケジュールでしたが、自分の元々あるコミュニケーション力をいつも以上に発揮し、すぐに社員と打ち解けることが出来ました。女子の方が多く、女子のお荷物になりかけた男子たちでしたが、必死に食らいつきました。普段聞きなれないかわいい方言たちに囲まれて秋田弁はどこにいったのやら、んだんだはいつの間にか消え、じゃけいが頭の中を占めて知らぬ間に複数の方言が入り交じり、どこの人やと突っ込まれたのも良い思い出です。プレゼンで厳しいお言葉をいただき、一時はどうなることやらと思いましたが、全力で最高の商品を作り上げようと努力し、販売会で十五分で完売した時はとても嬉しかったです。あのメンバー達とまたいつか会えると信じています。みんな、めちゃくちゃ楽しかったぜ。そして迎えた三日目、全国大会当日、疲れきった状態ではありましたが、自分の出せる力を出し悔いのないものに出来ました。秋田からの農民一揆は失敗に終わり、なまはげに

何をされるかびびりながらも、充実感が自分を満たしていました。全国大会が終わると、みんなに別れを言う間もなく出発しました。空港に向かうバスの中、この三日間を振り返り、もう終わったんだなという思いがわいてきて泣きそうになってしまいました。同じバスに乗っていたビジネスラウンドの会社の仲間に最後の別れをし、雪国へと戻りました。飛行機から降りると広がる一面の雪、そこに浮かび上がる地方大会から全国大会までのエコノミクス甲子園の数々の場面、最高の経験だったなあ。最後に残ったのは、14回大会みんなの笑顔。また会おう、きっと会える！

秋田大会代表 秋田県立秋田高等学校 2年

五十嵐 駿

「面白そうだから」という軽い気持ちで、友人と誘い合って申し込んだ地方大会だったが、学校の考査が直前に控えていたため、数日間の勉強のみで臨むことになってしまった。とはいえ、優勝を目指していたため学校の勉強そっちのけで数日間をエコ甲の勉強に注いだ。今思えば、全国大会の前よりも必死だったかもしれない。予選を勝ち抜き、優勝を確信した瞬間の胸の高まりは、今でもはっきり覚えている。

それからは、勉強に部活という以前の生活に戻り、エコ甲の勉強を先延ばしにしていた。が、その矢先に送られてきたビジネスラウンドの案作成と準決勝の作問。急遽パートナーと打ち合わせを始めたものの、すぐに行き詰まってしまった。

そして休み明けのテスト、研修旅行、学校の論文作成と、怒涛のように日は過ぎていき、いつの間にか目前に迫っていた全国大会。勉強不足で迎えた全国大会は、目一杯楽しもうと開き直って迎えた。するとどうだろう。予想以上に白熱したエコノミカ大会、初対面の高校生と団結し、たった半日で仲を深めたビジネスラウンド、そして桁違いのレベルの高さの本大会。すべてがエコ甲でしか経験できない、貴重な時間であった。

これまで関わることのなかった金融経済について学ぶことができ、身近なものであったテレビやニュースを見る目が変わったことはもちろん、全国のハイレベルな高校生たちと交流し、パートナーと密接に関わり、親交を深めることができたことは、これからの人生における財産となることだろう。

最後になるが、このような場を設けて下さったマニユライフ生命保険様、協賛の皆様、OB、OGの皆様には、感謝の念しかない。

今後も、全国の後輩たちも同じように、貴重な経験をできるように、応援していきたいと思う。





山形銀行

山形大会

12月15日(日)開催

主催 山形銀行

参加校一覧 日本大学山形高等学校、山形県立酒田東高等学校、山形県立山形西高等学校、山形県立山形東高等学校、山形県立山形南高等学校、山形県立寒河江高等学校、山形県立上山明新館高等学校

申し込みチーム数 35チーム(7校)

運営スタッフ感想 山形大会初参加の高校で、本大会唯一の男女混合ペアが優勝し盛り上がりました。

当行では、本大会を人材育成の機会と位置づけ、新入行員5人が「実行委員」を務め、大会の企画・運営に携わりました。また、参加者募集活動と大会情報活動を行う「サポーター」5人を設け、県内各地区より参加者が集まるように工夫しました。

今後も、地域金融機関の責務として、山形の未来を担う高校生の金融知力向上に貢献していきます。

優勝チーム 山形県立寒河江高等学校「メイフラワー」





山形大会代表 山形県立寒河江高等学校 2年

佐藤 俊亮

教室に貼ってあったチラシを見てたまたま申し込んだエコノミクス甲子園。山形大会では思いの外善戦し、優勝することができた。

ついに迎えたエコノミクス甲子園全国大会。政治経済の参考書を読み込み、父のFPの参考書を借り、商業高校の友人に質問し、自分なりに山形大会からの1ヶ月半準備してきた。

当日、東京駅に着いた私たちは山形銀行東京事務所の方にお出迎え頂き、社用車でオリンピックセンターにお送りしてもらったことになった。車で都内を走るというなかなかないようなことだったので気分が高揚しながらオリセンに到着した。1日目はエコノミカ大会。対戦した高校生と他愛も無い話をしつつ、エコノミカに打ち込み終了した。

2日目はビジネスラウンド。会社の登記をしたり、財務諸表を作ったり、実務に近いという印象を受けた。ベンチャーキャピタルへの説明では自分たちの詰めが甘いところを指摘され、辛かったがなんとか出資して頂けた。さまざまあったが時間内に販売に漕ぎ着け、あっという間に完売することができ素直に嬉しかった。

3日目のクイズ本戦。一対一の早押しクイズでは勝つことができ、次のラウンドに進むことができた。しかし、ここでは猛烈な駆け引きが行われ、私たちは呆気なく敗退してしまった。不本意ではあるが敗者復活戦に進み、1周目は容易に答えることができたが、広辞苑に掲載されている〇〇経済という用語を答える多答クイズは自分が知っている用語が出尽くし、八方塞がりの状況になってしまった。

エコノミクス甲子園に出場し、経済・金融に関する知識を獲得することができ非常に有意義なものとなった。最後に地方大会主催の山形銀行の皆様、全国大会主催の金融知力普及協会の皆さま、またスポンサーの皆さま、本当にありがとうございました。

山形大会代表 山形県立寒河江高等学校 2年

大内 梨央

教室に掲示してあったチラシの奨学金制度に惹かれ、隣

の席の子を誘い応募した今大会。初めての経験にドキドキしながらも、頂いた教材を使って勉強し臨み、チームワークが上手くいったからか優勝することが出来た。

いよいよ迎えたエコノミクス甲子園全国大会。相方がしっかりしていた為、山形銀行さんや今大会担当者さんとの連絡も迅速に対応でき、東京についてからは、山形銀行さんが車でオリンピックセンターまで送迎していただいた。全国大会までの約2ヶ月は日々の勉強や試験がありながらも、自分なりに勉強し臨んだ。

1日目はエコノミカ大会。会場へ着くと、初めての光景に緊張と不安でいっぱいの中だったが、全国の高校生とエコノミカを通じて仲良くなることができ、とてもいい思い出になった。

2日目はビジネスラウンド。当日発表されたメンバーに驚きと緊張を持ちながらも、時間が無い中役割を分担し、プレゼンテーションから販売まであっという間だったが一つひとつの作業を綿密に行うことが出来たと思う。特にプレゼンテーションまでの段階では、ベンチャー企業さんからのアドバイスより、チーム内での何をする事でその目標や目的が達成されるかの意見や考えのディスカッションがとても面白かった。財務諸表を初めて作成した私は、今までそれらの事柄に実際に触れることも興味もあまりなかったが、一生懸命説明を聞いて、減点されないよう指定された資料類を完成させ、その後の達成感が今までにないくらい大きく、自分の自信にもつながった。

3日目はいよいよクイズ本戦。朝から緊張感が高まる中、初めての経験に胸を踊らせた。早押しクイズでは相方の活躍により勝つことが出来たが、2戦目は問題を正解していったが、駆け引きに思いのほか苦戦し、敗退してしまった。敗者復活戦では1周目は好調だったにもかかわらず、2周目で前のチームがどんどん落ちていき、私たちも答えることが出来なかった。悔しい結果になってしまったが、やり切った感じは大きかった。

今回のエコノミクス甲子園に参加し、奨学金応募目的だったにも関わらず、様々な経験ができた。エコノミクス甲子園と聞き概要を聞くと、ただの金融関係のクイズ大会でしょ。と思うかもしれない。けれども、全国の高校生、金融機関の会社の方々との交流を通して、社会経験やなかなか得ることが出来ない知識、そして今大会の目的のために自分が努力し、それゆえの達成感と自信を身につけることが出来たのはとても大切な経験になったと思う。経済、金融知識はニュースで見ても終わるものではない。これからは自分たちが日本の問題を考え、自分の生活のために学び、行動していくものだと感じ、勉強はこれで終わりにせず、これからも日常生活に活かしていきたいと思った。

最後に、地方大会主催の山形銀行の皆様、全国大会主催の金融知力普及協会の皆様、そしてスポンサーの皆様、ここで出会えた仲間感謝と共に御礼申し上げます。本当にありがとうございました。





すべてを地域のために

東邦銀行

福島大会

12月15日(日)開催

主催 東邦銀行

参加校一覧 福島県立福島高等学校、福島県立磐城高等学校、福島県立安積高等学校、福島県立会津高等学校、福島工業高等学校

申し込みチーム数 30チーム(5校)

運営スタッフ感想 広い福島県ですが、各地から24チームの高校生に参加いただきました。早押しクイズから盛り上がり、会場はさながらテレビのクイズ番組のような素晴らしい雰囲気になりました。

優勝は、4年連続優勝となる福島高校のチームでした。予選も1位通過、決勝ラウンドでも力を見せ、初優勝に輝きました。

優勝チーム 福島県立福島高等学校
「悔いずにクイズ」





福島大会代表 福島県立福島高等学校 1年

今野 悠真

今回私が全国大会に出場出来たのは幸運だったとしか言いようがない。事前学習教材の読み込みも浅く、うろ覚えの知識ばかりの私は地方大会当日かなり緊張していた。筆記クイズは完全に相方任せな上に、決勝でも分からない単語がバンバン出た。誤答してしまった最終問題では、正解し優勝かと思われたチームが表記を間違えるミスを犯し、私たちが優勝するというまさかの珍事が起きた。

このような幸運が重なり全国大会に出場したわけだが、当然ながら私は複雑な心境だった。相方・準優勝となった同校の先輩方への申し訳なさや自分の力で勝ち上がったわけではない劣等感が渦巻いていた。しかし、先輩方からも応援され一念発起、全国大会に向けて勉強に取り組むようになった。

それからは、毎日放課後に相方と残って勉強した。部活がある日は部活が終わってから時間を見つけて練習に励み、そして全国大会へ挑んだ。

今年から始まったビジネスラウンドでは案が採用されCEOを務めた。初めは堅苦しかった他校の生徒とも次第に打ち解け修正案を出しあった。販売を開始すると商品は飛ぶように売れ、なんと時間を半分残して完売してしまった。自分たちで考え企画し、調達から広報までした商品が売れていくのはとても嬉しかった。他校の生徒と熱く議論する機会など滅多に無いためとても貴重な経験になったと思う。

本戦ではタイマン早押しをストレートで制し幸先良くスタート…かに思われたが、第2ラウンドで読みを外し、ここでリタイアとなった。正直泣きそうなほど悔しかったし、まだ力を出しきれていないというもやもやした感情が残っていた。こうして私の全国大会は幕を閉じた。

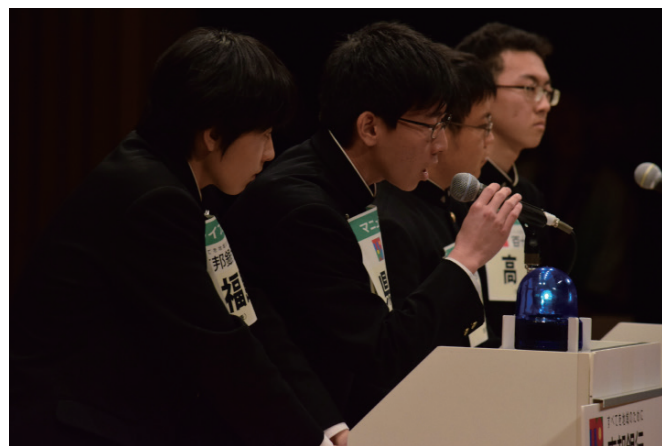
結果こそ敗退となってしまったが私はこの大会に参加して良かったと心から思っている。今まで全く知らなかった金融の分野に知見を広げるきっかけになったし、将来の案の一つにもなった。今回の大会に参加して得たものが多いと思う。是非来年も参加し、次こそは優勝を飾りたい。

福島大会代表 福島県立福島高等学校 1年

持地 悠生

私がこの大会で様々なことを学びました。特にビジネスラウンドではこのことを学びました。

「モノを売るには消費者の気持ちになって考えること」です。私のチームはバレンタインデーが近いということでチョコやココアパウダーをまとめて売ろうとしていました。しかし、その考えは投資家の方々によって打ち砕かれました。プレゼンが終わったあと、「それを自分達がおもうと思いますか？」と言。心にグサツときました。しかし、その言葉は売る側である我々が消費者側の立場に立って考える契機となりました。消費者が欲しているものは何なのか。私たちは仕事で忙しくしている人たちに「家族や大切な人と過ごす時間」を生み出すセット(ホットケーキミックス、メッセージカードなど)を作り販売しました。他の商品よりも値段が高いのにも関わらず開始からすぐに売れ、完売しました。消費者の立場に立って考えれば売れる商品を生み出せると実感しました。また、稼ぐことを考えるのではなく、もっと人のために尽くせるような仕事ができるようにしようと思いました。このような機会を用意してくださりありがとうございました。来年も参加したいと思います！





筑波銀行

Tsukuba Bank

茨城大会

11月11日(日)開催

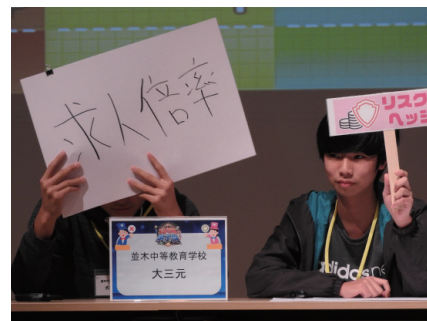
主催 筑波銀行

参加校一覧 茨城県立竹園高等学校、茨城県立水戸第一高等学校、茨城県立土浦第一高等学校、茨城県立古河第三高等学校、茨城県立並木中等教育学校、茨城県立下館第一高等学校、茨城朝鮮初中高級学校、江戸川学園取手高等学校、明秀学園日立高等学校、常総学院高等学校、土浦日本大学高等学校

申し込みチーム数 40チーム(11校)

運営スタッフ感想 今年の茨城大会は、2019年11月10日(日)に33チーム、66名の参加により、盛大に開催されました。決勝ラウンドでは、今年も白熱した戦いが繰り広げられ、江戸川学園取手高等学校「star two」が優勝し、全国大会の出場権を獲得しました。今後も、大会を通じたくさんの高校生が楽しく金融知力の大切さを学ぶことができるよう取り組んでいきたいと考えています。地方大会も無事終了することができ、関係者の皆様に感謝いたします。

優勝チーム 江戸川学園取手高等学校「star two」





茨城大会代表 江戸川学園取手高等学校 2年
高松 遼太

僕は大会の結果よりもとてもいい仲間と過ごせ、難しい課題を乗り越えた全国大会出場そのものがうれしく印象に残りました。

特に土曜日丸一日かけて行ったグループワークです。このグループワークでは冬休みの間にチームごとにアイディアをA4一枚の紙で出してそのうち10チームぐらいが採用され、選ばれなかったチームはその中からその紙を参考にして選ぶ形でした。そのため、採用されたものは斬新なものが多かったです。また、当日の朝までどのグループで行動するかは不明でした。僕たちは希望通りのグループに行けるかその日まで不安でした。

僕たちはその活動のやりがいを求めたので他の班にはない、サービスを売る班を第一希望としました。変わっているグループのため、無事そのチームになり、そのチームは個性豊かな人が集まりました。それでもみんな興味が同じで様々な経済に関する知識を持っていたため、とても短い時間にもかかわらず、様々な困難を乗り越えられました。グループワーク自体の評価は予選の結果を踏まえ全体の半分以下とあまりよくありませんでした。しかし、敵としてではなく仲間として、応援しあえるぐらいメンバーとはとても仲良しになりました。

実はさらに思い出深いことがあります。土曜の夜にそのグループ全体で大会本番の準備としてクイズをしたことです。この時の勝負の興奮はとても大きかったです。

僕たちは第二回戦で敗退しましたが、敗者復活で最後まで正々堂々戦えました。それもたくさんのチームが応援してくれたからだと思います。ありがとうございました。

茨城大会代表 江戸川学園取手高等学校 2年
佐藤 志穂

今回エコノミクス甲子園に参加して、3日間を通して沢山の仲間と交流でき、嬉しく思います。振り返ってみれば、どの場面を思い返しても誰かしらの参加者が思い浮かび、

いかに多くの人と交流したかを実感します。特に2日目のビジネスラウンドでは、一日中他校の生徒と行動を共にし、話し合い、とても親くなりました。その日の夜にはなんと、翌日の競技では敵として競うことになる私たちにも対策問題を出題してくれて、優しさに心動かされました。また、全行程において沢山のスタッフの方々に助けて頂き、怪我などなく安全に過ごすことができ、スタッフの方々には感謝しかありません。もしスタッフの方々がいらっしやなかったとしたらスムーズに行動出来ていなかったかもしれない場面がいくつか思い浮かびました。競技については、なんとペアの人のお母さんに感謝しています。それは、準決勝ラウンドで用いた問題を作問した際、題材を提供してくださったからです。このおかげで私たちは最高倍率をたたき出すことが出来ました。このように振り返ってみると、このエコノミクス甲子園は、様々な人に支えられた3日間でした。わたしはそのような人への感謝を忘れず、そこまで含めてひとつの思い出として脳内に残すと決めています。この思い出を胸に、残りの高校生活を楽しんでいこうと思います。最後になりますが、このような大会を開催してくださった皆様、本当にありがとうございました。





足利銀行

栃木大会

12月15日(日)開催

主催 足利銀行

参加校一覧 栃木県立石橋高等学校、栃木県立矢板東高等学校、栃木県立栃木高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校、栃木県立宇都宮商業高等学校、栃木県立佐野高等学校、宇都宮短期大学附属高等学校

申し込みチーム数 36チーム(9校)

運営スタッフ感想 栃木大会も7回目となり、参加チーム数は過去最多の36チーム71名。多くの高校生で大いに盛り上がりました。高校生たちはしっかり勉強して準備をし、大会に挑んできているようで、年々参加チームの力が拮抗してきているように思います。決勝ラウンドでも接戦でしたが、予選1位通過チームが順当に勝ち抜けて優勝となりました。

36チーム中半分の18チームが1年生チームで、来年の大会もさらにレベルアップするのではないかと楽しみです。

例年思うことですが、エコ甲に参加してくる生徒たちはみんな素直で一生懸命です。運営スタッフの行員も1日楽しく高校生と過ごすことができました。

優勝チーム 栃木県立宇都宮高等学校「雪雪崩」





栃木大会代表 栃木県立宇都宮高等学校 2年
古 積 卓 磨

1日目(エコノミカ大会)

エコノミカ大会はほぼ開始と同時に到着。走ってきたせいもあり、汗だくになりながら席につきました。7000円分の課金をしたお陰かペアの河又はオリジナルデッキ部門で優勝し、1日目にしてとても楽しかったです。

2日目(ビジネスラウンド・筆記)

エコ甲全国大会に参加された先輩の助言もあり、2日目は緊張感を持って臨みました。しかし、筆記クイズは夜に行われると考えていたので朝一発目で筆記を行うと聞いた時は驚き、一筋縄ではいかないと思い知らされました。筆記は散々でしたが、最終的にはビジネスラウンドの配点が高かったおかげで致命傷にはならず済みました。ビジネスラウンドは第一希望であった会社に入社することができ、上々の滑り出しとなりました。「コーヒーにだって分散投資」をテーマにした独創的なアイデアと素晴らしい仲間にも恵まれ、ビジネスラウンドでは全体上位を取ることができました。結果、予選を14位という好成績で通過し、本戦への期待が高まりました。

3日目(本戦)

予選での好成績も虚しく、1Rはストレート負けを喫しました。続く3Rは1問間違えると1人で答えなければいけないという地獄のルール。2問続けて誤答し、無事敗退。あの時自分を信じて選択を変えていなければと今でも後悔しています。敗者復活戦はウルグアイと答えられたので満足。

最後に、このような素晴らしい大会を開催していただき、誠にありがとうございました。私も将来なんらかの形で協力したいと思います。

栃木大会代表 栃木県立宇都宮高等学校 2年
河 又 彰 吾

私は昨年度、タダ飯を食べるためにエコ甲に参加しまし

た。確かにおいしいお弁当が食べられたことは嬉しかったのですが、それよりも地区大会上位陣のハイレベルなクイズに魅了され、自分もあの舞台に立ちたいと思いました。そして今年度、クイ研の仲間との対策の成果もあり、優勝することができました。また、1～5位を宇高で占めることができて感動しました。

全国のためにおこなった対策といえば、青本1～2周、その他教材を隙間時間にやる、エコノミカを○千円分買う、エコ甲公式の過去動画を見る、エコ生をかかさず見る、ぐらいでした。結果が伴ったのはエコノミカぐらいなので、もし過去の自分に助言ができるのなら、他のサイトを見る時間をもっと早く取ってほしいと言いたいです。

初日の開催ギリギリに滑り込んだエコノミカ大会ではオリジナル部門に参加し、優勝することができました。実はエコノミカ大会優勝を相方とともに目標の一つとしていたので、達成できて良かったです。

土曜日は突然の筆記クイズで動揺しながらも、ビジネスラウンドに取り組みました。先輩から「土曜日が実質的な本戦」と聞いていたので、楽しく一生懸命取り組みました。私は「ディスペルシオンネ珈琲」の調達部隊として、甲府南の方とそういえば早押しラウンドの抽選もしていたVCの方と一緒に、片道3km超を乗り越えて、様々なハプニングもありながら任務を遂行しました。各々の得意分野を活かして、実際の会社のように計画、プレゼン、販売、さらには経理まで行うという貴重な経験はとても楽しかったですし、これからの糧になると思います。

日曜日の本戦。1Rは相手が完全に上手でした。答えはわかってたのに押し負けたのはクイ研としてはかなり悔しかったです。2Rは観戦。私はあのルールの最善手が未だにわかりません。3Rは自分の判断ミスで落ちてしまったので今大会最大の反省点です。敗復…あれはしょうがない。準決～決勝は観戦。特に決勝は知らない経済用語ばかりなのに正解が多くチームから出て、また複雑なルールにもすぐに慣れていて、全国大会のレベルの高さを感じました。土曜日に一緒だった高松高校が結果を残してくれたので自分でも嬉しく感じました。

このエコノミクス甲子園全国大会を通して、金融経済に深く関心を持ちました。また、全国の様々な高校と触れあうことができました。貴重な体験をさせてくださったエコノミクス甲子園関係者の皆様にお礼を述べて、この感想文を締めたいと思います。





群馬銀行

群馬大会

12月15日(日)開催

主催 群馬銀行

参加校一覧 群馬県立高崎高等学校、群馬県立高崎女子高等学校、群馬県立太田高等学校、群馬県立前橋高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、群馬県立中央中等教育学校、群馬工業高等専門学校、樹徳高等学校、東京農業大学第二高等学校、利根沼田学校組合立利根商業高等学校、伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校、ぐんま国際アカデミー高等部

申し込みチーム数 26チーム(12校)

運営スタッフ感想 今回は、12校から25チームの申し込みをいただきました。特に今年は1年生が13チームと半数以上を占め、フレッシュな大会となりました。

決勝ラウンドは、6校の対戦となり、例年以上の盛り上がりとなりました。1問目から4問目は正解、不正解に分かれて一進一退の状況でしたが、予選2位チームが全問正解でリードしました。ところが5問目から3問連続で全チーム正解が続くなか、リスクヘッジをかけない積極策で得点を伸ばした「GYM」が9問目を正解し20点に到達、逆転で全国大会への切符を手に入れました。「GYM」の2人は、同じ学校の先輩が昨年群馬大会を優勝し全国大会でも準優勝になったのを見て、自分たちも挑戦しようとして一番に申し込みをし、早くから準備をしてきた成果を発揮することができました。

参加者の皆さんからも「経済に興味を持てた」「楽しかった」との感想をいただきました。

来年も皆さんの申し込みをお待ちしています。

優勝チーム 群馬県立中央中等高等学校「GYM」





群馬大会代表 群馬県立中央中等高等学校 1年

後藤 柚香

エコノミクス甲子園全国大会が楽しかったことには変わりはないけれど、悔しい。とにかく悔しい。第13回大会、学校の先輩が準優勝したことがきっかけで頂点にたどり着こうと決意した。

1日目

エコノミカ大会では対策をしていないのにオリジナルデッキ部門に出場。2勝というまあまあな結果で終わった。成績的には酷いものだが、惨敗しなくてよかった。ここで還付金詐欺カードのイラストはパンプキンとキャンキンの言葉の相似によって選ばれているということに驚いた。

2日目

来ると思っていたけれど、ゲリラ筆記クイズ。ちなみにゴンさんだとは気付かなかった。社会保障システムをととても苦手としていたので、大撃沈。

ビジネスラウンドは株式会社 Our Planet に配属され、生産部長という名の下、なんでも屋を勤め上げた。走って、走って、ポスター描いて、キャッチコピー考えて、走って、集客して、走って。気付いたら、どこの会社よりも早く完売。もう少し在庫多めにしてもよかったのかもしれない。

前夜祭で立食というものを初めて体験した。ここで尊敬する田村正資さんと写真を撮ることができたことは一生の宝物だ。

3日目

本番。緊張を乗り越えてハイテンションになっていて、早押しでは押負け、3Rでは札の出し間違い、敗者復活では広辞苑にのっている「～経済」をあてられず、沈没。正直、この本番については微かにしか記憶に残っていない。

最後に

地方大会を主催してくださった群馬銀行様をはじめ、この大会の運営に携わっていただいた全ての方々、そして尊敬する先輩方、ありがとうございました。

1年間猛省し、再びここに戻って、頂点へ。

群馬大会代表 群馬県立中央中等高等学校 1年

黛 萌 夏

私は、エコノミクス甲子園に参加する前は、全く経済について興味がありませんでした。友達に誘われて、なんとなく始めてみたのがきっかけでした。最初は、知らない単

語だらけで、また、投資や株式、保険など自分が普段生活していく上であまり関係のない分野が多かったため、本当に経済について楽しく勉強できるのか半信半疑でした。しかし、どんどん経済について知っていくにつれ楽しく、自分たちにも普段から関わりのあるものが多いなと感じ、周りを見渡すとほとんど経済に関係していることがわかりました。

全国大会では、結果は負けてしまいましたが、とても貴重な経験になりました。今回の大会を通して、仲間と協力することの大切さ、時間の有効な使い方など、たくさん大切なことを学ぶことができました。ビジネスラウンドでは、グループの人たちと協力して、一つの会社を立ち上げ、一連の流れを行う中で、大変なこともたくさんありましたが、グループのみんなと協力して会社を立ち上げることができたのは、改めてすごいことだなと思いました。大会も、ただただ経済について知っているだけでは解けない問題など、楽しみながら参加することができました。

この大会を始めるまで全くと言えるほど興味のなかった経済ですが、この大会に参加したことにより、経済に関わる仕事にも興味が湧きました。また、普段目を向けなかった経済のニュースや本なども興味が出て手にとるようになりました。高校生のうちに経済の楽しさに気づけたことはとても素晴らしいことであり、そのきっかけを作ってくださった群馬銀行様をはじめとするエコノミクス甲子園主催者関係者の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

本当に貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。





埼玉大会

11月17日(日)開催

主催 埼玉りそな銀行

参加校一覧 開智未来高等学校、淑徳与野高等学校、栄東高等学校、本庄東高等学校、早稲田大学本庄高等学院、川越東高等学校、埼玉県立熊谷高等学校、埼玉県立浦和高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、埼玉県立川越高等学校

申し込みチーム数 31チーム(10校)

運営スタッフ感想 本年度の埼玉大会には、30チーム59名の高校生の皆さんにご参加いただきました。張り詰めた空気の筆記ラウンドからはじまり、白熱した早押しラウンド、ルール上なかなか展開の読めない決勝ラウンドと大会は大いに盛り上がりました。優勝チームは、栄東高等学校のネーミングセンス。2年生ふたりのチームでした。昨年出場時には決勝ラウンドに残れず悔しい思いをしたため、優勝決定時には涙を浮かべていました。昨年の埼玉大会優勝チーム、埼玉県立川越高等学校のメンバーも本年も参加しており、敗退時には悔しさを滲ませながらも、優勝チームに昨年の全国大会の様子を伝えて激励していたことも印象的でした。高校生の皆さんのひたむきさに励まされる大会でした。今後も多くの高校生の皆さんにご参加いただき、金融経済知識について真剣に、楽しみながら学んでいただくきっかけになるよう、取り組んでまいりたいと思います。

優勝チーム 栄東高等学校
「ネーミングセンス」





埼玉大会代表 栄東高等学校 2年

佐藤 彰真

僕がエコノミクス甲子園に出たきっかけは、僕の部活で伝統としてエコノミクス甲子園に毎年出ていたからです。高1の時に初めてペアの斉藤さんと組んで挑みました。しかし、そのときは県予選決勝にすら行けず、さらに僕の先輩方も決勝で負けてしまい、部としても自分としても、大変悔しい結果になってしまいました。その時斉藤さんの涙を目のあたりにして、このまま負けて終われないと思い翌年の再挑戦を決めました。

そして挑んだ今年のエコノミクス甲子園。埼玉県予選では対策した成果を全て出し尽くすことができ、決勝は全問正解で突破しました。嬉しかったと同時に、これで終わったわけではない、負けた同期たちの思いを背負って勝つんだ、そう思って対策をより一層きつくし、全国大会に臨みました。

全国大会では、数々の貴重な体験ができました。一つ目は、たくさんの仲間と共に二日間生活できたということです。一緒に過ごした同級生たちは、ライバルであると同時に同じ目標を持つ仲間でもあります。彼らの出身地について話したり、一緒に対策したり、自分たちとはまったく違う学校生活を聞いて驚いたり、3日間どんなときも楽しく過ごせました。

二つ目は、自分たちで会社を作って売り上げを競うという普段ではできない経験を積めたことです。同じ会社の担当になった仲間との協調性、欠陥がある部分を見つけて修正する対応力、相手が欲しいものを求める想像力など、普段の試験では計れない力が試されました。そのどれもが、将来必要になります。将来役立つ経験ができ、とてもためになりました。三つ目は、全国大会本番です。YouTube配信されたさんの友達や親戚が見てくれました。これまでクイズ大会というのはなかなかマイナーで知られない存在でしたが、YouTube配信をきっかけにたくさんの人に知ってもらえました。とてもありがたい経験でした。

こういった貴重な経験を積み、運も味方してくれて、僕は決勝まで勝ち上がることができました。去年の悔しさ

を晴らすことができました。この大会を通じて得た知識、経験、友情。どれもが大事なものです。この大会を用意してくださり、本当にありがとうございました。

埼玉大会代表 栄東高等学校 2年

斉藤 春香

この3日間は、今まで体験したことのないような、とても充実していた日々でした。5年間の部活の最後の活動。不安と緊張もたくさんあったけれど、わくわくした気持ちもありました。

迎えた1日目、私はエコノミカはルールを確認していた程度だったので、楽しむ目的で参加しましたが、数回勝ったので良かったです。

2日目に行われたビジネスラウンドでは、仲間との協力の大切さや商売することの大変さを実感しました。プレゼン後の大人方の意見は私たちが気付かなかった点を的確に指摘していて、今まで1つの視点からしか見ていなかったけれどほかの視点からも見てみようと思えました。実際にお金を借りることから販売、書類作成まで1通り体験してみて、すごい大変だったけれど新たに学べたものがいくつもありました。

3日目の全国大会本番。正直、1日を通して私がチームのために役立ったことはほとんどなかったのかもしれないけれど、それでも5位という素晴らしい順位をいただけたことを誇りに思います。地方大会含めて私をここまで導いてくれたチームメイト、全国大会の対策を私たちのために一緒にしてくれた先輩・同期・後輩、それから応援してくれた家族・先生方・友達・クラスメイトには感謝でいっぱいです。

普段交流することない他都道府県の人とお話しできたり、抽選で松坂牛のカレーと肉みそが当たったり、大会ではないときも楽しむことができました。

3日間のすべての活動が大会が終わって日にちがたっても余韻に浸れるようないい思い出です。この余韻に浸りながらも次の受験に向かって頑張っていきたいと思います。





千葉興業銀行 千葉銀行

千葉大会 12月15日(日)開催

主催 千葉興業銀行、千葉銀行

参加校一覧 渋谷教育学園幕張高等学校、柏日体高等学校、東邦大学
付属東邦高等学校、市川高等学校、専修大学松戸高等学校、
千葉県立船橋高等学校、千葉県立国分高等学校、千葉県
立千葉高等学校、千葉県立佐倉高等学校、千葉市立稲毛
高等学校

申し込みチーム数 22チーム (10校)

運営スタッフ感想 千葉大会としては今回11回目を迎えましたが、今年も
多数の高校生に参加いただき、大変素晴らしい大会になり
ました。

昨年度から2年連続での出場チームが多数あり、また、
出場経験のあるご家族からの紹介で今回出場していた
チームもあり、エコノミクス甲子園が「また出場したい
大会」として出場者の思い出に残っているのだと実感し
ました。

決勝ラウンドでは各チーム戦略を考えながら臨んでおり、
接戦が繰り広げられました。

参加された高校生みなさん、本当にありがとうございました。
また、開催にあたり多くの関係者の方々にご尽力
いただきました。重ねて御礼申し上げます。

今後も千葉興業銀行と千葉銀行の2行で協力し合い、千
葉大会をさらに盛り上げてまいります。

優勝チーム 渋谷教育学園幕張高等学校
「激熱ファンタ」





千葉大会代表 渋谷教育学園幕張高等学校 2年

新海 巧人

エコノミクス甲子園。僕が初めてその大会を知ったのはクイズ研究同好会という部活に入った頃だ。当時、冬の時期近づくにつれ、先輩方が対策している姿を見ていくうちに、自分も出てみたいという気持ちが高まり今年ついにエントリーすることができた。

地方予選は期末試験期間直後というアクシデントが起きてしまい、前日に一夜漬けすることしか出来ないまま当日を迎えた。運よく一夜漬けで対策した範囲から問題が多く出た上、普段から早押しボタンに触れているというアドバンテージを活かして、望外の地区大会優勝という称号を手に入れた。そして全国大会。まず現場について、規模の大きさというものをしみじみと感じた。普段参加しているクイズ大会はほとんどが学生や数人の社会人で運営をしているものなので、今大会がとても新鮮だった。その後エコノミカをゆるくやって一日目は終了。二日目。朝、会場についたら抜き打ちでペーパークイズを受けさせられ、メンブレ。その後今年から導入されたビジネスラウンドに挑戦した。最初はただ物売るだけだと思っていたが、融資を受けるためプレゼンしたり、一目置くような広告を作ったりととても大変だった。ただ非常にやりがいがあった。その後前夜祭で楽しいひと時を過ごし三日目、本番を迎えた。正直にいうと対策が全然できてなかったの、あっけなく敗退してしまった。その後、知り合いが壇上で活躍しているのをただひたすら観戦することしか出来なく、めっちゃ悔しかった。

もし来年もエコ甲が開催されたら絶対にリベンジします。最後になりましたが、こんなに素晴らしい大会を開催してくださった運営の皆さん、本当にありがとうございました。

千葉大会代表 渋谷教育学園幕張高等学校 1年

鈴木 涼太

エコノミクス甲子園は僕にとっての初めてのクイズでの成功体験でした。中一からクイズ研究会に入っていますが、成績は良いとは言えず、同期で今回一緒に参加した新海君よりも圧倒的に劣っていました。今回、エコノミクス甲子園千葉大会優勝、全国大会進出ができて初めて、クイズで

成果を残せました。母にとっても喜ばれました。多分決勝合格した時よりも喜んでたと思います。メダルの写真を大量にとっていました。僕も本当にテンションがおかしくなるほど喜んでいましたが逆に冷静になりました（笑）。

全国大会の話をします。初日のエコノミカ大会からフルで参加していたのですが、まず思ったのはすべての手際が良いことです。決勝のクイズ研究会では、毎年渋渋のクイズ研究会と合同でクイズ大会を開くのですが、やはり準備の差だと思いますがエコノミクス甲子園のほうが圧倒的に誘導も、説明も、書類の配布も早く、上手でした。3日間本当にありがとうございました。

具体的な感想について述べます。最近のコロナウイルスで株価が大幅に変わった、という話を聞いて、初めて、「ああ本当に生活と経済は密接にかかわっているんだな」と思いました。2日目のビジネスラウンドでもマスクを販売していたチームがかなりの利益を上げていたのを思い出しました。大会が終わって、忘れてしまったことも多いですが（GATTの正式名称とかもう思い出せない）これからいろんな経験をする中で「なんか聞いたこともあるぞ」と考えるのだと思います。

最後になりますが、エコノミクス甲子園を開催・支援してくださった方々、全国大会まで来てくださった千葉興銀の方々、事務的なことをいろいろしてくださった井上先生、そして、全国大会進出を僕より喜んでくれた父母に深く感謝いたします。

来年は優勝します。

ありがとうございました。





りそな銀行

RESONA

東京大会

12月22日(日)開催

主催 りそな銀行

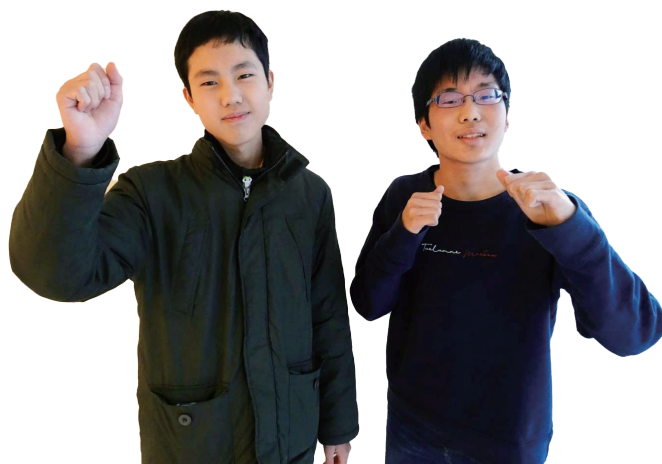
参加校一覧 麻布高等学校、高輪高等学校、開成高等学校、筑波大学附属高等学校、筑波大学附属駒場高等学校、白百合学園高等学校、桜蔭高等学校、桐朋女子高等学校、東京都立白鷗高等学校、東京都立武蔵高等学校、東京都立国際高等学校、東京都立八王子東高等学校、東京学芸大学附属高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、本郷高等学校、早稲田高等学校、早稲田大学高等学院、日本学園高等学校、巣鴨高等学校、国際基督教大学高等学校、八王子学園八王子高等学校、クラーク記念国際高等学校東京キャンパス、お茶の水女子大学附属高等学校、N高等学校代々木キャンパス

申し込みチーム数 42チーム(24校)

運営スタッフ感想 今回のエコノミクス甲子園東京大会は34チーム68名の高校生に参加していただき、激戦が繰り広げられました。休み時間には最後の追い込みで勉強する高校生の姿もあり、皆さんのエコノミクス甲子園に対する熱い思いを感じました。決勝ラウンドは、今回の大会の目玉であるバブル崩壊が最終問題に発生し、最後まで誰も予想ができないドキドキハラハラとする楽しい戦いでした。そんな戦いを見事勝ち抜いた、東京都立武蔵高等学校の天文部の「武蔵お星さま部」の2人には、東京代表として全国優勝を狙っていただきたいと思います。弊社も引き続き金融リテラシーの向上に貢献していききたいと思います。ご参加いただいた高校生のみなさん、開催にあたりご尽力いただいた関係者のみなさま、ありがとうございます。また来年もみなさんとお会いできることを楽しみにしています。

優勝チーム 東京都立武蔵高等学校「武蔵お星さま部」





東京大会代表 東京都立武蔵高等学校 1年
後藤 一矢

この大会で一番印象に残っているのは、大会二日目のビジネスラウンドである。全国大会の前の発表で、僕たちのチームのビジネスアイデアは代表に選ばれていた。とても嬉しいことではあったが、一方でリーダーとしてしっかりやっていけるかどうか不安もあった。全国大会が始まり、ビジネスラウンドで協力することになる学校の人たちと交流した。はじめは緊張したが、すぐに打ち解けて話し合いが進んでいった。緊張のプレゼン。なんと一回目は大失敗で、皆大きくショックを受けた。しかし、このおかげでビジネスの大変さやマーケティング戦略の重要性を学ぶことができたし、この後にグループで一丸となって問題を解決したことは貴重な経験になった。二回目のプレゼンは無事成功。その後も協力して仕入れ、会計、そして販売を行い、大きな達成感とともにビジネスラウンドを終えることができた。ビジネスラウンドが終了したときには僕らの仲は最高に深まり、三日目のクイズ大会でもお互いに応援しあった。その甲斐もあってか、自分のグループのうち2チームが決勝ラウンドまで進出できた。

この大会のおかげで、金融知識やビジネスの手法だけでなくチームワークの大切さを学ぶことができた。この大会の運営にかかわったすべての方々に感謝するとともに、ビジネスラウンドで僕を支えてくれた仲間たちにも感謝をさげたい。

東京大会代表 東京都立武蔵高等学校 1年
小森 玲於奈

私がエコノミクス甲子園を初めて知ったのは部活動の待機時間中に先輩から、誘いを受けた時でした。私は経済に興味がない訳ではなかったのですが、クイズ大会に出れる程の知識は無かったので頂いた教材を使い勉強をしました。頂いた教材は基本的な事から深い知識まで幅広く書かれていたので、効率よく勉強することができました。

地方大会では筆記問題でお互い協力し、わからない問題をカバーしたので良い点数をとり決勝戦まで進む事ができました。決勝戦では終始不利な状態でしたがルールをうまく使い、逆転して勝つことができました。ここでリスクヘッ

ジの大切さを学びました。

全国大会のビジネスラウンドは他校の人々と様々な意見を出し合い投資家への説明を準備しました。自分たちの中では準備万端だと思っていましたが、数字の根拠がない事や値段設定などについて鋭く指摘され、実際に商売をする大変さが分かりました。又いざ売ってみる事で種類が減ってくると売れなくなるといった商品の弱点なども見えてきました。結果としては黒字でしたが改善の余地はかなりあると思います。

最終日の全国大会はとても白熱しており、その場に居るだけで楽しくなりました。第2ラウンドは運要素が多くハラハラする展開が何度もありました。周りのチームがどんどん落ちていくなかで残れるか心配でしたが他チームが動くか動かないかの雰囲気を感じとり残ることができました。準決勝は短時間で良問を探す必要がありましたが他校の問題にも目を通し落ち着いて選ぶことができました。結果的には最大倍率を出すことが出来決勝出場を果たしました。私が選んだので嬉しかったです。決勝のルールはかなり複雑でしたが相方に丁寧に教えて貰うことができました。結果的に決勝で負けましたが、そこまで勝ち進めることができてとても嬉しかったです。また決勝までビジネスラウンドで同じだった栄東がいたので、より楽しめました。

全国大会ではどのラウンドでも周りのレベルがかなり高く切磋琢磨しあえて有意義な時間を過ごせたと思います。またエコ甲のお陰で様々な学校の人と交流が出来て楽しめました。特にビジネスラウンドは協力しないと成功しないので様々な事を話し合いました。とても楽しかったので来年も参加して次こそは優勝してみたいです。





横浜銀行

神奈川大会

12月15日(日)開催

主催 横浜銀行

参加校一覧 藤嶺学園藤沢高等学校、聖光学院高等学校、聖ヨゼフ学園高等学校、神奈川県立追浜高等学校、神奈川県立神奈川総合高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、神奈川県立上鶴間高等学校、清泉女学院高等学校、洗足学園高等学校、横浜雙葉高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、横浜市立南高等学校、桐蔭学園高等学校、桐蔭学園中等教育学校、桐光学園高等学校、栄光学園高等学校、慶應義塾湘南藤沢高等部

申し込みチーム数 37チーム (17校)

運営スタッフ感想 第14回エコノミクス甲子園神奈川大会は、32チーム64名の高校生にご参加いただきました。参加者からは「来年も参加したい」「エコノミクス甲子園をきっかけに、経済分野への知見を広げ、自分の成長につなげることができた」「もっと他の人にも知ってもらいたい」等、うれしい感想を多くいただきました。今後もたくさんの高校生に楽しんでいただけるよう、一層大会を盛り上げていきたいと思います。

優勝チーム 慶應義塾湘南藤沢高等部「SFC」





神奈川大会代表 慶應義塾湘南藤沢高等部 2年
安 陪 玲 音

2/7-9に行われた第14回エコノミクス甲子園に参加した。友人が参加すると言っていたので、ちょっとした興味から相方を誘い地方大会に参加した。まさか勝てるとは思っておらず、その友人に負けたくないという程度の思いだった。しかし実際に参加してみると決勝ラウンドのルールが上手くいったのもあり、ギリギリ勝つことが出来た。地方大会の時の自分たちのレベルは非常に低かったが、全国大会でまさか同じような戦いをする訳にはいかないと思い、地方大会後は集中的に勉強した。残念ながら全国大会では第2ラウンドで負けてしまったが、前日に行われた予選では2位をとることが出来、また決勝ラウンドなどの問題も分かるものがいくつかあり、全国大会までの勉強はしっかり力になっていたと思う。勉強の過程では元々ニュースをほとんど見ない自分にとって、初めて聞く話ばかりであり苦戦した。だが裏を返せば、エコノミクス甲子園が無ければ自分は一生縁がなかったであろう話だった。しかし今はニュースを見ると株価などの情報に目がとまるようになった。また、もっと学びたいと思っている。そして必ず来年もう1度参加し、次こそは結果も得たい。このように思えるのは間違いなくエコノミクス甲子園のおかげであり、貴重すぎる機会をいただいたことにとても感謝している。

また、本選前日にはビジネスラウンドとして他校と協力して模擬的にビジネスを行うラウンドがあった。当日朝に初めて話す相手ばかりであったが、1日中協力することで絆が深まり、大会から半月が経った今でもSNSで連絡を取っている。ただ未知のことを学べただけでなく、大切な友人を得られたこの大会に参加させていただき、改めて本当にありがたく思っている。

神奈川大会代表 慶應義塾湘南藤沢高等部 2年
臼 井 大 貴

エコノミクス甲子園、この大会は僕の一生の宝物となる出会いや思い出が詰まったものでした。この大会の中で最も印象に残っているのはやはりビジネスラウンドでした。ビジネスラウンドは各チームがビジネスプランを提出し、

そこから実際に行う10チームのプランが選ばれるというところから始まりました。僕はチームメイトと話し合い、様々な地方の特産品を詰め合わせにしたセットを作ろうと考え、自信满满で提出をしました。しかし、結果は落選、落胆しながらも選ばれた10案からやりたいものを選びました。そして、迎えたビジネスラウンド当日、早朝に自分が入る企業が発表され、僕は福井県の高志高校の企業に入り、スマホ・イヤホン用お掃除セットを作ることになりました。偶然にも自分が第一志望にしていた企業で非常にうれしかったです。しかも、前日に銭湯で話していた相手でもあったので、少し運命的なものを感じました。そして、朝ご飯で初めて企業のメンバー十人全員が顔をそろえました。みんなお互いに緊張していて、あまり会話が弾まない中、僕のチームメイトが朝からすごい量のご飯を食べ、コーラを飲んでいて少し笑いが起き、場が少し和みました。このことに僕はひそかに感謝をしています。そのおかげで商品の内容の理解、役割の分担がすんなりと終わりました。そして、最初に待ち構えていたイベントがベンチャーキャピタルへの事業資金獲得プレゼンでした。みんなでプレゼンを用意し、いざ発表をしたところ、様々なところに指摘が飛び、特に僕たちの商品が一体何に価値を見出しているのかについてベンチャーキャピタルの方に厳しく指摘されました。この時、正直に言うと僕は内心すごい難癖をつけてくる嫌な人であると思いました。しかし、そこでめげずに、みんなでもう一度話し合いをして、指摘されたところを必死に改善しました。そして、迎えた二回目のプレゼンでもう一度発表をすると、先ほど嫌な人だと思っていた人が実際に事業にやるときのことなど色々とアドバイスをいただきました。ここで僕は、この人は難癖をつけているのではなく、本気でこの事業を成功するために僕たちにわざと厳しくしていたことに気づき、先ほど思っていたことを心底後悔しました。そして、私達の商品は今コロナウイルスが流行っているなかで、除菌をすることができるという点が人々の需要に一致していて、「もっている」プランであると言われたときはうれしかったです。この言葉に鼓舞された僕たちはそれぞれが自分たちの仕事をこなしていきましました。僕自身は会計というミスの許されない仕事をやっていましたが、社長の手助けやほかのメンバーのちゃんとした管理のおかげで、何とかやっていけました。コロナウイルス流行の影響で一時は商品の一部の欠損もありましたが、供給班の活躍でその事態は回避しました。そこからはみんなで商品を作り、値段なども改めて決め直し、本番の販売会を迎えました。販売会ではみんなが必死に声を出し、宣伝をして売りましたが、結果として売り上げ目標の少し届かない結果となりました。しかし、このビジネスラウンドという企画を通じてみんなで本気で話し合い、時には楽しみ、困難を乗り越え、かけがえのない仲間が出来ました。そして、本格的な模擬ビジネスというものを体感して、その難しさや面白さというものを身にしみて感じました。本当にこのビジネスラウンドは僕の人生の宝物となりました。

ちなみに本大会自体は2回戦で一度敗れ、敗者復活戦でも敗れてしまい、思うような結果を残すことができませんでした。しかし、この大会の中で、同じ企業だった者同士、ワンチームとなって、個人戦ではなくあたかも団体戦であるかのように戦うことができました。結果として、同じ企



業であった新潟高校が3位になったときは自分のことのようにうれしかったです。

このように、この大会の中で様々な経験をし、かけがえない仲間も作ることができました。心からこの大会に出て良かったと思いました。







第四銀行



北越銀行

新潟大会

12月8日(日)開催

主催 第四銀行、北越銀行

参加校一覧 新潟青陵高等学校、新潟県立高田高等学校、新潟県立新潟高等学校、新潟県立新潟南高等学校、新潟県立巻高等学校、新潟県立五泉高等学校、新潟明訓高等学校、新潟市立高志中等教育学校

申し込みチーム数 26チーム(8校)

運営スタッフ感想 第7回新潟大会では、25チーム49名の高校生にご参加いただきました。

優勝した「ホメオスタシス」は、昨年4位入賞したチームで惜しくも優勝を逃してしまいましたが、見事に雪辱を果たし、全国大会の切符を手に入れました。全国大会でのさらなる飛躍を期待しています。

そのほかの参加者からも、「金融経済を楽しく学べる機会をいただきありがとうございました!」「来年も絶対出ます!」など、意欲あふれる感想を多くいただきました。これからも、新潟の未来を担う高校生みなさんが、金融経済について楽しく学べる大会の運営を目指してまいります。

優勝チーム 新潟県立新潟高等学校
「ホメオスタシス」





新潟大会代表 新潟県立新潟高等学校 2年

水田 智也

今回私はエコノミクス甲子園を通して様々な経験をさせていただきました。まず土曜日のビジネスラウンドについて。本物の投資家の人たちが気になさる事業の観点や力を入れていきたいと思う分野など、とてもリアルな体験をすることができ、また私は法務係をさせていただいたのですが、本物の契約に触れることができたのも、自分の進路選択の中で間違いなく役立っていくと感じています。さらに事業計画、商品販売においてもいきなり朝に顔を合わせたメンバーたちと意見を交わし合い、どのような点で自分たちの事業が優れているのかという本質に協力して向き合い、市場調査から会計まで作業分担をしつつ行いました。紙の上で事業を計画しても実際の販売となると思ったように事が進むことが少なく、その難しさを痛感したと同時に、その後の藤野様のご講演の中にもありましたが、「仕事を楽しむ」ということの一端を見ることができたように思います。大学を経て社会に出る際には今回の経験を思い出し、やりがいのある社会貢献を達成したいです。また、事業で成功を収めた仲間たちに感謝しています。次に二日目の本戦について。金融知力はもちろんのこと、他のチームの人がどのように動かす状況に応じて予測し、作戦を立てる力も必要であり、二重の難しさがあったように思います。決勝ラウンドでは優勝された北野高校のお二人は圧巻の知識量でまだまだ自分の力不足を痛感しましたが、一日通して大いに楽しませていただきました。最後になりますが、三日間の大会を企画及び運営してくださった方々、大会期間中本番もさることながら宿舎などにおいても丁寧に対応してくださったスタッフの方々に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

新潟大会代表 新潟県立新潟高等学校 2年

岩田 侑馬

私はエコノミクス甲子園に参加し、自己の無力さを痛感しました。

2日目に行ったビジネスラウンド。我々のチームは最高点を稼ぐことができました。その提案者であるCEOと副CEOの2人のプレゼン力、対応力と企画力にはただ驚嘆させられるばかりでした。また、完成度の非常に高いカラー

の説明書をスマホのWordで作成し、印刷する仲間の姿を見てデザイン能力の高さを感じ、尊敬の念を感じました。その他にもポスターや販売、財務、法務といった様々なジャンルに初挑戦にもかかわらずうまくやってのける仲間たちを見て、自分に足りていないものを感じました。この10人それぞれの個性が噛み合ったからこそ総資産2.8倍という大成功を収められたのだと思います。

また、話を聞くと数学オリンピックや生物オリンピックといったものの日本代表候補である人も出場しており、その人たちの知識量に対し感動しました。

これらのことから、私は自己の能力に圧倒的に足りないものを感じました。今後私も地理オリンピックに参加したり、様々な活動に参加してみたりして学力以外にも自分の能力を向上させたいと思わせる大会でした。

最後に、決勝ラウンドでも自分を応援してくれた仲間たち、地方大会から散々助けてくれた相方、このエコノミクス甲子園を企画運営してくれたスタッフの皆さん、本当にありがとうございました！！





北陸銀行

富山大会 ————— 12月8日(日)開催

主 催 北陸銀行

参 加 校 一 覧 片山学園高等学校、富山高等専門学校 射水キャンパス、富山県立高岡高等学校、富山県立石動高等学校、富山県立水橋高等学校、富山県立富山高等学校、富山県立富山南高等学校、富山県立富山中部高等学校、富山県立南砺平高等学校

申し込みチーム数 20 チーム (9 校)

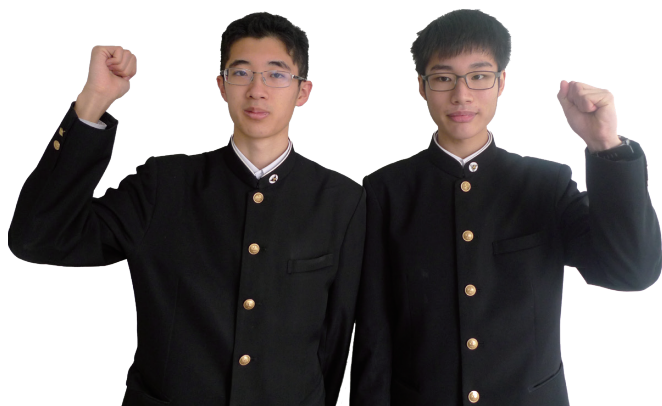
運営スタッフ感想 今回は 19 チーム 38 名に参加いただきました。早押しラウンドではほとんどの問題で回答がなされ、チームワークのよさや勉強の成果がうかがえました。結果は最終ラウンドでリスクヘッジ札を戦略的に駆使した「鉄芯」が、予選ラウンド 1 位通過チームを抑えての優勝となりました。

高校生からは「学んだ知識を活かして楽しかった」「エコ甲をきっかけに授業では得られないような情報を得ることができた」「今後もぜひ続けて欲しい」といったコメントが寄せられ、スタッフ一同喜ばしく思いました。

来年もより良い大会にできるよう、スタッフ一同取り組んでまいります。

優 勝 チ ー ム 富山県立富山高等学校
「鉄芯」





富山大会代表 富山県立富山高等学校 1年
村上 陽亮

【感想文未提出】

富山大会代表 富山県立富山高等学校 1年
村井 陽人

自分にとってはクイズ大会自体に参加することが初めてで、その上全国大会にも行けたのはとても良い経験になりました。

今回この大会に参加するにあたり、頂いた教材を使って勉強を一生懸命したのですが、それを通じて様々な金融・経済に関することを隅々まで知ることができました。自分たちの生活にも深く関わっていることや、将来の自分の経済的な人生設計をこの機会に考えることができ、まさに「金融知力普及のための」のクイズ大会という感じで、とても有意義な機会となりました。

他にも歴史的な貨幣の問題だったり、歴史に名を刻んだ経済学者の問題も出てきて、そういう面では金融知力というよりは「クイズ大会」の側面も強く持っているように感じられて、うまい具合にできている大会だなとも感じました。自分たちのチームはあまり結果は芳しくはなかったのですが、いろいろな問題で出てくるにつれ、さらに知識が蓄えられた気がしました。

そしてメインのクイズ大会以外にも、今回は「ビジネスラウンド」というラウンドも設けられ、そこで実際の株式会社の運営というものを身を持って経験できました。普通に高校生として生きていたらまず経験できないようなことができて、ちょっとしたアドバンテージのようなものを感じられました。企業の運営は実際大変だったけれども楽しくて、特にあの日は最高の1日でした。

こうして大会全体を振り返ると、自分の為になることもあり、楽しかったこともあり、といった感じで充実した全国大会であったように思います。

今回は優勝を逃しましたが、自分は1年生なのでまだ大会に出るチャンスが残っています。またしっかりと知識を身につけて、もう1度エコ甲に参加したいと思います。この大会を開催してくださった皆さん、本当にありがとうございました！





北國銀行

石川大会

12月15日(日)開催

主催 北國銀行

参加校一覧 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、石川県立金沢錦丘高等学校、石川県立金沢泉丘高等学校、石川県立金沢商業高等学校、石川県立小松商業高等学校、日本航空高等学校石川

申し込みチーム数 30チーム(6校)

運営スタッフ感想 石川大会としては過去最多の29チームの参加となりました。

予選・早押しラウンドから白熱し、会場は大変盛り上がりしました。

決勝ラウンドでは、スタート1問目から全チームが正解し、目が離せない展開となりましたが、最後は1年生コンビの金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校「カノープス」チームが抜け出し見事優勝!

今年は個性的なチームが多く、例年以上に会場の雰囲気も盛り上がりしました。今後も地域の学生に向けた金融や経済の知識を得られる場を提供していきたいと思います。

優勝チーム 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校「カノープス」





石川大会代表

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 1年
森 湊

エコノミクス甲子園全国大会が行われた3日間は自分にとってすごく意味のあるものになった。

1日目はエコノミクスで全国各々の代表の高校生と交流した。私は1年生での参加だったが、学年の差など関係なく、気さくに話してくれた。初めての交流で緊張もとけ、和やかな時間となった。

2日目はビジネスプランを練り、販売までするという日だった。法務の仕事を中心に、製品の生産にも関わり、チーム10人一体となって協力できた。エコノミクス甲子園3日間の中で、この日が最もハードスケジュールであった。しかし、その分初対面の仲間と協力して1つの事をする楽しさや充実感を得ることができた。

3日目は本命のクイズ大会。1回戦の早押し対決では北野高校と対戦した。しかし、緊張からか僕の凡ミスで敗北した。相方への申し訳なさや悔しさ、責任で押しつぶされそうだった。

しかし、1つだけ胸を張って石川県に帰ることができるものがあつた。それは「予選1位」

という結果だ。ペーパーテストもあつたが、やはりビジネスプランの売上げが大きかった。同じ会社のメンバーには本当に感謝の気持ちでいっぱいだ。同じグループになったメンバーとは、最後の日に別れを惜しむほど仲良くなった。

全国のメンバーのレベルの高さ(知識、学力、プレゼン力、コミュ力、社交性)には刺激を受けた。また、相方とは、遠慮もいらない関係で、2人楽しく勉強できたと思う。感謝の一言に尽きる。自分を様々な方向性から成長させてくれたエコノミクス甲子園。来年も参加してリベンジしたいと思う。

石川大会代表

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 1年
和田 薫平

私は、今回エコノミクス甲子園に出場してとても貴重な体験ができたと思います。特に2日目のビジネスラウンドが最も印象に残っています。

全国から集まった高校生と意見を出し合って1つのものに仕上げ、投資家の前で実際にプレゼンをするなんていうことはなかなかない機会だと思います。さらに、販売を行って利益を出すという商業的なことまでできて有意義な1日でした。また、いろいろな人と話し合うと様々な考え方が見えてきて、とても面白かったです。

3日目は勝負の日。前日の予選でまさかの1位という結果で、まずそこに驚いてしまいました。それと同時に、とてつもないプレッシャーを感じていました。しかし、結果はなんとも不甲斐ない成績でした。自分の今までの勉強不足を目に見える形で知り、未熟さを痛感させられました。この悔しさを糧にして、より一層知識量を増やして来年の大会に再挑戦したいと思います。

エコノミクス甲子園に参加してみて、後悔が残る結果になった感じはありますが、経済や金融に興味を持つきっかけになり、今まで自分とは関係ないと思っていた世界に一歩足を踏み入れてみるというのはなかなか面白いことだなと感じました。

今回の大会で学んだことをこれからの生活に活用していきたいと思います。大会を運営してくださったスタッフの皆様、サポートしてくださった皆様、本当にありがとうございました。





北陸銀行

福井大会

12月15日(日)開催

主催 北陸銀行

参加校一覧 福井県立高志高等学校、福井県立金津高等学校、福井県立藤島高等学校、福井県立若狭高等学校、福井県立羽水高等学校、福井県立福井商業高等学校、福井県立武生高等学校、福井県立武生東高等学校、福井県立坂井高等学校、福井工業大学附属福井高等学校

申し込みチーム数 40チーム(10校)

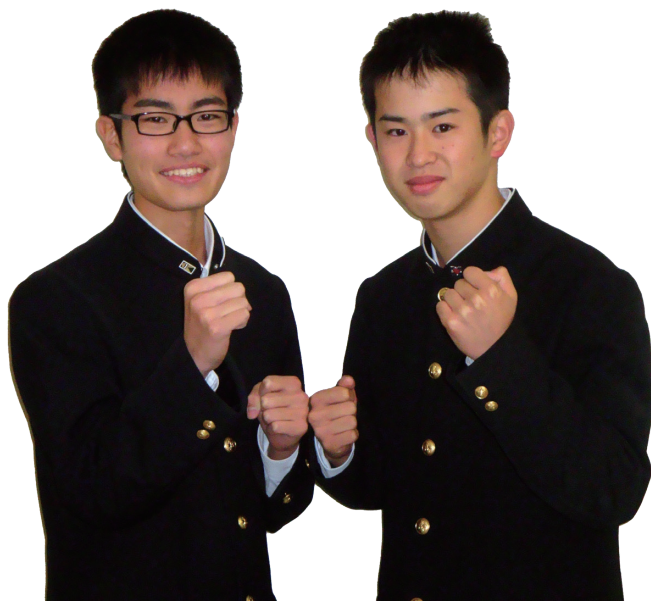
運営スタッフ感想 今回は35チーム70人に参加いただきました。早押しラウンドでは勢いよくピンポンを押すチームが続出し、会場を沸かせました。最終ラウンドでは3回のバブル崩壊が発生する波乱の展開でしたが、リスクヘッジ札でピンチを切り抜けながら10問中9問正解した「チームk」が優勝となりました。

高校生からは「今後の人生に役立つ知識を得られた」「パートナーと協力して取り組めて楽しかった」「来年も必ず参加したい」といったコメントが寄せられ、スタッフ一同喜ばしく思いました。

来年もより良い大会にできるよう、スタッフ一同取り組んで参ります。

優勝チーム 福井県立高志高等学校
「チームk」





福井大会代表 福井県立高志高等学校 1年
堀内 智尋

私は、今回エコノミクス甲子園に出場して多くの素晴らしい経験をさせて頂きました。

まず1つ目は、エコノミクス甲子園の友人が多くできたことです。二泊三日の行程の中で一緒に厳しいスケジュールを耐え抜いた仲間達は、私にとってとても良い存在となりました。『また来年、全国大会で会おう。』と言われた時、私も思わず『当たり前だ!』と言ってしまったのを覚えています。

2つ目は、ビジネスラウンドです。ビジネスラウンドでは、実際に商品进行を売るといふ、全く思いつかない競技をすることになりました。大人の方々と会議をするのは本当に怖くて怖くてたまりませんでした。出資して下さることを示して貰えた時、本当に安心しました。なぜなら出資して頂けないと、プランを遂行出来なかったからです。質問に答えられなければ試合終了だ!という気持ちで臨んだので、相手にも納得して貰えたのかなと振り返っています。

最後に、本戦です。

本戦はあっけなく負けてしまい、申し訳なさを感じたり自分の知識の無さをまじまじと思い知らされました。でも来年必ず戻ってきて、みんなともう1回挑みたいと強く感じました。

今回のエコノミクス甲子園の開催に携わられた、全ての方々に感謝しております。ありがとうございました。

福井大会代表 福井県立高志高等学校 1年
岡本 孟士

今回は私が第14回エコノミクス甲子園地方大会、全国大会に参加しての感想を書きます。

まずは地方大会についてです。僕はクイズの大会に参加したことがなかったので最初は興味本位で参加しました。準備では主にペアの友人と放課後勉強しそのため筆記の点

数は地方大会でトップを取ることが出来ました。しかし出来ない早押しではミスが多く悔しさ残る大会でした。

全国大会は地方大会とは比べ物にならないくらい濃密な大会となりました。まず、始まる前から僕たちのチームはメンバーが体調不良でリタイアしてしまいました。そのため僕たちは金融の知識ではほかのチームにかなわないと感じたのでそれ以外の部分で勝負していこうという作戦を立てました。大会の本番はとりあえず疲れる、というのが戦っているときに思ったことです。土曜日は朝からビジネスラウンドが発表され朝食ではビジネスラウンドのことしか考えていませんでした。しかしその直後に筆記試験があり焦ってしまい自分の臨機応変力のなさを実感しました。またもともとおなかが弱いのでその時体調も悪く全く納得のできる内容ではありませんでした。全員同じ条件だと思うのでこのような臨機応変に対応できる力をこれからの一年意識して身に付けられるようにしたいです。ビジネスラウンドでは運よくCEOとして同じ会社の9人を背負う立場にありみんなの本選の結果にもかかわってくるので僕はリーダーとして、仲間のみんなもそれぞれの役割をてきぱきとこなし不可能かと思われた仕事も共同作業によってこなすことが出来ると分かりこれから社会に出る中で重要な経験をできました。ここでCEOとして参加できた経験は将来になっても忘れないと思います。その後藤野さんの働くことを楽しむべきという基調講演、全国の地銀の人が集まりお話を伺うことが出来たレセプションパーティーなどこんでやくだつものばかりでした。本選は感想を書けないほど周りに圧倒されてしまったのでもっと力をつけて来年挑みます。主に準備とビジネスラウンドの感想になりましたが次回は本選の感想が書けるほどの実力をつけたいです。今回は素晴らしい経験をありがとうございました。





ふれあい、さわやか

山梨中央銀行

山梨大会

12月15日(日)開催

主催 山梨中央銀行

参加校一覧 駿台甲府高等学校、甲府市立甲府商業高等学校、山梨県立韮崎工業高等学校、山梨県立甲府南高等学校、山梨県立山梨高等学校、山梨学院高等学校、北杜市立甲陵高等学校

申し込みチーム数 28チーム(7校)

運営スタッフ感想 山梨大会は今回で9回目の開催となり、7校・26チームに参加いただきました。実力が伯仲するなか、白熱した戦いが繰り広げられ、予選第6位で決勝ラウンドに進出した甲府南高校の1年生チーム「午後の恒河沙」が優勝し、全国大会への切符を手に入れました。

今大会は、昨年に続いての参加者も多く、2連覇を目指したチームやリベンジに燃えるチームの対戦などで大変盛り上がりました。また、参加者からは「金融経済を学ぶ良い機会になった」「新たな知識が身に付いて良かった」「来年も参加したい」などの感想をいただきました。

ご参加いただきました高校生の皆さま、開催にあたりで尽力いただいた関係者の皆さま、ありがとうございます。皆さまのご協力で笑顔と充実感に満ちた素晴らしい大会になりました。今後も、高校生の皆さまが金融経済について興味を持っていただくきっかけ作りの場として、山梨大会を開催していきたいと思います。

優勝チーム 山梨県立甲府南高等学校
「午後の恒河沙」





山梨大会代表 山梨県立甲府南高等学校 1年
長澤 洸青

はじめに、欠員補充の為急遽出場することになった私の為に迅速に対応してくださり暖かく迎えてくださったエコノミクス甲子園スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

初めての全国大会は何もかもが初めての体験でとても新鮮だった。二日目のビジネスラウンドでは洛北高校の案であるインスタントコーヒーのまとめ売りを企画、販売した。投資を受けるためのプレゼンテーションや会社の登記、決算短信まで日常生活の中ではあまり耳にしない言葉の中で本格的に会社の運営を体験できたことは非常に貴重な体験だった。チーム一丸となり運営ができたことで商品は完売。すごい充実感だった。チームメイトの洛北、高松、徳島城東、宇都宮の方々と協力して作り上げた達成感と思い出は一生忘れることのできない大切なものとなった。三日目のクイズ大会本戦では自分の実力が出し切れなかったものの良い経験となった。やはり、みんな強い。クイズ研究会の代表として参加していたのもう少し自信をもって戦えたらよかったと思う。そして、閉会式の野中さんのお話に心打れた。来年はぜひ同じ舞台でリベンジしたい。

今回の大会で最も感じたことは人との繋がりだ。普段平凡に生きていたら絶対に出会っていなかっただろう京都や、香川などの遠方の友達ができた。全国大会に来ていなかったら一緒にご飯を食べることもなかっただろうし、喜びを分かち合うことはなかった。この運命的な貴重な出会いに感謝したいと思う。エコノミクス甲子園はOB、OGとの交流も盛んだと知った。私も大学生になったらエコノミクス甲子園に恩返しをしたい。

山梨大会代表 山梨県立甲府南高等学校 1年
野村 康介

2日目の朝、ビジネスラウンドの説明かと思ったらいきなりペーパークイズ。このタイミングで来るのとても驚いた。手ごたえもあまりなくまずいと思った。そしてビジネスラウンド。書類の提出がギリギリだったリプレゼン

は2回来たりと午前は忙しかった。午後看板やアピールポイントを書いた。そして調達担当が帰ってきてコーヒーを袋詰めしようとしたとき問題が起きた。当初14種類のコーヒーを買う予定だったがそこには12種類しかかった。連絡ミスが起きていた。すぐにコーヒーをどう売るか話し合った。そして12本ずつ売るのが11本に変えた。そして時間を迎え売り始めた。最初は売っていたものの後半売れなくなってきた。そこで私は他のチームでやっているクイズをお客さんと一緒に考えてそれと引き換えにコーヒーを買ってもらおうとした。これが功を奏して2,3人の人を買ってもらった。自分でも名案だなと思った。しかし、もっと早く気づけばよかったとも思った。そして売り切れた。ここまで大変だったけど、その瞬間本当に嬉しかった。みんな協力して自分たちの手で新しいものを作るって本当に楽しいと思った。そのおかげで前夜祭もすごく楽しめた。抽選で喜多方ラーメン当たってうれしかった。

本選では予選敗退だったけど、それ以上のものが得られた。この悔しさをばねに来年必ずこの舞台へ戻ってくる。そしてニューヨークへ！





八十二銀行

長野大会

12月1日(日)開催

主催 八十二銀行

参加校一覧 長野県長野工業高等学校、長野県諏訪清陵高等学校、長野県松本県ヶ丘高等学校、長野県松本深志高等学校、長野県上田高等学校、松本秀峰中等教育学校、佐久長聖高等学校

申し込みチーム数 16チーム(7校)

運営スタッフ感想 長野大会は今年で7回目を迎え、6校13チーム26名の高校生に出場していただきました。配布教材以外の書籍を購入し勉強してきた高校生、ニュースや新聞を通して知識をつけてきた高校生、早押しの練習を積んできた高校生・・・様々なエピソードを聞き、この大会にかけ熱い思いを感じることができました。今大会も早押しクイズ・決勝ラウンドで、順位が入れ替わる場面もあり、大変盛り上がる展開となりました。

最終的にチーム「チャート式」が優勝し、上田高等学校が初優勝を成し遂げました。

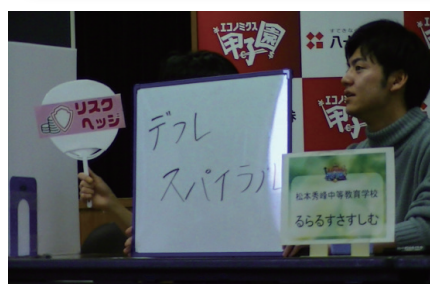
今大会は昨年に続いて参加した高校生や、先輩から大会を教してもらい参加した高校生が多く、エコノミクス甲子園の地名度・魅力が代々受け継がれていることを実感いたしました。

また「来年も必ず参加します」、「この大会で学んだことは忘れません」という声をいただき、スタッフも大変嬉しく感じます。

エコノミクス甲子園を通して、長野県の未来を担う高校生を今後も支援して参りたいと思います。

参加いただいた高校生の皆さま、ご協力いただいた皆さまに感謝いたします。

優勝チーム 長野県上田高等学校
「チャート式」





長野大会代表 長野県上田高等学校 1年

花岡 愛梨

エコノミクス甲子園は、出て良かったと心から思える素敵な大会です。1日目のエコノミカ大会の時はまだ初対面だったのですが、最終日の大会終わりは「またね!」「3日間ありがとう!」といった声が沢山聞こえてきました。たった3日間だけでしたが、この3日間を通じて最高の仲間に出会えると思います。特にビジネスラウンドで同じ企業だった仲間は朝の時に初めて会ったのに夜の立食パーティーの時は、「数年間友達です。」と言っても過言ではないくらい親しくなれたと思います。

しかし、周りの高校生から刺激を受ける場面もありました。それは、もちろん全国大会の時です。自分自身の知識の無さを痛感し、絶対来年戻ってくると強く思いました。私の知らない言葉が沢山出題される中、正解を連発する出場者の方々の姿はとてもかっこよく、同時にあの姿が来年の私の目標となりました。

ではここで、来年全国大会が決まった皆さんに絶対に役に立つアドバイスをこの場を借りてしたいと思います。まず1つ目、1日目の夕飯は時間に余裕をもって食べに行きましょう。私達は16:00には、東京駅に着きましたがそれから時間は一瞬で過ぎさり、結果ファミマのツナマヨオンリーになりました。2つ目、ペンは持ち歩きましょう。最終日の大会では、スマホ持ち込み禁止のためお昼の時間にTwitterのID交換でメモを取れるものを持っていた方が良かったです。3つ目、エコノミカのビルトインスタビライザーは、神。

最後になりましたが、この大会を運営してくださったスタッフの皆様を始めとするスポンサーの方々、八十二銀行の皆様本当にこのような素敵な大会を開催して下さい有難う御座いました。また、金子森育英奨学金の選考委員会の皆様は、就学支援生に選考して下さい有難う御座いました。

長野大会代表 長野県上田高等学校 1年

金子 凜太郎

前にもクイズの大会でオリンピックセンターに行ったことがあるんですが、その時はセンター棟しか使わなくて、今回宿泊して、想像してたより大分大きいことが判明しました。エコノミカ終わってA棟行くまでの間でそこそこ歩いたので、広そうだとは思っていたのですが、部屋についてしおりについている地図見て「おお!」ってなりました。まあ部屋は思ったよりかは小さかったのですが、チャート式をやる分には十分なスペースが確保されていて、もうそれだけで満足です。さらに、これだけ広いなら少しは迷うだろうと思っていたのですが、なんと一回もそのようなことがなかったです。純粋に自分を褒めたいですね。おめでとうございます。





十六銀行

岐阜大会

12月1日(日)開催

主催 十六銀行

参加校一覧 鶯谷高等学校、聖マリア女学院高等学校、岐阜県立関高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、多治見西高等学校

申し込みチーム数 18チーム(5校)

運営スタッフ感想 本年は4校17チームにご参加いただきました。混戦状態だった決勝ラウンドを、見事勝ち抜き全国大会への切符を手にしたのは、岐阜高校2年生「Ad hoc」。参加者からは、「とても勉強になった。来年はもっと事前準備に時間をかけて挑みたい。」等の感想が多く寄せられ、スタッフ一同大変嬉しく感じております。

最後になりましたが、岐阜大会開催にあたりご支援賜りました金融知力普及協会の皆さま、ご後援を賜りました皆さまに心より感謝申し上げます。

優勝チーム 岐阜県立岐阜高等学校「Ad hoc」





岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校 2年

古川 慧一

1年前に挑戦した地方予選は早押しであまり上手くいかず、全国大会出場を逃してしまい悔しい思いをしました。その経験もあり必ず全国に行くのだと、毎日経済ニュースをチェックし、充実した対策が出来たと思います。全国大会では、事前に配られた資料がほとんど参考にならないほど高難易度の問題ができました。しかし、事前にとある証券会社の用語集をすべて覚えた努力が報われたのか、非常に運要素の大きい予選を抜けて準決勝まで進出することができました。しかしながら、その準決勝では、また運が悪かったのか、正解数は多かったけれど惜しくも敗退してしまいました。大会全体を通してみると本当に楽しくて他の代表の方々と沢山交流ができ、とても貴重な体験だったと思っています。他の代表者達のレベルの高さは想像よりもはるかに高く、今まで経済の話はあまり学校の友達とはできなかったのが、大変貴重な時間を過ごせました。出会う人材はやはり素晴らしい人が多く、ランチタイムに投資会社勤務のプロの方に、ESGがある本当の理由や、昨今の金融バブルについて特別に僕に語ってくださった経験も印象的です。エコノミクス甲子園と関わらせて頂いたこの経験は自分の中で重大なものであり、ずっと忘れない思い出です。実力テストを捨てさせてしまった相方、関わってくれた全国の高校生の皆様やスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校 2年

松岡 巧馬

僕の父は銀行員で、株をやっています。しかし僕は別に、経済学部に進学するわけでも、まして経済に興味があるわけでもありませんでした。この大会に出場したのも、株をやっていて、経済学部を目指す相方が誘ってきたからで、それ以外の理由はありませんでした。強いて言うなら、東京に行けるのなら、新幹線の切符を売却して懐を満たすところまで考えました。しかし、いざ参加すると周りの熱

意がすごく、歴とした大会なのだと判りました。それが一年生の時で、そのときは学年では勝っていましたが、二年生に負けていました。

ここから火がついたのか、二年生になった時はテストを返上して、地方大会当日は昼過ぎからの開始にむけて、朝7時から勉強をするほどでした。そこで優勝し、東京大会に行きました。ここでもテストが近かったのですが、これも返上して臨みました。テストは何回あってもエコノミクス甲子園は一回だけですから。

一日目のエコノミクス大会は、さして面白いわけでもありませんでしたが、大会メンバーと触れ合えたのが良かったです。参加していないチームもいましたが、参加した方が良かったと思います。

2日目に筆記、ビジネスラウンドがあり、3日目に本戦がありました。3日目初めに、順位番号が配られました。ビジネスラウンド最下位。最下位。最下位。最下位けども、筆記の点数だけでビリ二番目のチームのビリを抜かしていました。

第一ラウンド、早押し。早押しはめっちゃくちゃ苦手でした。地方大会もこれに苦戦しました。問題運も悪く、案の定負けました。しかし、敗者復活戦があるので、この時は負けてもいいと思っていました。

昼休憩ののち、配られたのは二枚の紙。第三ラウンドという名の敗者復活戦と、そこから落ちた者と第二ラウンドの敗者の復活戦でした。つまり、早押しの勝敗に関係なくチャンスは二回あったということです。予想通りかと思っていました。しかし、負けは負け。敗者には32分の2という恐ろしく狭い門をくぐる必要があったのです。第二ラウンドでは運しか頼れるものが無かったので、負けて良かったのですが、それでも準決勝に行くのは至難かと思われました。ところが多答クイズで生き残り準決勝へ。まさに運に負かされ、運で這い上がりました。

準決勝。これも運でした。正答数はどのチームも一定でしたが、これにかけられる倍率が命運を分しました。それは予測不能で、運良く倍率3を乗せられた3チームが決勝に進み、3以外に当たった残りは敗退しました。僕は後者でした。ここで、僕のエコノミクス甲子園は終わりました。運に負かされ、運に持ち上げられ、また運に負かされました。

決勝は実力の要素が多かった分マシでしたが、今大会は運要素が高すぎると思いました。第二ラウンドなんて運しか頼れるものがありませんでしたし、準決勝なんか3倍を当てないと負けでした。1倍以下をとった洛北高校は実力でいえば、優勝だったのに、ここで負けています。努力したものが報われないというのは、社会の縮図みたいで面白いのですが、それでもバランスが良くないのではと思いました。なので、大学生になってから、問題を作る側に立って、もっと実力が考慮されたものを作りたいと思いました。

そして今大会を経て、経済に少し関心が湧きました。特に株取引。大学に行ったらやってみたいです。

また、改めて今大会を企画運営していただいた皆様に僕個人ですが感謝申し上げます。ありがとうございました。



静岡銀行

静岡大会

12月15日(日)開催

主催 静岡銀行

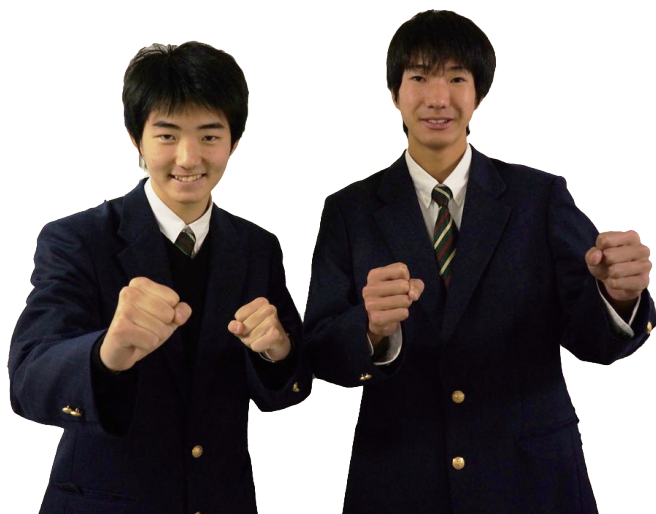
参加校一覧 静岡雙葉高等学校、静岡県立静岡高等学校、静岡県立藤枝東高等学校、静岡県立藤枝北高等学校、静岡県立焼津中央高等学校、静岡県立浜松西高等学校、静岡県立浜松商業高等学校、静岡県立沼津城北高等学校、静岡県立沼津商業高等学校、静岡県立島田商業高等学校、知徳高等学校、浜松学芸高等学校、富士市立高等学校、加藤学園暁秀高等学校

申し込みチーム数 40チーム(14校)

運営スタッフ感想 9回目を迎えた静岡大会。今回は、過去最高となる35チーム70名の高校生がエントリーし、参加者同士はもちろん、スタッフとの交流を通じて楽しい大会となりました。高校生の皆さんは、事前にしっかり勉強してから大会に臨んでくれたため、とてもレベルの高い戦いだったと思います。とくに、決勝ラウンドは、全チームが正解するケースが多く、一度も「バブル崩壊」が起きることなく、白熱した展開となりました。接戦を制して優勝に輝いた浜松学芸高校のメタモンチームには、静岡県の代表校として、全国大会では過去最高順位となるような活躍を期待しています。

優勝チーム 浜松学芸高等学校
「メタモン」





静岡大会代表 浜松学芸高等学校 2年

松井 杏太郎

僕はエコノミクス甲子園に参加するのは今回が初めてで、一年の時に習った現代社会程度の知識しかありませんでした。運良く地方予選を勝ち抜きましたが、全国大会に行っても勝てる自信がありませんでした。そんな中、全国大会に参加してみて、最初のエコノミクス大会では対戦した人とは少しではありますが、会話をしながらやりました。始めのこの機会のおかげで多くの人と話すことが出来ました。二日目は、ビジネスラウンドでした。僕は、正直これが一番大変でした。朝食の顔合わせからプレゼンをどうやるか考えるとこれまで全然自分の意見を言うことができずとても迷惑をかけてしまいました。この時にみんなの前で自分の意見をはっきりと言う能力は社会に出た時に必要だと感じました。その後の昼食からはしっかりとチームの人と会話をし、自分の役割である法務の仕事をしきんとこなすことができました。最終的な販売会では、みんなで呼び込みをやって、出来るだけ多く売ろうと努力しました。しかし、僕たちが販売した漫画の一卷だけ集めたセットは半分ほどしか売れず利益0円という結果になってしまいました。このラウンドでは物を販売するまでの過程を全て僕たちでやったことと、朝初めて会った人と協力して最後までやれたというのはとても良い経験になったと思います。三日目の全国大会本番では予選順位ビリだったので逆に吹っ切れて楽しむことが出来ました。残念な結果に終わってしまいましたが、新しい仲間もできとても充実した楽しい三日間でした。

静岡大会代表 浜松学芸高等学校 1年

窪 野 拓

全国大会に参加するまで、家から離れた地で3日間戦い続けるということに多くの不安を抱いていました。

頼れる人物は相方ただ一人で常にピリピリとした空気が漂っている。そう考えていました。

しかし、不安を抱えたまま席に着くと他の県の代表の方が気さくに話しかけてくれました。

不安も緊張も解け、すぐに笑顔になりました。

1日目の交流の時間にいろんな県の人と話しました。ニュースで聞くような有名な高校の生徒や、昔自分が住んでいた地域の高校の生徒。

みんなが優しく接してくれてとても楽しい夜になりました。

その時に、後に第14回大会の優勝者と呼ばれる事になる方と少しお話をしました。

彼は特別な人間というわけではなく、僕たちと同じように勉強をして、同じように緊張して、同じように笑う、そんな高校生という印象を受けました。

エコノミクス甲子園で活躍するのは選ばれた人間ではなく、一介の高校生である僕たちであると思いました。

3日間の日程が終わる頃には、来年もこの地で会う約束を交わしたライバルもできました。

全国に仲間ができ見聞が広がる素晴らしい大会でした。ぜひ来年も参加したいです。





愛知大会

12月8日(日)開催

主催 愛知銀行

参加校一覧 豊川高等学校、滝高等学校、海陽中等教育学校、東海高等学校、愛知県立江南高等学校、愛知県立時習館高等学校、愛知県立旭丘高等学校、愛知県立千種高等学校、愛知県立一宮高等学校、愛知県立一宮西高等学校、愛知啓成高等学校、名古屋高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校

申し込みチーム数 22チーム(13校)

運営スタッフ感想 第14回エコノミクス愛知大会には、初出場校2校を含め13校から22チームが参加し、熱い戦いが繰り広げられました。

参加した高校生たちは、本大会を通じて、戦友と金融知力を競い合うとともに多くの思い出をつくれたと思います。

また、参加者のご家族や参加校の先生、第7回大会で全国制覇した澤田昂さんなど多くの方にご観戦いただき、盛大な大会となりました。誠にありがとうございました。来年は、愛知銀行創業110周年を迎えます。より多くの学校に参加いただき、エコノミクス甲子園の良さを幅広く知っていただくとともに、引き続き地域金融機関として高校生の金融リテラシー向上に貢献していきたいと思ひます。

優勝チーム 東海高等学校
「三羽鳥」





愛知大会代表 東海高等学校 2年

熊田 哲典

エコノミクス甲子園に参加して、学校では学ばない(そもそも学校は学問をする場所なので社会に必要な知識を教える必要があるのかという疑問はありますが)金融・経済に関する知識を楽しく学べてよかったです。

しかし、参加費無料で開催していただいていることもあってか、大会を通じて遺憾に思った点もいくつかありました。一つ目は「参加者間の公平さ」です。2ラウンドのルールは、参加者から「運ゲー」との声があがっていましたが、その点に関しては過去に協会から「一瞬の説明で最適解(と思われる選択)を導く力を、我々は評価したいと思っています。」とのツイートがあり、この方針を否定することはできません。しかしそうであれば、ルールの説明を2組にわけに行く意図が理解できませんでした。先述の通り、戦略性の高いルールを用いて「一瞬の説明で最適解(と思われる選択)を導く力」を見分けたいのであれば、戦略を立てる時間に差があるべきではないと考えました。

二つ目は、「ルールの厳格さ」です。事前にビジネスアイデアを提出する際に、多く定められたルールを守りながらどれだけ面白い・奇抜な案を出せるかということで頭を捻りました。しかし、いざ選ばれたビジネスアイデアを見ると、ルールとして定められていた予算を大きく上回る予算計画のアイデアが採用されていました。もちろんそのアイデアを考えた参加者のことを非難する気は無く、それを採用されたことによって「アイデアが面白ければルールを破っても問題ない」といわれているようで極めて不服でした。実際、「企業が行っていることと全く同じような手順で事業を行う」というコンセプトであったので、ルールすなわちそこの「法律」ともいえるものを無視してもよい、とする姿勢は、我々の努力を嘲笑するようで悲しかったです。

ここまで一参加者の愚痴とも言える感想を長らく書いてきましたが、第15回以降も誰もが楽しめる大会を目指してエコ甲がよりよく、大きくなっていくのを願うばかりです。

愛知大会代表 東海高等学校 2年

松原 東也

今大会に参加して思ったこと、感じたことを2つ書かせていただきます。

1つ目によかったと思ったことは色々な地方の方々と話して、仲良くなることができたことです。僕自身元々あまり外向的ではないのですが、プレゼンでチームを組んだ高校の方や宿で同じユニットになった中部地方の方々が僕達愛知チームに話しかけてきてくれたおかげで、楽しく3日間過ごすことができました。話し掛けてくれた皆さんありがとうございました。

2つ目は大会に参加したことによって沢山の金融知識が身に付いたことです。受験で政経でも取らない限り今大会に出るくらいの深い知識を身につける機会はそうそうありません。ですが、将来何かと必要になる知識ばかりです。そのような知識をクイズ大会という皆が楽しめるような方式で身につけることが出来たのでとてもいい経験をさせていただいたと思っています。

最後に大会を主催していただいた金融知力普及協会並びにスポンサーや地方銀行の方々、また愛知県大会を通じてお世話になった愛知銀行の方々、本当にありがとうございました。





百五銀行

FRONTIER BANKING

三重大会

12月15日(日)開催

主催 百五銀行

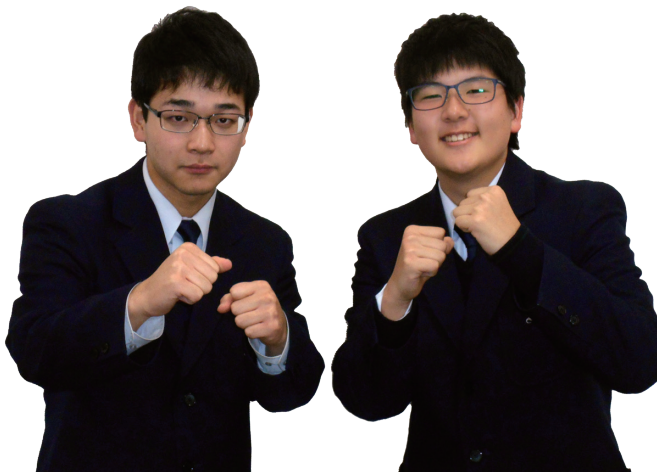
参加校一覧 鈴鹿高等学校、桜丘高等学校、暁高等学校、代々木高等学校、三重県立津高等学校、三重県立川越高等学校、三重県立四日市高等学校、三重県立伊勢高等学校、セントヨゼフ女子学園高等学校

申し込みチーム数 27チーム(9校)

運営スタッフ感想 三重大会も9回目。
 本年も初出場校に参加頂くなど、エコノミクス甲子園の認知度が、高まりつつあることを実感しました。また、例年にも増してご家族など観覧席にも多数来場いただき会場内を盛り上げて頂きました。
 大会当日は、筆記クイズから高校生のみなさんの真剣な表情が見受けられ、早押しクイズ、決勝クイズと進むにつれ、高まりゆく会場の熱気を感じました。
 引続き、三重県教育委員会さまをはじめ、学校関係者の皆さまに、多大なるご協力をいただき、大変感謝しております。観覧席でも親御さまや学校関係者から声援があるなど、これまでも増して大変活気のある大会となりました。
 また、年々参加される高校生の皆さんの金融知力の向上が見られることに驚かされます。今後も更なる金融知力の向上のため、楽しい大会の運営に努めて参ります。

優勝チーム 暁高等学校
 「おぶていみずむ」





三重大会代表 暁高等学校 2年

後藤 篤了

もし行きの新幹線に戻れるのなら、自分に喝を入れたい。今大会に参加してみて、自惚れていた自分に気づけました。まずは筆記試験。抜き打ちとは言え、知らない用語も多く、自分たちの勉強量が足りないことを実感。

次に、ビジネスラウンド。自分のプランが採択されたこともあり、事前に計画を練っていましたが、制限時間の変更や会場の環境など、計画との相違点が多く、修正を図りましたが思うようにいかず、利益はほとんど出ませんでした。

守山、岐阜、岩泉の三校が自分たちのプランに参加してくれましたが、三校には申し訳ない気持ちでいっぱいです。そして、クイズ対決。相手の土佐とはエコノミカ大会で当たっていたため、少し話をしましたが、緊張している様子はなく、すごく落ち着いていました。一方、私たちは予選の順位に萎縮してしまい、心中穏やかではありませんでした。落ち着けば分かった問題なのに焦って自滅。次の第三ラウンドも相方との意思疎通が出来ず脱落してしまいました。

迎えた、敗者復活戦。順番のお陰か最後の数校に残ったものの、時事の勉強を怠った私は珍回答をしてしまい、敗退となってしまいました。

全国の優秀な高校生と肩を並べて戦った自分を褒めてあげたかったのですが、余りにも不甲斐ない戦いぶりに、人目を気にせず新幹線で悔し泣きをしてしまいました。この悔しさを受験勉強にぶつけ頑張ります。とても楽しい三日間でした。

三重大会代表 暁高等学校 2年

片岡 佳

今大会の感想としては、悔しいの一言に尽きます。ビジネスラウンドと抜き打ちの筆記テストで、自分たちの実力に不信感を持ったまま本番に向かってしまい、その結果として早押しラウンドでは間違えるのを恐れて、ボタンを押すことができませんでした。

当日の朝、二人で確認しあった問題がその中にはありま

した。

しかし怖くて押せずに、結局は押さざるを得ない状況にまで追い込まれてしまい負けてしまった。

敗北した後、客先で自分たちの不甲斐なさに涙し、悔しさで胸がいっぱいでした。

受験がなければ来年も参加したいと思うくらいです。

この大会で良いと思ったのは、ビジネスラウンドです。

運営自体はスムーズだったとは言えませんが、それでも人を背負って頑張るという貴重な体験をさせていただいたことには感謝しています。

他の人まで巻き込んで失敗したときに感じる負い目を、これによって初めて知りました。

次に、改善してほしい点です。

次回もビジネスラウンドを開催するならば、参加者の人数や構成比を変更する際には事前に通知をしてほしいです。またゲーム性に影響があると思うので難しいかもしれませんが、早押しラウンドでは、回答時間終了までの数秒間は押して間違えても減点なしにしてほしいです。

以上です。

最後に、今大会を主催していただきありがとうございます。

僕たちはこれから学校にクイズ研究会を作ろうと考えているのですが、この大会で全国のたくさんのクイズ研究会の方と繋がることができました。

また初対面の人とコミュニケーションを取り、一緒に何かを進めていくというのはすごく楽しかったです。



■三重県鈴木英敬知事を県庁に訪問、激励を受ける



関西みらい銀行

滋賀大会

12月14日(土)開催

主催 関西アーバン銀行

参加校一覧 滋賀県立高島高等学校、滋賀県立膳所高等学校、滋賀県立彦根翔西館高等学校、滋賀県立守山高等学校、滋賀県立国際情報高等学校、幸福の科学学園関西高等学校

申し込みチーム数 17チーム(6校)

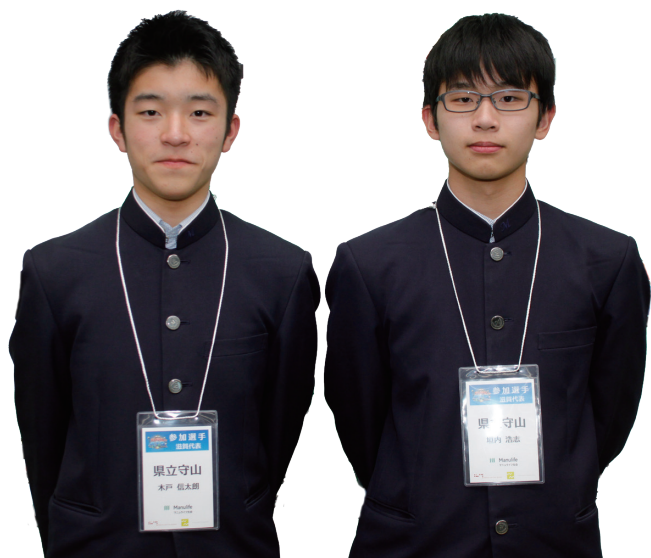
運営スタッフ感想 滋賀大会も5回目となり、各チームの参加目的も、昨年のリベンジ、クイズ好き、社会人になる前に金融経済の知識を習得する等、様々な意気込みが伺えた大会でした。予選第2ラウンドの早押しクイズでは、各チームが決勝進出を目指して、ボーナスポイントの獲得を狙った熱戦となりました。

また、決勝ラウンドは、バブル崩壊時のリスクヘッジの有無により、トップが何度も入れ替わる激しい戦いとなり、金融知識に加えて、リスクヘッジのタイミングが雌雄を決する戦略的な展開となり、最後の問題で優勝チームが決定する白熱した戦いとなりました。

優勝した2人の意気込みは十分。全国大会での活躍を期待しています。

優勝チーム 滋賀県立守山高等学校
「KKコンビ」





滋賀代表 滋賀県立守山高等学校 2年
木戸 信太郎

この度は、エコノミクス甲子園全国大会に参加させていただきまして、ありがとうございました。地方大会から、全国大会までの中で、支えてくださった、金融知力普及協会や金融機関の皆様、また事前学習教材等でもサポートしてくださった方々には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

今回、エコノミクス甲子園に滋賀県代表として参加させていただいて、感じたことは、ここぞと言うときに決め手となるのは、そこまでの、抜け目のない地道で確実な努力であるということです。

第一ラウンドとなる早押しクイズの三問目、僕の頭には答えがよぎりました。しかし間違えたらどうしよう、もし流れたら勝てる、と考えた瞬間、相手に押され敗退しました。やはり引きに回って負けるのは、悔やんでも悔やみきれません。席から他のチームを見ていると、勝ち上がるチームは自信をもって、堂々と答えていました。あとから話を聞いていると、自分たちの何倍もの量を、ずっと前から勉強していたそうです。例え神様がいたとしても、結局は努力に見合った結果になるのだなと感じました。だから悔しいですが、今回の結果は当然のものだと思います。

これから、どんな場面においても自分の全力をもって向かうことは大切なことだと思うし、そうすれば結果として良くなかったとしても、自分に納得がいくのだと、今回の経験で改めて感じました。

この大会を通して、二泊三日のなかで、普段の机の上での勉強では学べない、貴重な経験をすることができ、またなかなか交流することのない他の都道府県の友達も出来ました。僕は来年は受験もあり参加は厳しいですが、何かの機会があれば、よろしくお願いします！

滋賀代表 滋賀県立守山高等学校 2年
垣内 浩志

私はエコノミクス甲子園に出場する前、経済は授業でし

か学んでこなかった。だから事前教材では未知の分野が多く、理解するのに苦労した。何度も見たが覚えられない、ペアから出された問題に答えられないことが多々あり、不安でいっぱいのまま大会に臨んだ。

第一ラウンドのクイズは緊張や、誤答への恥ずかしさなどと雑念ばかりで敗退してしまいました。負けたら何故か吹っ切れて、第三ラウンドでは冷静さを取り戻したが、知識の乏しさのあまりここも敗退。敗者復活戦では勝つことに集中できたのだが、また知識不足で敗退。観客席で見た準決勝ラウンドにはとても憧れると同時に悔しさでいっぱいだった。しかし、出場したラウンドで解答できたことが嬉しく満足感もあった。エコノミクス甲子園を通じて、楽しく経済の勉強ができてよかった。

全国大会出場者は聡明な学生が多く、昼食の時間も経済の話をしていた。実力の差を顕著に感じたのはビジネスラウンドだ。理解力の差に、自分は意見を言うことも難しかった。しかし、大会期間はライバルということのを忘れ楽しく雑談もできて見聞が広がったように思う。

クイズを通して経済の理解が深まり、受験勉強だけではなく、社会に目を向けることも大切だと実感した。今はニュースを見ることが楽しく、興味をもって時事の背景を積極的に調べるようになった。

今大会に参加して、より一層経済の分野に進みたいと考える。





京都銀行

京都大会

12月15日(日)開催

主催 京都銀行

参加校一覧 花園高等学校、洛星高等学校、洛南高等学校、京都西山高等学校、京都明徳高等学校、京都府立福知山高等学校、京都府立洛北高等学校、京都府立園部高等学校、京都府立南陽高等学校、京都市立紫野高等学校、京都市立堀川高等学校、京都市立京都工学院高等学校

申し込みチーム数 23チーム(12校)

運営スタッフ感想 4回目の開催となる「京都大会」は、22チーム44人に参加いただき、盛大に開催することができました。筆記クイズでは、開始直前まで真剣な表情で勉強する高校生の姿が印象的で、大会にかけける意気込みを感じられました。早押しクイズでは、問読み中に回答するチームも多く、白熱した戦いが繰り広げられました。決勝ラウンドでは、最後の1問までどうなるかわからない展開にあちこちで歓声や落胆の声が聞こえ、とても盛り上がっていました。参加者からは、「この大会をきっかけに、日々の物事に対して経済的な見方ができるようになった」「来年も参加したい」という熱い声を聞くことができました。最後に、参加いただいた高校生の皆さま、開催にご協力いただいた関係各所の皆さまに感謝申し上げます。

優勝チーム 京都府立洛北高等学校「Soros」





京都大会代表 京都府立洛北高等学校 2年

川本 青汰

この度は、エコノミクス甲子園という、たいへん素晴らしい時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。今回は二度目の参加でしたが、昨年とは違った工夫や、新たな企画が随所に盛り込まれていて、新鮮に楽しめた、充実した三日間でした。初日の夜、それぞれの地元から集まり、初めて会った人とのエコノミクス大会に始まり、東京駅に向かうバスの中まで、いつまでも思い出の中で輝き続けるような、まさにプライスレスな体験の連続でした。

最も印象に残っているのは、スタッフの方々も新たな取り組みと仰っていた、ビジネスラウンドです。お正月の課題から始まったビジネスラウンドは、相手と時間をかけて、マーケットの調査、仕入れの調査など、今までしたことのない事業計画の策定をし、当日は社長を務めさせていただき、エコノミクス甲子園という機会でないとは決まてできないような体験だったと思います。社長として、なんとか会社をまとめ最大限の成績を追い求めていく中で、時宜を得た迅速な判断の重要性や、社長という責任ある立場においての一つ一つの判断・発言の重み、答えがない問に対して最終意思決定者として方向性を見出して組織を動かしていくこと、など、組織運営、そして社会の基本的な、しかし高校生が身を持って知るのは難しいことを学ぶことができました。当日は思わぬトラブルや、社長として至らぬところが多かったことからメンバーを混乱させてしまったこともありましたが、それらも含めて、このビジネスラウンドでの同じ会社のメンバーとの時間はかけがえのない思い出であり、これから私の血となり肉となる貴重な経験となりました。この初めての取り組みを成功させるには多くの苦難があったとお聞きしました。準備に携わっていただいた方々、ありがとうございました。

これからも、また今まで以上に多くの高校生が、人生を変えてくれるようなこのすばらしいエコノミクス甲子園という大会を目指し、ますます多くの高校生が、この大会を通してすばらしい時間と経験を手に入れることを願っています。

京都大会代表 京都府立洛北高等学校 2年

嶋村 悠

今回のエコノミクス甲子園は、前年度に比べてとても楽

しく、また充実感があった。それにはおそらくビジネスラウンドが大きく関係しており、一日中一緒にいて目標のために実際に行動したり、たとえ自分が敗退したとしても、応援できる仲間がいるというのはやはり重要なポイントだと感じた。また、私達も、去年は箸にも棒にもかからない程度の知識だったのが、筆記部門では一位をとるなど、単純な知識や考えでは他のチームに引けをとらないレベルになっていたことが嬉しかった。去年だったら分らなかっただろう問題にもアプローチができるなど、やはり、この大会に出たことで、自分の中での実社会に対する興味が大きく変わったと感じさせられた三日間だった。経済や経済学の勉強をするのはそれ自体が楽しかった。これらのことを学ぶことで、現在の社会の抱える様々な問題への切り込み方の基礎を学ぶことができたと思う。私自身は経済学部に進むつもりはないが、経済学について学ぶことは必ず将来役に立つと思うし、また、私の友達は経済学部を志望しており、私から事前教材の「Advanced」を借りて勉強している。そうやって繋がりができていくことも素晴らしいと思う。ただ、残念な点を挙げるなら、早押しラウンドの勝者が進んだ第二ラウンドがあまりにも運要素が強く、問題自体は全問不正解だったが生き残ったチームや、逆に問題にはかなり正解していたものの戦略を誤ったチームもいて、設計を見直した方がいいのではないかと、少なくとも早押しの勝者がやるゲームではないと感じた。

水谷さん、またスタッフの皆さん。お世話になりました。ありがとうございました。





関西みらい銀行



りそな銀行

大阪大会

11月24日(日)開催

主催 関西みらい銀行、りそな銀行

参加校一覧 関西学院千里国際高等部、清風高等学校、清風南海高等学校、桃山学院高等学校、明浄学院高等学校、大阪教育大学附属高等学校 平野校舎、大阪府立鳳高等学校、大阪府立北野高等学校、大阪国際大和田高等学校、大阪信愛学院高等学校、四天王寺学園高等学校

申し込みチーム数 19チーム(11校)

運営スタッフ感想 今回は日程的にテストに近い学校も多かったのですが、そんな中でも14チーム28名の高校生が参加してくれました。予選から激戦が繰り広げられ、早押しでは機械が壊れてしまうか心配なほど気合いたっぶりの戦いでした。決勝ラウンドは、どこのチームが優勝するかわからない緊張が最後の1問まで続きました。その中で、昨年準優勝でリベンジを狙う北野高等学校の「北野21」の2人が大逆転で優勝しました。ぜひ大阪代表として、全国優勝を狙っていただきたいと思います。他のチームからも「来年も参加します」「次は優勝します」等の声もあり、今から来年の大阪大会に期待しています。またひと回り成長した参加者のみなさんにお会いできるのを楽しみにしています。

ご参加いただいた高校生のみなさん、開催にあたりご尽力いただいた関係者のみなさま、ありがとうございました。

優勝チーム 大阪府立北野高等学校「北野21」





大阪大会代表 大阪府立北野高等学校 2年

原 崇 史

今回のエコノミクス甲子園全国大会で優勝させていただきました。土曜日からの振り返りを書きたいと思います。

土曜日は、朝からいきなりペーパークイズをしました。楽器ケース?のようなものにスタッフの方が入ったり、眠気覚ましと言って Monster の箱に用紙を入れたりと凄く凝った演出で楽しめました。その後、グループ毎に分かれてビジネスラウンドが始まりました。予め商品の置き置きをお願いしていたため、調達・生産をスムーズに進める事ができました。30秒CM、マーケティング、会計書類作成など様々な分野で渋幕、神戸女学院、日向学院の皆さんに介護され、おかげさまで予選11位で土曜日を終える事ができました。ありがとうございました。

日曜日に予選順位が発表され、第1ラウンドのタイマン早押しに向かいました。対戦相手の金大附が予選1位だったため、余裕が無かったですが、ペアのファインプレーのおかげで突破することができました。第2ラウンドは、かなり運要素が強かったですが、最後は正解したら残れるところまで寄ったので、耐えられて良かったです。準決勝、決勝は、ポイント三倍も引けて、正答率も安定していたので、我ながら綺麗な勝ち方で良かったかなと思います。

今回の大会に参加するにあたって対策問題を作ってくれた同級生をはじめ、数多くの人に介護されて今大会で優勝することができました。今回のレポートは600字ということで、残念ながら詳しく触れることはできませんが、心より御礼申し上げます。

大阪大会代表 大阪府立北野高等学校 2年

福 岡 哉 汰

パチパチパチパチ…と会場から拍手が聞こえたとき、ようやく優勝したという認識をすることができた。なにしろ直前の10問目の高松高校さんの判断まで、優勝か否かがわからなかったからである。あの2-3分、おそらく僕が今までで一番心臓が激しく動いていた。

あの一瞬ばかりは「お願い…!」と祈るばかりであった。

エコノミクス甲子園の存在を知ったのは、1年生で出た、13回大会の大阪予選のときだった。相方の原君に、現代社

会が得意ということから誘われ、「おもしろそう!」と思って申し込んだのがきっかけだ。結果は準優勝だった。それまでは社会が強いといっても、「しょせん校内だけでしょ!」と思っていたが、この結果を機に、「意外とできんじゃん!」と思うようになった。そして、今年かなりギリギリの戦いであったが、大阪大会を通過することができた。

そして迎えた全国大会。2日目を振り返るとビジネスRもいきなりプレゼンしたり、会計書類作ったり、しまいに150人と聞いていた来場者数が当日半分になったりとハプニングだらけだったが、なんとか売り上げ目標を達成することができた。

ついに3日目の本選。本当にハラハラの連続だった。周りの行動を読む第2R、正答3組を狙う準決勝。そして冒頭の決勝である。

なぜ勝てたのだろうか、と考えてみるといくつか理由があった。

1つ目は、単なるクイズ要素だけではなかったこと。僕はクイ研ではないので、早押しやクイ研ならではの問題に弱い。しかしこの全国大会はビジネスRを筆頭に実践的なものや、運も必要なゲームも多くそれが功を奏した。特に、ビジネスRは当然予選順位にかかわってくるという面もあるが、同時に全く知らない高校生と1からビジネスを行うという極めて貴重な経験という面もある。これがエコ甲の1番素晴らしい点だと思う。

2つ目は、自分が経済含め社会に関心を持っていたことだ。そのため、ニュースをよく見るようにしているので経済についても勉強していても苦になることはなかった。エコ甲はこうした僕の好きなことを発揮できる場所だったので、本当に楽しかった。

3つ目は、たくさんの人の応援がある。家族はもちろん、学校の友達がYouTubeライブを見てくれていたり、出会ったばかりの高校生たちが声をかけてくれたりしてもらい本当に力になったと感じた。特にビジネスRでチームになった3校や、同じ階層の部屋になった高校の人の応援は大きかった。

このようにエコ甲は、クイズ+社会経験+出会い、とまじ経験できないようなことをレベルの高い高校生の中でできる喜びを提供してくれる場所です。改めてスタッフの方に感謝します。ありがとうございました!3月にNY行ってくるので思う存分楽しんでいます!





池田泉州銀行

S I H D

兵庫大会

12月15日(日)開催

主催 池田泉州銀行

参加校一覧 雲雀丘学園高等学校、関西学院高等部、賢明女子学院高等学校、神戸野田高等学校、神戸海星女子学院高等学校、神戸女学院高等学部、白陵高等学校、灘高等学校、明石工業高等専門学校

申し込みチーム数 16チーム(9校)

運営スタッフ感想 運営のサポート、ありがとうございました。
特に決勝ラウンドでは毎年新しいルールを考えていただいたおかげもあって、敗退したチームや観覧者も含め、会場一体となって兵庫大会は大いに盛り上がりました。金融知力普及協会様におかれましては、引き続きのサポートをお願いします。

優勝チーム 神戸女学院高等学部「宝の山」





兵庫県大会代表 神戸女学院高等学部 2年
戸塚 愛理

エコノミクス甲子園は多くの学びと出会いのある素晴らしい大会でした。挑戦して本当に良かったです。

今年の地方大会には2回目の出場でした。お金に関する、必要だがよく知らなかった様々なことを学んでいく過程は純粋に楽しいものでした。去年は決勝で敗れたのですが、今年は運良く最終問題で大逆転して優勝が決まり、驚きつつも素直に嬉しかったです。

エコノミカ大会から始まった全国大会は、たった3日とは思えないほど濃く充実した時間でした。日本全国から集まった優秀な高校生たちと交流を深めることができ、本当に貴重な経験となりました。2日目のビジネスラウンドでは、出会ったばかりのメンバーで本格的なプロジェクトに取り組みました。グループのメンバーのコミュニケーション能力の高さやアイデアの豊かさに圧倒されつつも、自分にできることを探しながら、いかにして商品売るかを考えました。普段とは違う広い世界に身を置くことで、自分自身の強みや弱みを見つめ直すきっかけにもなりました。3日目の大会当日は、勉強不足を痛感させられる不甲斐ない結果となってしまいましたが、準決勝・決勝を観戦し他の学校の高校生たちのレベルの高さに大きな刺激を受けました。全国大会での出会いはかけがえのないものだと思います。

エコノミクス甲子園を通じて、金融経済について学ぶことができました。これからも学びを深め、社会に貢献できるよう努力します。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった全ての方に感謝します。本当にありがとうございました。

兵庫県大会代表 神戸女学院高等学部 2年
山田 彩乃

私は、エコノミクス甲子園に参加して本当に良かったと思っています。全国から集まった普段は話す機会のない高校生と出会って3日間を過ごせたことはとても貴重な経験でした。

1日目のエコノミカ大会では、エコノミカをしながら他の高校生達と沢山話し、親睦を深めることができました。2

日目のビジネスラウンドでは、同じ会社の人と協力し、学校の授業などでは全く経験できないような活動が出来たので本当に楽しく、やりがいがありました。全員でアイデアを出し合いながら価格、個数、ターゲットなど細かなところまで決めていったりポスターや看板を作ったりと、やることも多く大変でしたが、どの作業も充実していました。また、実際に商品売ることの難しさも感じました。3日目の大会はレベルが高く結果は振るいませんでしたが、見ていて学ぶことも多くありました。さらに、他の高校生が沢山の問題に答えている姿に刺激を受けました。

この3日間は内容が濃く、終始楽しく参加するが出来ました。全国の高校生と、こんなに密に関われた事も嬉しかったです。スタッフの方や関係者の方と前夜祭や空き時間などでお話することもできて、様々な新しいことを吸収出来ました。これを機に更に金融の知識を深め、これからに役立てていきたいと思います。改めて、金融や経済の分野の面白さを感じました。大会スタッフの方や銀行員の方、関係者の方には感謝しかありません。本当にありがとうございました。





ナント・なら・ずっと!
NANTO 南都銀行

奈良大会

12月15日(日)開催

主催 南都銀行

参加校一覧 西大和学園高等学校、育英西高等学校、東大寺学園高等学校、智辯学園高等学校、智辯学園奈良カレッジ高等部、奈良県立青翔高等学校、奈良県立郡山高等学校、奈良県立畝傍高等学校、奈良県立奈良高等学校、奈良工業高等専門学校、奈良学園登美ヶ丘高等学校、大和高田市立高田商業高等学校

申し込みチーム数 29チーム(12校)

運営スタッフ感想 今年はこれまでで最多クラスの27チームでの対戦となりました。
予選の筆記試験、早押しクイズと真剣勝負。緊張しながらも楽しんで参加いただけたのではないかと思います。
決勝ラウンドでは、各チームが駆け引きをおこない、最後まで結果がわからない展開となり、大いに盛り上がりました。高校生の皆さまの一生懸命に取り組む姿に、スタッフ一同、今年も感動しました。
ご参加いただきました高校生の皆さま、また、ご尽力いただきました関係各所の皆さま、ご協力ありがとうございました。

優勝チーム 奈良県立青翔高等学校
「ダンスにカルロス」





奈良大会代表 奈良県立青翔高等学校 2年
鍵 本 圭 斗

私は高校1年生次に初めてエコノミクス甲子園に参加しました。その年は悔しくも地方大会を勝ち抜くことが出来ませんでした。その悔しさをばねに、1年間勉強をしてきました。そして、今年は悲願の地方大会優勝を果たし全国大会に参加することが出来ました。青翔中学高等学校の二期生として、また青翔高校の生徒会長として、青翔の名前を全国に轟かせようという強い気持ちが湧いていました。1日目、東京に到着し、南都銀行の方々にサポートしていただき、会場へと到着しました。緊張と期待が入り混じってドキドキしていましたが、ほかの都道府県代表生徒の方々と話すうちに、少しずつ緊張はほぐれてきたように思います。そして2日目はビジネスラウンド&筆記ラウンド（サプライズ）でした。ビジネスラウンドでは、他の代表生徒の方々と共に、準備等を行い、そして最後には販売をしました。実際に物を売るということは難しいことでしたが、その分、非常に印象に残るものになりました。3日目は全国大会本番でした。非常にレベルが高く、全国大会の素晴らしさを感じるとともに、多くの代表生徒の方々が僕たちと同じように、この大会に向けて努力を重ねていたのだと痛感しました。ハードなスケジュールの3日間でしたが、非常に楽しい大会でした。最後になりましたが、エコノミクス甲子園の開催、運営、協力をしてくださった関係団体及び企業の皆さんに心から感謝申し上げます。

奈良大会代表 奈良県立青翔高等学校 2年
小 山 愛 桂

エコノミクス甲子園に参加する前、以前から経済に興味はあったものの、学校で習っていないこともあり、「難しそう」と敬遠していました。級友に誘われて地方大会への参加を決めた時も、「習っていないのに大丈夫なのだろうか」という疑問がありました。しかし、数日後、丁寧な解説

の載った事前学習教材が届きました。理由や背景とともに、筋道立てて理解し、新しい知識を得るプロセスが楽しかったです。さらに、新聞や街中の広告を見て、勉強した内容との関連を見つけることもできました。経済が、人々の生活と密接に結びついていることがよくわかりました。

全国大会では、ビジネスラウンドが記憶に残っています。当日の朝に初めて顔を合わせた他の高校生達と、資金獲得のためのプレゼンテーションから商品の販売までを一丸となって行いました。協力して準備を進めるうちに、各人の個性がわかってきて、この10人がチームとして最大限の力を発揮するにはどうすれば良いか、ということを考えました。結果はぎりぎりの黒字で、ビジネスの難しさを実感しましたが、充足感と達成感は並のものではありませんでした。また、利益を上げる、廃棄物を出さない、など、共通のゴールがあることで、率直に話し合えました。これによってメンバーと打ち解け、翌日の大会では、声を掛け合って互いを応援することができました。この点が、本当に良い思い出として心に残りました。

他の出場者と交流してみると、その頭の回転の速さ、考え方の柔軟さに感服しました。それに、大学生スタッフの方は、非常にてきぱきとされていて、私達の2～5歳年上にもかかわらず、ずっと大人に見えました。そのような同世代の仲間、そして先輩に出会えたことは、印象深い経験です。全国大会で出会った皆さんの姿を胸に、日々研鑽を積んでいきたいと思います。





和歌山大会

12月15日(日)開催

主催 紀陽銀行

参加校一覧 近畿大学附属和歌山高等学校、智辯学園和歌山高等学校、和歌山県立田辺高等学校、和歌山県立桐蔭高等学校、和歌山県立向陽高等学校、和歌山信愛高等学校、初芝橋本高等学校

申し込みチーム数 13チーム(7校)

運営スタッフ感想 和歌山大会は今回で3回目の開催となりますが、県内6校から12チーム24名が参加してくれました。当日は開場後すぐに多くのチームが集まり、テレビ局のインタビューを受けながら早速他校の参加者と交流し、開会前から非常に良い雰囲気でした。筆記ラウンドでは、どのチームも楽しそうに話し合いながら解き進め、早押しクイズでは筆記ラウンドの結果を挽回すべく積極的に解答している姿が印象的でした。

決勝ラウンドでは、リスクヘッジの使い方が勝敗を分けたようでした。優勝したヤヨイガオカチームは、和歌山大会初参加となる近畿大学附属和歌山高校からのチームで、予選6位からの大逆転優勝となりました。

来年以降も多くの高校生に参加してもらえるよう、年々パワーアップする和歌山大会づくりを進めていきます。

優勝チーム 近畿大学附属和歌山高等学校「ヤヨイガオカ」





和歌山大会代表 近畿大学附属和歌山高等学校 1年
石井 健太郎

大会参加を決意してから地方大会を勝ち抜き、全国大会に参加するまでずっと、チームメイトとともに緊張感を感じながら期待と不安に満ちた日々を過ごしてきましたが、水谷様から時折頂くメールに勇気づけられ充実した経験をすることができました。

本当に心から感謝いたします。ありがとうございました。

今回は初挑戦でしたが、地方大会では優勝することができました。

また、全国大会では予選13位で本戦ラウンド挑みましたが、準決勝前に惜しくも敗退してしまい、悔しさが残りました。

しかし、今大会に参加させて頂けたこと、特に、本戦前日のビジネスラウンドで全国の高校生とチームを組み、与えられたテーマでいろいろ議論を行い、仮想世界でのビジネスを行うことで、非常に多くの刺激を貰え、また、経済や金融の奥深さを知ることができ、金融、経済により興味を持つことができました。

今大会を通じて確実に成長できたと思いますが、私としては不本意な結果だとも思っておりますので、来年こそは全国制覇をしたいと思い、日々勉学に励み、情報収集を行い、知識をつけていきたいと思っています。

最後に改めて、金融知力普及協会、紀陽銀行の方々を含め、多くの方々の御支援を賜り、素敵な経験をさせて頂きましたことに深く感謝いたします。
ありがとうございました。

和歌山大会代表 近畿大学附属和歌山高等学校 1年

山元 悠嗣

このたびは、エコノミクス甲子園という素晴らしい大会を催していただき、ありがとうございます。今回、私は友達から誘われて初めて参加することになったのですが、そこで夜に他校の生徒たちとお話しする機会を得ることができました。そこでさまざまな話を聞いて、みんなの教養の豊かさや勉強に対する姿勢などを知り、自分もまだまだ頑張っていかなければならないなと痛感しました。また、二日目に行われたビジネスラウンドでは、初めて会った人たちと協力して物事を達成することやプレゼン、また、どのような商品にするか考え、それを実際に販売するなど、ただ学校にいただけでは得ることができない素晴らしい事を経験することができました。そして、三日目のエコノミクス甲子園では、私はあまり活躍することができなかったのですが、他の生徒たちは問題が読み終わる前に答えたりしていたので、おそらく相当勉強していたのだらうと思い、私たちは良い刺激を受けることができました。私たちのためにわざわざ応援に来てくださった地元の銀行のためにも、来年度の大会にも出場して、そしてそこで優勝できるよう、精一杯勉強して、今年度のリベンジを果たしたいです。繰り返し言うようですが、私たちに普段得られないような貴重な経験をさせてくれたり、良い刺激をうけさせてくださったありがとうございます。





山陰合同銀行

鳥取大会

12月7日(土)開催

主催 山陰合同銀行

参加校一覧 鳥取県立鳥取西高等学校、鳥取県立鳥取東高等学校、鳥取県立鳥取商業高等学校、鳥取県立八頭高等学校、鳥取県立倉吉総合産業高等学校、鳥取城北高等学校、青翔開智高等学校、湯梨浜高等学校

申し込みチーム数 22チーム(8校)

運営スタッフ感想 8回目となる鳥取大会には、19チームが参加しました。会場外は厳しい寒さでしたが、大会は高校生の熱気で大変盛り上がりしました。

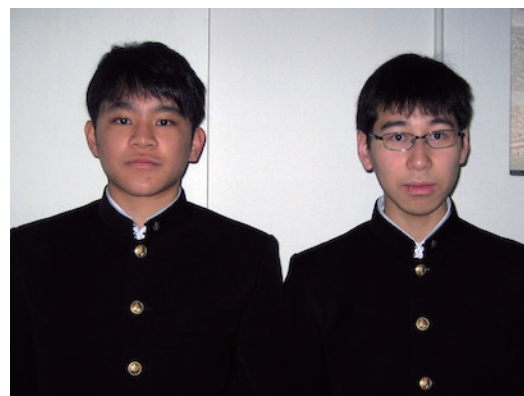
参加者はかなり勉強を積んできており、予選ラウンド、決勝ラウンドともに相当レベルの高い接戦が繰り広げられました。

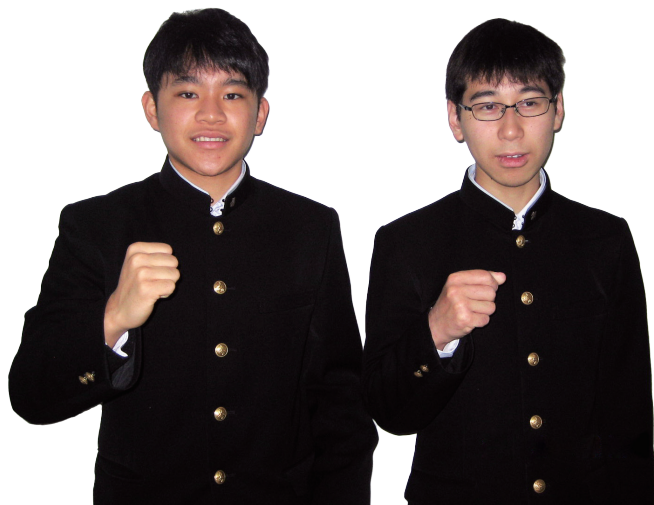
また決勝ラウンドではリスクヘッジをかけるタイミングについても各チームそれぞれの戦略が見られ、非常に白熱したシーソーゲームとなりました。

そして前回優勝者との接戦を制し、全国大会出場の栄冠を手にしたのは、「チーム井上」でした。鳥取県代表として全国大会での活躍をスタッフ一同楽しみにしています。

ご参加いただいた高校生の皆様と関係者の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

優勝チーム 鳥取県立鳥取西高等学校「チーム井上」





鳥取大会代表 鳥取県立鳥取西高等学校 2年

井上 剛

僕が初めてエコノミクス甲子園という大会の存在を知ったのは、高1の秋だった。教室に貼ってあるポスターを見て、面白そうだなと思い、同じクラスの経済に興味がある友達を誘って出場した。結果から言うと2位だった。同い年の人にほんの少しの差で負け、ものすごく悔しかった。その帰り道に2人で高2の年も出場することを決め、結果的に去年の雪辱を晴らして優勝することができ、全国大会への切符をつかんだ。

全国大会での三日間は僕にとってものすごく刺激的な日々だった。普段絶対に関わることのない同年代の人達と接し、自分の物事を見る視野が大きく広がった。この大会で自分にとって最も有益な体験であったのは、二日目のビジネスラウンドだったように思う。8人で必死に考えた計画に投資できないと言われたときは大人の世界の厳しさを痛感したが、来賓の方々が僕たちの商品を買ってくれたときはとても嬉しくて、商売の楽しさを知った。このラウンドで勝つためには時間や予算など気を配るべき要素が非常に多く、普段は経験する事のない難しい課題ではあったが、それだけ自分を成長させてくれたように思う。

この大会で得た経験は僕の一生の財産であり、ぜひスタッフとして戻ってきたい。最後に、2年間コンビを組んでくれた智理ありがとう。

スタッフの皆様へ

三日間僕たち高校生が全力で課題に取り組めたのは、スタッフの方々のおかげです。本当にありがとうございました。

鳥取大会代表 鳥取県立鳥取西高等学校 2年

井上 智理

エコノミクス甲子園全国大会に出場して、まず感じたのは参加者たちの、経済に対する熱意でした。2月8日に行われたビジネスラウンド、そして9日のクイズ競技では、自分も自分なりの努力をしてきたとは思っていたものの、

ほかの参加者の方々のしてきたことが、それよりはるかに上だと分かり、ただただ感服するのみでした。

僕自身は、おそらくこの大会の参加者の中では少数派でしょうが、理系で理学部志望という人間です。大会に参加した今でもその気持ちは揺らぎませんが、しかし、それは別に、その他の学問に対する気持ちも芽生えてきたように思えます。この大会で、ほかの参加者や来賓の方々とお話をさせていただく中で、自分のやりたいことをするには、時としてそれ以外のことができる必要もある、というのが、当たり前のことではありますが、やはり感じさせられました。金融知力も、もちろんそれを生業とする方もおられますが、多くの人にとって、いつでもいるものではないが、しかし、必ず必要となる場面が訪れる、そのようなものであるように思えます。だからこそ、経済学を専攻しようとしているわけではない自分がこの大会に参加できたことは、場合によっては経済の道に進もうとしている方が参加すること以上に有意義なものであったように感じられます。

ここまで拙い文章ではありましたが、最後にこのような素敵な大会を開いてくださった金融知力普及協会や大会スポンサーの方々、そして僕たち高校生のお世話や大会運営をしてくださったボランティアスタッフの方々に心からのお礼を述べ、この文章を終わりたいと思います。





山陰合同銀行

島根大会

12月8日(日)開催

主催 山陰合同銀行

参加校一覧 開星高等学校、松江工業高等専門学校、島根県立浜田高等学校、島根県立松江北高等学校、島根県立平田高等学校、島根県立出雲高等学校

申し込みチーム数 15チーム(6校)

運営スタッフ感想 8回目となる島根大会には、10チームが参加しました。当日体調不良による欠席があり参加チームは当初予定より減りましたが、大会は高校生の熱気で大変盛り上がりしました。

予選ラウンド、決勝ラウンドともに白熱した展開が繰り広げられ、接戦の末、前回大会の覇者「モロマサ齋藤反射」が見事2連覇を達成されました。優勝チームは「今回こそは前回の全国大会のリベンジを果たす!」と今から意気込んでいます。島根県代表として全国大会での活躍をスタッフ一同楽しみにしています。

ご参加いただいた高校生の皆さまと関係者の皆さまのご協力に深く感謝申し上げます。

優勝チーム 松江工業高等専門学校
「モロマサ齋藤反射」





島根大会代表 松江工業高等専門学校 2年

小松原 慧

二人の若い紳士が、すっかり田舎者のかたちをして、ぴかぴかするエコノミカをかついで、灰色のサイのようなキャリーバッグをつれて、東京にしてはだいぶ山奥の、木の葉のかさかさしたところを、こんなことを云いながら、あるいておりました。

「ぜんたい、昨年のわしらは怪しからんね。大舞台で一問も答えて居やがらん。なんでも構わないから、早くタンタアーンと、押して見たいもんだなあ。」

「前振りの五文字なんぞで二三問お見舞いもうしたら、ずいぶん痛快だろうねえ。こうちゃんもくるくるまわって、それからどはっと驚くだろうねえ。」

第1ラウンド。いつも画面の中でしか見ることのできないこうちゃんが、目の前にいるという新鮮さから、反射的に「こうちゃんでーす。(こうちゃんムーブ)」という渾身のボケをしてしまった。すると有難いことにこうちゃん本人が「違いますよ、あなたはこうちゃんじゃないですよ、僕です、こうちゃんは。」と微笑ましいツッコミで返してくださった。その瞬間張りつめていた緊張がいとも簡単に解けた。

「ブレグジット。」でタアーンと先手を取り、これが二年目にしてエコ甲全国大会初の正解となった。勢いがつき最後は二人で同時に「(せーの) SDGs !」。第1ラウンドにして高校生クイズのウィニングアンサーさながらである。

第2ラウンドもなんとか勝ち上がり、ついに準決勝ラウンド。自分たちで事前に作成した問題を出し合い、出題した問題の正答率によって決まる倍率が自分たちの得点にかけられるというルールで、正答率が約半分に近いほど倍率が高い。これを念頭において私が考えた問題は以下の通り：「北緯50度付近に位置し、ともにロシアに接する大陸性気候の2つの国、『ウクライナ』と『モンゴル』。このうち、2018年の名目GDPがより高いのはどちらでしょう？」

後に知った話だが、この問題はYouTube Liveで実況されていたこうちゃんも大絶賛だったらしい。かねてのラウンドからの数々の奇行によって松江高専に興味を持たれていただけたこの大胆な2択問題がお気に召したようである。GDPが人口の影響を受けるということが分かっていたら容

易に解ける問題ではあるが、我々の想定では30秒で解くのは難しく、悩んだ末に答えがきれいに2つに割れるはずだった。そうすると正答率が約半分になるだろうという目論見である。しかし、我々の目論見はカレットのごとく碎かれてしまった。7チーム中5チームが正解を導き出し、我々の倍率は今一つだった。その後は4連答という快進撃を見せラウンド通過ボーダーに得点が並ぶも、予選順位で決勝には届かず…。あと一步で決勝進出というところまで詰め寄りほんの僅かな差で敗北した悔しさは、1問も正解できず全く歯が立たなかった昨年の悔しさとは全く違ったものであった。

3日間を通して金融知力が向上したこと、全国津々浦々の同志達との友情が育まれたことは誠に喜ばしいことである。そして、個人的には、こうちゃんに会えて幸福のピークピークに達したことが強く印象に残った。

しかし、さっき一ぺんカレットのようになった二人の心だけは、島根に帰っても、お湯にはいっても、もうもとのとおりになおりませんでした。

島根大会代表 松江工業高等専門学校 2年

佐々木 涼太郎

2019年、冬。

0問正解という不甲斐ない結果を残し、東京という舞台でのチャンスを自らの怠慢で無下にしたことに対し怒り、悔しさを噛み締め帰路に着くチームがいた。

その名は島根県代表、松江高専「モロマサ斎藤反射」チームである。

そしてまた今年、その松江高専が帰ってきた！！！！！！！！万歳！！！！！！

島根大会を2連覇した僕たちは2年連続2回目の2年生チームは優勝しやすいという話を聞き、今年はいいとこまで行けるのではないかと考えていた。が、昨年のことがある。

今年の目標は当初から「正解して勝ち抜く」であった。

東京に着いた。

東京の人は歩くのが本当に速い。ご飯を食べ、昨年と同じ道のりで会場行こうと思ったが道に迷った。渋谷駅がダンジョンと呼ばれる訳が分かった気がする。さらに、オリンピックセンターについた後に新宿から来た方が近いと聞かされた。昨年も遠回りをしていただ。悲しい。

今年の宿は本格的に独房だった。昨年通り2チーム4人部屋だと思っていた僕はその独房のような1人部屋を見せられ驚いた。

談話室で同じフロアの近畿・中四国のメンバーに快く迎えてもらえ、その夜は談話室でギリギリまで話した。

エコノミクス甲子園の始まりは名物ビジネスラウンドである。

ここでの結果が本戦に響く独自のシステムも、エコノミ



クス 甲子園の醍醐味のひとつだ。

ビジネスを行う「会社」ごとに分かれての朝食。僕は基本的になんでも食べられるタイプだが、オリンピックセンターの朝ごはんは本当に食べられない。何故こんなに相性が悪いのか。

昨年同様そんなに何も食べられずビジネスラウンドが始まる。と思った矢先カルロスゴーンが乱入しペーパーテストが始まった。

昨年同様、夜の立食パーティーの後にあると思っていたらまさかの朝。意表を突かれてしまった。不覚。結果もぼちぼち。

お昼は同じ会社の北海道代表、北見北斗の伊井くんと買い出しに行った先で都会の肉を食べた。美味しかった。一緒についてきてくださった担当の方には色々あり本当に頭が上がらない。ありがとうございました。

200人お客が来ると思っていたが直前に6~70人と聞かされ予想売上数を変えなかったのが良くなかった。僕らは謎解きをするというビジネスをしたが「ちょい黒字」に終わった。

先に書いた通りここでの順位がかなり響く「エコノミクス甲子園」。嫌な予感を感じていた。

立食パーティー恒例の抽選会も何も当たらなかった。悔しいのでミニアメリカンドックを11本食べた。

夜、同じフロアのメンバーと仲良くなりお菓子パーティをしながらずっと話していた。また、北見北斗の本庄くんが対策クイズをクイズアプリで流してくれたり、大阪代表北野高校の原くんが読んでくれた友人からもらったという対策問題を近畿中四国のメンバーと寝るギリギリまでやり、最後の方には原くんの部屋に押しかけてしまった。寝る前にもかかわらず申し訳無かったと思う。

最終日の朝は寝坊した。

朝ごはんはまた入らなかった。昨日の夜に北野高校が持ってきていたバツの塩焼き(?)を食べるくらいに何でも食べることができる僕だが、オリセンの食事だけは食べられない。寒天とおかずがケミカルな味がして食べられなかった。フライドポテトとチョコババロアだけを食べる。ポテトとババロアだけをプレートに盛り朝からちびちび食べオレンジジュースで流し込むジャンキーな人間になってしまった。たしか昨年もこんな感じだった。こうちゃんが座っていたので話しかけに行き相方の小松原と3ショット写真を撮ってもらった。LINEのホーム写真にした。

その後集合写真を撮り、肩に貼る予選順位が配られた。配られた布には36位という驚愕の順位。どうやらペーパーはぼちぼちどころじゃなかったようだ。

第1ラウンドは昨年同様早押しクイズ。対戦相手である長崎代表青雲高校が緊張もあって死ぬほど強そうに見えた。昨年より緊張が大きかったのは2年目だったからだろうか。特に失うものもないくせに緊張だけは一丁前だった。選手が並ぶステージへの列では、僕らの一個前に北野高校がおりずっと話していた。予選一位の高校と当たる彼らとお互いにもうダメだと話していたが、彼らは早押しに勝ち、

私たちも流れに乗りたいな~と思っていた。

問読みはさっき写真を撮ってもらったばかりのこうちゃん。

1問目は「クラウドイングアウト」。これはスルーとなった。

2問目は小松原が押し勝ち「Brexite」を正解。3問目は僕が押し「SDGs」を一緒に答えた。

一緒に答えるの一度やってみたかったですよね~!! 勝ちましたよ! やったね!! 万歳!!! FOOOOOO!!!

ここで当初の目標を達成。本当に問題運が良かったと思う。普通に時事クイズで普段からクイズをやってる僕たちよりの問題を引き当てることができた。

舞台裏で北野、ビジネスラウンドで同じ会社だった佐賀代表早稲田佐賀などと再開しお互いに喜びを噛み締めていた。

そんな中、第2ラウンドのルールが発表された。見る限りとんでもない運ゲーであるそのルールにお互い驚愕した。結局、僕らは1問しか正解していない。さらに、その一回もSTAYを選択したため動いていない。ずっと左側にいた方が勝つのである。もし最初の配置で右側にいたら僕は負けていたし、その一回で動いてもどうなるかわからなかった。クイズの正解がほぼ関係ない運ゲーだった。参加者の中でも、あれで落ちた人はさすがにかわいそうだという話になっていた。

とはいえ、さすがに最後の移動の時は、ドキドキした。全体の帽子の数から次で決まるなど感じていた上に、僕は毎度の如く誤答して座っていたため立っているチームに「頼むぞ!!!」と叫んでいた。

基本的に座っているだけだったが運良く第2ラウンドを勝ち抜き北野、京都代表洛北など周辺の席の学校と話しながらご飯を食べた。昨年同様カツサンド。美味しかった。

第3ラウンドは客席で見ている。特に面白かったのが、北見北斗や奈良代表の青翔、山口代表の宇部高専など、1,2日目で仲良くなったチームが最後の方まで残っていたことである。一問間違え管理銘柄入りでも次の問題で復活の繰り返し。見てるこちらでもドキドキしていた。4枠しかないという事実上の敗者復活戦であったこの第3ラウンドは山田羽書の問題で1チームを除いて全チーム同時に脱落したため最終的に予選順位で決まった。応援していてここまで残っていた北見北斗と宇部高専は予選順位の差でギリギリ足りなかった。4枠決まるまでやればいいのかになーと思った。

敗者復活は凄かった。多答戦だったが、経済の問題でどんどん落ちていった。そんな中ビジネスラウンドで同じ会社だった茨城代表江戸川取手と昨日の夜一緒に対策問題をやった広島代表広島学院が残っていた。準決勝に出るため舞台裏に呼ばれ、敗者復活組を待っていた。見事江戸川取手が戻ってき、一緒に喜んでいて。うるさいと怒られた。





準決勝からは一気に知識のウェイトが大きくなった。僕たちは全7問中前半の3問を落としたが後半4連答し、最終的な正解数は上から3番目。5問正解の埼玉代表栄東、宮城代表聖ウルスラについて4問となかなか良い結果を残した。が、自分たちの出題した問題の倍率で香川代表高松に並ばれ、予選順位で落とされてしまった。悔しい。

客席に戻され北野や取手が出ている第2組を見る。第2組では昨夜話していた問題が出てきたり等、客席でおおっ！！と叫んでいた。特に北野高校の選んだ問題はまさに昨日の夜僕らが話していたアマルティア・センだった。もし僕たちが第2組だったら彼らは問題を変えていたかもしれないなどと思うとまた楽しいものがあつた。

決勝はルールがよくわからなかった。早押しボードというだけは分かった。客席で見てる僕たちがよくわからなかったのだから壇上の6チームはもっとわからなかったんだろうなと思った。長時間の説明やグダグダの流れがYouTubeで生中継されてると思うと、どんなコメントが流れてるのか見たくなった。問題は当たり前かもしれないが単純に知識を問うものであり、見ているこっちも楽しむことができた。北野高校が昨夜やったブリッジバンクを押し勝った時はガッツポーズをしていた。そして彼らはそのまま優勝した。チェーン(?)とか関係なく早押しボードの得点が単純に1番高かったので最終的にはきちんと1番知識があるチームが優勝するようになっているエコ甲のシステムは凄いなと思う。

帰りは本当に時間がなく、飛行機の時間があるからとバスに大急ぎで連れて行かれた。と言っても、僕たちの飛行機が1番早いわけでもむしろ僕らのような田舎者のせいで他の人たちの別れの時間を奪ってしまい申し訳ない気持ちでいっぱいだった。帰りに鹿児島代表ラ・サールの平くんに他のクイズ大会に誘われた。嬉しかった。参加する方向で進めていたがコロナの影響でその大会が延期となってしまった。

友人や家族に画面録画してもらっていた、僕らのYouTubeの様子を見ようと携帯を開いた。通知がとんでもないことになっていた。確かに今年は昨年よりはっちゃけていた。ユニコーンの絵を描いてみたり、不正解の時は悲しい顔をしたり等いろいろなことを好きにやってみた。

解説のこうちゃんが僕らが何かするたびに笑ってくれて、作問や問読みのクイズ面ではベタ褒めしてくれていたのが特に嬉しかった。横の女の人の「はい嬉しいね」「悲しいね」等冷静な実況も、ずっと爆笑しているこうちゃんとのコントラストでとても面白く嬉しかった。

さらに、コメント欄で僕らを応援してくれている人がいっぱいいたことに驚いた。ステージ上で顔芸やらなんやらアホみたいなことをしてる時はまさかこんなにたくさんの人に見られてると思っていなかった。しかも、そのコメントはどれも僕らを応援するものばかりだった。僕らは車内で嬉しさからしばらくニヤニヤしていた。こうやって僕の生きていく足跡がネット上に少しでも残っていくのは嬉しいものがある。

気づけば都会の夕焼けがとても綺麗だった。ちょうど昼と夜の変り目で月も綺麗だった。そういえば去年も夕焼けを見ながら帰ったが、その時は冒頭の通り自らへの怒りや悔しさでいっぱいだった。そんな気持ちで見る都会の夕焼けは自らの行動を反省するのにはちょうどよかった。

だが、今年は違った。無論優勝を逃したので悔しさは残るが、それよりも「正解して勝ち抜く」という目標をクリアしたという大きな達成感、様々な友人を作ることができ、ともに楽しい時間を過ごせたという大きな多幸感、これらがプラスされていた。

大きな達成感や多幸感と共に仲良くなった友人と別れる寂しさや優勝できなかったという悔しさがよぎる複雑な感情。楽しかった。

僕が高校生になったら絶対に出ようと決めていた高校生クイズだったが、僕が高校1年生の代からクイズ部分が一つもなくなった。クイズという面で何かしら自らの自己顕示欲を満たせるものがなくなってしまったのだ。そんな中クイズ要素と金融知力、経済力要素を上手く組み合わせたこの大会はとても貴重で、ありがたい限りである。やはりクイズは楽しい。この大会の開催に尽力してくださったスタッフの方々には本当に感謝の念が尽きない。

ただ、僕には不安が一つある。
それは来年のことだ。

不幸なことに僕らは優勝をオリンピックセンターに置いてきてしまった。取りに帰らねばならない。

また来年県予選からとなるととてもとても不安である。エコノミクス甲子園は県予選決勝がまず怖い。

さらに第2.3ラウンドのどちらかで毎年運要素強めのラウンドが来る。第1ラウンドで勝った方が運ラウンドに行くのか、負けた方が行くのか見当がつかない。

来年はこのままいくと最後の年。
僕らの集大成として万全の態勢で望みたいと思う。

最後に、スタッフの皆様へお願いします。

参加条件を高専5年生まで延ばしてください！お願いします！高校生クイズは5年生までなんです！もっとエコ甲に出たいです！！お願いします！！！！！！！！





中国銀行

岡山大会

12月15日(日)開催

主催 中国銀行

参加校一覧 玉野市立玉野商工高等学校、清心女子高等学校、明誠学院高等学校、岡山県美作高等学校、岡山県立総社高等学校、岡山県立笠岡商業高等学校、岡山県立玉島高等学校、岡山県立岡山南高等学校、岡山県立岡山一宮高等学校、岡山県立倉敷天城高等学校、岡山白陵高等学校、岡山市立岡山後楽館高等学校、岡山学芸館高等学校、岡山商科大学附属高等学校、山陽女子高等学校

申し込みチーム数 31チーム(15校)

運営スタッフ感想 例年より参加者が少なかったが、今年も大いに盛り上がり、楽しく金融経済について学んでもらえたのではないかと感じています。

早押しラウンドでは、高校生が退屈しないよう、岡山大会恒例となりました全員参加の「チャレンジクイズ」を実施しました。決勝ラウンドでは、大接戦の末、倉敷天城高校が2連覇を達成しました。次回も高校生が楽しみながら金融知力を高めることができる大会にしたいと思います。

優勝チーム 岡山県立倉敷天城高等学校「MeloooN」





岡山大会代表 岡山県立倉敷天城高等学校 2年
濱田 美和

昨日、東京から岡山に戻りました。私の高校生活を大きく変えたエコ甲を終え、色々な感情が混じってなんとも言語化しにくい気持ちです。印象に残っているのは二日目のビジネスラウンドと、三日目の本選なので、それらの感想を述べさせていただきます。

二日目。ビジネスラウンドは、一日でビジネスプランのプレゼン、資金の確保、在庫の調達、生産、販売を行うというものでした。投資家の方々からは無事資本金を希望の額通りいただけましたが、たくさんの鋭い指摘をいただき、ビジネスを行う難しさを体験し考え方を学ぶことができました。また班での活動を通じて、月並みな言葉ですが常に自分に何ができるか考えて行動することの大切さを改めて実感しました。私たちの班「Our planet」は販売開始15分で完売と良い結果を残せましたが、それがなかったとしても最高の班だったと思います。良いメンバーに恵まれて良かったです。Our planetの皆さんありがとうございます。

三日目はいよいよ本選です。結果から言うと、第二ラウンドのシーソーに負け、敗者復活もできず敗退でした。正直な所第二ラウンドの運要素の強さには思うところがありました。確かに、株式投資ひいては人生の運、勤の重要さは再現されていたと思いますが、少し納得感には欠けていました。正直悔しいです。でも負けは負けなので仕方ありません。

結局、楽しかったですが、やっぱり優勝したかったと思います。一年前に出場した時から目標はずっとそこでした。一年生の時の全国大会で負け、その悔しさをばねに勉強し掴めたチャンスをものにしたかったです。しかしこの一年は主に二つの点で有意義でした。一つは経済の知識をたくさん得られたことです。経済学的な考え方や知識を身につけ、日経新聞も以前より読めるようになりました。高校生活及び人生にも影響を与えられたと思います。高校生活を変えたと言及したのはそういうことです。もう一つは相方の楠さんと協力できたことです。この日のために二人で目標を立て切磋琢磨しました。チームで同じ方向を向いて頑張るのは簡単ではありません。私はそういう時独り善がりになってしまうこともあったのですが二人で目標に向かって頑張れました。この経験は何にも代えがたいものです。

最後に、多大な応援をいただいた中国銀行様、家族、友人、運営してくださったスタッフ、金融知力普及協会の皆様、相方の楠さんなど、エコ甲を通じた出会いに感謝申し上げます。ありがとうございました。

岡山大会代表 岡山県立倉敷天城高等学校 2年
楠 琉々華

雲一つない東京の空を見上げ、高鳴る胸を抑え、過ぎた2泊3日のエコノミクス甲子園。

私がこの大会を通して1番刺激になったのはビジネスラウンドです。ビジネスラウンドは、各都道府県の代表の人たちとグループを組んで企業の方にプレゼンし、商品を実際に作成し、販売しました。どうすればお客様は商品を魅力的だと思い、買ってくれるのかをチームで何度も話し合い進めていきました。私はこのビジネスラウンドを通して、商品を売ることの大変さを痛感しました。他にも前夜祭や講演会など沢山の貴重な体験をさせて頂きました。

私は部活を兼部しており、学校生活とエコ甲の勉強を両立するのは正直、とても大変でした。しかし、濱田さんが日経新聞を持ってきてくれたり、どんな参考書を読めばいいかなど、沢山アドバイスしてくれました。また休み時間には、クラスの友達に問一答形式で問題を出してもらいました。濱田さんも友達も常に私を励ましてくれ、それが私の頑張る源になっていました。金融経済の知識がほとんどなかった私が、ここまで頑張れたのは、周りの応援があったからだだと思います。目指していた目標を達成することは出来ませんでした。全国大会を通して、沢山の貴重な体験が出来ました。

最後に、濱田さんや友達をはじめ応援してくださった先生方、中国銀行様、エコ甲スタッフの皆様、そして何より家族にとっても感謝しています。本当にありがとうございました。





もみじ銀行

広島大会

11月10日(日)開催

主催 もみじ銀行

参加校一覧 近畿大学附属広島高等学校 東広島校、福山暁の星女子高等学校、広島県立総合技術高等学校、広島県立広島観音高等学校、広島県立広島国泰寺高等学校、広島県立広島商業高等学校、広島県立呉商業高等学校、広島市立広島商業高等学校、広島学院高等学校、広島大学附属高等学校、広島大学附属福山高等学校、安田女子高等学校、ノートルダム清心高等学校、AICI 高等学校

申し込みチーム数 26チーム (14校)

運営スタッフ感想 8回目となる広島大会は、13校25チームが参加し熱戦を繰り広げました。予選第2ラウンドの早押しクイズでは、昨年のリベンジを果たすことができた」と抱き合っ
て喜ぶ女子高生や3問正解で勝ち抜いて照れながらハイタッチする男子高生の姿、そして決勝ラウンドでは「リスクヘッジ」をかけ勝負にでるか否かを真剣に悩む高校生の姿を見て、私たちは、日頃の疲れを忘れ、一緒になって楽しむことができました。高校生からは、「楽しみながらけいざいについて学ぶことができた」「大会を通して金融知識を身につけることができた」等、開催の意義を感じる意見を多く聞くことができました。今後もさらに多くの高校生に参加してもらえるよう趣向をこらした大会を開催したいと思います。

優勝チーム 広島学院高等学校
「Magis」





広島大会代表 広島学院高等学校 2年

上野 泰佳

私は前回大会の全国大会に出場し楽しかった思い出から、今回も出場しました。今回は前回の反省を生かし、クイズの勉強や経済の勉強を沢山しました。その勉強の一環として私は、経済史に興味を持ちました。きっかけはクイズに勝つといった単純なものでしたが、経済史に興味を持てたことを嬉しく思います。経済史を勉強していくなかで、私は資本主義という機能は前提として「人間の倫理」というものを組み込んでいたことを知り驚きました。具体的には、マネーゲームに免罪符を与えたとして知られているアダム・スミスが、「共感」・「フェアプレイ」といった人間の倫理性に基盤を置いていたという点です。以前の私はマネーゲームと化した現代の資本主義を頑張った人が報われる素晴らしいシステムだと手放しで褒めたたえていましたが、資本主義が倫理観を組み込んで設計されていたものと知り、現在のマーケットにいる人々に果たして「フェアプレイ」の精神があるのだろうかというところから離陸し、このまま資本主義から倫理観という底が抜けマネーゲーム化してしまうのではないかとすることに危機意識を持つところに着陸しました。こうした様に、加速度的に複雑化している社会のなかでより良い生き方を模索していくには、世界の構造を知ろうとすることが必要だと思います。その手掛かりの一つとして、知識は大変有効なものになるように思います。知識から興味が生まれ、新たな知見へと誘われるのです。これを金融知力の知識に落とし込んで展開していきます。先ほど「マネーゲーム化」と書いた通り、現在のマーケットは複雑に他のマーケットと絡みあっており、マーケット内での出来事はマーケット内で収まらず、我々の生活世界にもダイレクトに影響を与えます。そういった背景を踏まえれば、金融知力に関する知識は単なる危機への供えとしての機能だけではなく、この世界の構造を知るひいてはより良く生きるための手段としての機能も認められるはずです。最後になりましたが、私に以上の様なことを考察するきっかけを与えて下さりありがとうございました。このような楽しいイベントを通さなければ、私はアダム・

スミスに興味さえもたなかったでしょう。そして、立食パーティでの大学生のスタッフの方との機会を通して、私の将来のビジョンも立ちました。本当に楽しく勉強できたことを幸せに思います。これを機会に様々な側面から世界を捉えていきたいです。

広島大会代表 広島学院高等学校 2年

鈴木 優太

【感想文未提出】





山口銀行

山口大会

12月8日(日)開催

主催 山口銀行

参加校一覧 誠英高等学校、早鞆高等学校、慶進高等学校、山口県立防府商工高等学校、山口県立西京高等学校、山口県立山口高等学校、山口県立下関西高等学校、山口県立下松高等学校、宇部鴻城高等学校、宇部工業高等専門学校、下関市立下関商業高等学校

申し込みチーム数 19チーム(11校)

運営スタッフ感想 今回で8回目となる山口大会は、9校17チームの高校生に参加いただきました。昨年のリベンジに燃えるチームや、初出場で優勝を狙うチームなどによる熱い戦いが繰り広げられました！

白熱の決勝ラウンドを制したのは、宇部工業高等専門学校「いちご大福」！昨年は予選敗退となった2人がリベンジ。筆記クイズは4番の成績、決勝は3位でスタート。決勝ラスト1問で大逆転し、見事優勝を納めました。山口大会初の女子の優勝チームとなりました！

大会を通じて楽しく学ぶ高校生の姿や、「来年もまた来ます！」という高校生からの声で、スタッフ一同心地よい満足感に包まれました。

参加者の皆さん、保護者・高校関係者の皆さま、山口大会にご協力いただきありがとうございました。

優勝チーム 宇部工業高等専門学校
「いちご大福」





山口大会代表 宇部工業高等専門学校 3年
重政 美歩

エコノミクス甲子園は2度目の出場で、去年は地方大会で勝てず、「来年こそは優勝して全国大会に行きたい!」と意気込み、今回は優勝することができ、全国大会への切符を手に入れました。

1日目のエコノミカ大会。初対面の高校生たちとの勝負で、コミュニケーションをとって仲良くなれました。ルールは簡単だけど、戦略を立てるのは難しく、とても楽しいゲームでした。

2日目はビジネスラウンド。1度目のプレゼンで、「このままではお金を出せない」ときつく問題点を指摘されました。2度目は、私もプレゼンをして、問題点が改善でき褒めていただきました。その後役割分担をして、私は法務部長を担当しました。多くの書類があり、実際書いてみると説明がわかりやすく簡単に書けました。夕方から実際の販売が勢いよくスタートし、完成した商品を売り込みました。実際にビジネスを自分たちでやる機会を与えてくださって、学校の授業ではできないことを体験できました。

3日目は全国大会の本番。「全力でやって楽しみたい!」という思いで、ステージに立ちました。最も印象に残っているのが、3回戦目の4択クイズ。相方のお陰で、一番最後まで勝ち残りました。ですが最終的に予選順位で敗北してしまい、悔しかったです。決勝ラウンドは、ルールも問題も難しく、とても見応えがある試合でした。

全国大会に出場したことによって、より深い金融知力が得られました。この経験を必ず将来に役立てたいと思います。最後になりますが、エコ甲のスタッフさんやスポンサーの皆様、大会に携わっていただいたすべての方に感謝いたします。

山口大会代表 宇部工業高等専門学校 3年
兼崎 亜深

先日は大変お世話になりました。

三日間のエコノミクス甲子園は想像以上にハードでした

が、その分充実していて楽しかったです。

特に土曜日、朝から事業計画を練ってプレゼンをし、ボッコボコにダメ出し食らった時は「そんなのどうしようもないやん…」とメンタルがやられてしまいましたが、30分でみんなで練り直した案は褒めていただき、販売・会計まで無事終わることができました。それほど多くの利益は上げられませんでした。私は本を売ることができただけで満足しています。“一致団結”も感じることもできましたし、学校の文化祭でもやらないような本格的な実践をとてつもないスピード感でしたので、ここでしかできないとても貴重な経験ができたと思います。

また、全国各地から同年代の人が集まる機会はないため、あの3日間でたくさんの友人が出来たこと、敵どうしでありながら協力し応援し合い、励まし合えたことが私にとって1番の思い出です。寝る時も食事の時もメインの大会も、初対面だった人が常に側にいました。相方の重政さんのコミュ力がすごいのもあり、他県の友達がたくさん増えました。これも学生のうちはなかなかできないことだと思います。

もちろん、いい成績を残すために経済について勉強をして地方大会で勝ち残り、全国大会に出場できたことも良い経験でした。他県の代表のレベルの高さを目の当たりにして、良い刺激を受けました。エコノミクス甲子園に挑戦しなければここまで経済について関心も湧かなかったと思います。私はもう3年生なので来年はありませんが、これからも関心度はそのまま、経済のニュースを読んでいこうと思っています。

最後になりますが、大会の企画から運営までありがとうございました。このエコノミクス甲子園を後輩に広めていきたいと思っているので、今後ともよろしくお願い致します。





阿波銀行

徳島大会

12月14日(土)開催

主催 阿波銀行

参加校一覧 徳島県立阿波高等学校、徳島県立脇町高等学校、徳島県立徳島科学技術高等学校、徳島県立徳島北高等学校、徳島県立富岡東高等学校、徳島県立城東高等学校、徳島県立城南高等学校、徳島県立城ノ内高等学校、徳島市立高等学校

申し込みチーム数 31チーム(9校)

運営スタッフ感想 今大会は、28チーム56人と過去最高の参加人数となりました。各チーム真剣ながらも楽しんでいる様子が伺え、非常に盛り上がりました。

決勝戦では、1点をめぐる戦いが繰り広げられ、最後の最後まで優勝チームが分からない展開でしたが、そんな接戦を制し優勝したのは、初出場の城東高校「グラスルーツ」。序盤はなかなか点が取れない苦しい展開が続きましたが、後半の追い上げは見事なものでした。

当行では、今後もエコノミクス甲子園を通して、楽しく金融知力を身に付ける機会を提供し、将来の力につなげる支援を行いたいと思います。最後になりましたが、本大会の開催においてご支援を賜りましたみなさまに心より感謝申し上げます。

優勝チーム 徳島県立城東高等学校
「グラスルーツ」





徳島大会代表 徳島県立城東高等学校 2年

野口 晃平

学校に掲示されたちらしを見たことがきっかけとなり、軽い気持ちで参加したエコノミクス甲子園 14 回大会ですが、この経験は私にとって非常に刺激的なものとなりました。

今回、特に印象的だったのはビジネスラウンドです。朝発表されたメンバーで、昼に仕入れなどの準備を済ませ、夕方に商品を販売するという非常に難度の高い課題を前に、他の参加者と意見をぶつけ合い、商品のコンセプトなどを磨き上げ、商品を完売することができたときの達成感はこの上なく素晴らしいものでした。しかし、それと同時に他県の代表達のレベルの高さに自らの力不足を痛感させられました。

三日間の大会を通じて他県代表やスタッフの皆様との交流、とても素晴らしい講演など、これからの自分を形作るような経験ができました。また、徳島県代表としては史上初の準決勝進出ができたということで、とても満足できる大会でした。

最後になりましたが、一緒に参加してくれた中西君や他の全ての出場者の皆様、エコノミクス甲子園の運営に関わった全ての方々に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

徳島大会代表 徳島県立城東高等学校 2年

中西 智大

エコノミクス甲子園全国大会は、3 日間とは思えない程のスケジュールでとても中身の濃い体験ができたと思います。エコノミカに始まり、ビジネスラウンド、本戦に参加して、他県の方との交流でとても刺激を受けました。また、実力の差も目の当たりにしました。2 日目、抜き打ちの筆記試験を経て、ビジネスラウンドでプレゼンをするとなったとき、周りのメンバーの発想力や考え方など自分一人では至らなかった意見に圧倒されました。僕達の班は「ディスプレイソーネ珈琲」という分散投資を意識したコーヒーの販売を行い、見事完売することができました。3 日目の本戦ではなんとか、準決勝まで進むことはできたものの準決勝で肩を並べた選手たちは僕とは比べ物にならないほど

研究や対策そして勉強をしていると感じました。

しかし、圧倒されただけでなく、今後の糧となるような素敵な体験ができたと思います。12 月の中頃の地方大会に始まり、相方、阿波銀行の方、金融知力普及協会の方々などたくさんの人に支えられてきたと感じました。この経験を活かし、これからの大学進学、資格取得、日常生活の質が向上するように日々邁進していきたいと思います。

とても楽しく、これからのとても意義のある 3 日間になりました。ありがとうございました。阿波銀行の皆様、金融知力普及協会の皆様、そして相方の野口さま？お世話になりました。





いい出会い ふくらむ未来

百十四銀行

香川大会

12月15日(日)開催

主催 百十四銀行

参加校一覧 高松第一高等学校、香川誠陵高等学校、香川県立高松高等学校、香川県立高松西高等学校、香川県立高松桜井高等学校、香川県立香川中央高等学校、香川県立観音寺第一高等学校、香川県立小豆島中央高等学校、香川県大手前高松高等学校、英明高等学校

申し込みチーム数 29チーム(10校)

運営スタッフ感想 今年の香川大会は10校29チームの高校生に参加いただきました。
2年連続で参加してくれる高校生が年々増えており、スタッフとしては本当に嬉しく思っております。
毎年大盛り上がりの早押しクイズは、今年も解答に積極的なチームが多く、会場全体が大きな興奮に包まれました。
そのような中、香川大会を制したのは香川県立高松高校「marc,」チーム。
見事、昨年準優勝のリベンジを果たしました。
全国大会での彼らの活躍に期待したいと思います。
今後も多くの高校生に参加いただけるように、楽しい大会運営につとめたいと思います。

優勝チーム 香川県立高松高等学校「marc,」





香川大会代表 香川県立高松高等学校 2年
寄田 祐真

1日目、5限の授業を終えたのち飛行機で東京へ。百十四銀行東京営業所所長に東京の街並みを紹介されながら、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターに到着しました。予定の都合上、エコノミカ大会には参加できなかったもののエコノミカ大会の表彰式の盛り上がりを見て、授業を抜け出して参加すればよかったかな、と少し反省をしました。

2日目、起床はいつもより少し早い午前6時。朝食前にビジネスラウンドのグループ分けの発表があり、私たちのペアは京都府立洛北高等学校のディスパルシオーネ珈琲という会社に配属されました。このディスパルシオーネというのはラテン語で分散という意味らしいです。その後、朝食中に自己紹介、役員決めをしました。そこで私は興味本位ながら財務担当につきました。朝食後はカルロス・ゴーン風の人から筆記テストを渡されるというサプライズ。このとき相方の方は筆記用具を持っていなかったのもあって慌てました。テストはさすが全国大会というのもあって地方大会に比べ難しいものとなっていました。その後、ベンチャーキャピタルの方々へのプレゼンテーション、商品の買い付け、梱包、販売、そして会計など実際の企業で行われるような活動を行いました。最初はどちらが貸方が借方かわからなかったけれど、最後にはほぼ完璧に理解でき処理をスムーズに行えるようになったと思います。その後はレオス・キャピタルワークス社長の講演会、エコノミクス甲子園の前夜祭が行われました。前夜祭の抽選会では秋田銀行から稲庭うどんをいただきました。美味しくいただきました。ありがとうございました。

3日目、いよいよエコノミクス甲子園本戦。なんと昨日の予選の順位は16位でした。この順位のおかげもあって、香川県勢初めての決勝進出。そして、決勝ラウンドのゲームは連結せよ！ブロックチェーンクイズというもの。さすが全国大会の決勝戦。全然問題の答えが分かりません。そ

して迎えた最終問題。最後の最後で友人が貸してくれた用語集に載っていた問題が登場。そして、早押しをしたうえで正解をすることができました。ここでゲームにおいて初めてチェーンのつなぎ直しの権利を行使し、5位タイから2位へジャンプアップをし、ひょんなことから準優勝を果たすことができました。

最後に、今回このような貴重な機会を与えてくださった百十四銀行をはじめとする全国の金融機関の方々、マニユライフ生命をはじめとするスポンサー企業の方々、並びに金融知力普及協会の方々、ありがとうございました。また、ディスパルシオーネ珈琲の方々、そして、わがままを聞いてここまでついてきてくれた相方の田中仁くん、本当にありがとうございました。これからこのエコノミクス甲子園で学んだことを十二分に活かし、数学や経済の勉強に励んでいきたいと思います。

香川大会代表 香川県立高松高等学校 2年

田 中 仁

僕が初めてエコノミクス甲子園に参加したのは1年生だった去年でした。どうしてエコノミクス甲子園に出ようと思ったかという、同じ音楽部で活動していた友人に声を掛けられたからで、そこまで経済に興味があるわけではなかったのです。このとき県大会では、準優勝という結果に終わりました。優勝チームとは大きく差をつけられ、悔しい思いをしました。そして、「来年こそは全国大会に！」と強く思ったのです。そうして臨んだ県大会では、最後まで接戦だったものの優勝することができ、無事全国大会への切符を手に入れました。

去年の雪辱を晴らして参加した全国大会では、様々な出会いと感動、そして喜びを体験することができました。1つは、全国津々浦々から集った仲間たちとの交流です。全員が県大会を勝ち抜けた猛者で、互いに切磋琢磨し合え、また親睦を深めることもできました。談話室で消灯まで語り合った方々、本当に楽しく素敵な時間を過ごせました！ありがとうございました！

2つ目は、なんといってもやはり準優勝したことです。聞くとところによると四国勢としては初めてのことで、とても嬉しく思っています。この名誉を頂けたのは、支えてくださった人たちがいたからにほかなりません。会場まで送り届けてくださり、応援してくださった百十四銀行の方に、ビジネスラウンドでともにビジネスを成功させたディスパルシオーネ珈琲の方々、そして常にリードしてくれた相方の寄田くん。みんなに支えられて準優勝を頂くことができました。どんな言葉を書き並べても表せないぐらい感謝しています。本当にありがとうございました！

最後にはなりますが、この大会での出会いと経験、そして感動を持って、これからの生活をより良く、そしてエコノミカルに過ごしていきたいと思っています。参加できて本当によかったです。最高の時間をありがとうございました！



伊予銀行

愛媛大会

12月8日(日)開催

主催 伊予銀行

参加校一覧 聖カトリナ学園高等学校、済美高等学校、愛媛県立松山西中等教育学校、愛媛県立松山東高等学校、愛媛県立松山工業高等学校、愛媛県立松山商業高等学校、愛媛県立松山中央高等学校、愛媛県立宇和島東高等学校、愛媛県立宇和島南中等教育学校、愛媛県立大洲高等学校、愛媛県立今治西高等学校、愛媛県立丹原高等学校、愛媛県立三崎高等学校、愛媛大学附属高等学校、愛光高等学校

申し込みチーム数 30チーム(15校)

運営スタッフ感想 参加校も年々増え、高校生たちの金融・経済に対する興味・関心・知識が高まっているように毎回肌で感じています。特に、今回は会場に学校の先生やお友達がたくさん応援に駆けつけていただき、大変盛り上がりました。参加した高校生たちは真剣に金融や経済に向き合っており、とても感銘を受けました。今回は締切日より早く上限のチーム数が集まり、少しずつ知名度が上がってきていることを実感しました。来年以降も引き続き参加いただけるように、高校生により身近な方法を模索しつつ、さらに「エコノミクス甲子園」を広められるように邁進してまいります。本大会を主催してくださった金融知力普及協会の皆さま、全国の地方大会運営でたくさんのアイデアをくださった各行の皆さま、そして、第14回エコノミクス甲子園に参加してくれた愛媛県内の高校生の皆さま、本当にありがとうございました。

優勝チーム 愛媛県立今治西高等学校「GO WEST」





愛媛大会代表 愛媛県立今治西高等学校 2年
越智 向日葵

1年前、地方大会4位。この悔しさは今でも忘れられない。そして今年、全国の舞台を夢みて対策をしてきた。念願だった全国の舞台、それは周りのレベルの高さに圧倒され続ける3日間だった。

そんな充実した3日間の中、最も印象的だったのが、2日目のビジネスラウンドである。考えたビジネスプランが選ばれ、同じチームになった仲間を引っ張っていく立場になったと知ったとき、不安で一杯だった。しかし当日、その不安はどこかへ消え去っていた。お互いのことを知る時間を取ることもままならず、プレゼンテーションの準備。とにかく意見を出し合って、ビジネスを成功させるために必死だった。仲間の真剣さ、必死に頑張ってくれる姿から、互いのことを知り、信頼関係が深まったように感じた。同じ高校生とは思えない仲間の建設的な意見、リーダーシップ、コミュニケーション能力の高さに感銘を受け、刺激的な経験が多かった。何よりも達成感を感じることでできたこのラウンドは企業価値を与える戦略を学べただけではなかった。Our planetのみんなありがとう！

経済を学ぶことはこれからの時代を生きていく私たちにとって大切なことなのだと、この大会が教えてくれた。経済はお金を動かすだけではない。そのお金の変動によって社会が変動している。そのような社会変動に流されず、自分の頭で考えて、物事を見極める力を養うこと、それが今後の私たちに求められる力なのだと強く感じた。今の経済を最前線で支える方々ともお話ができ、エコノミクス甲子園は金融知識を発揮する場だけではなく、知識を蓄積する大切な学びの場であった。

最後に金融教育を受ける機会がない私たちに、見聞を広めるため機会を設けてくださった大会関係者の皆様に心からの感謝申し上げます。本当にありがとうございました。この大会での出会いを大切に、1年後、大学生スタッフとして金融教育に携わる一員でありたいと思いました。

愛媛大会代表 愛媛県立今治西高等学校 2年

白石 凜花

私がエコノミクス甲子園を知ったのは高校一年生の時で、ペアの子に誘ってもらったのがきっかけでした。当時は地方大会で決勝敗退という結果に終わり、今回はリベンジとして参加しました。そして全国大会の3日間でたくさんの経験ができました。ビジネスラウンドでは私たちの案が採用され、私は社長を務めました。プレゼンや会場準備を行い、そこでは本当に大人の世界でビジネスを行っているような気持ちでした。実際に販売し、完売となり、とても嬉しく達成感でいっぱいでした。社長として会社をまとめることができるか心配でしたが、皆のおかげで成功することができました。本当にこのメンバーでよかったと思います。夜の立食パーティーでは企業の方と、私の興味がある、発展途上国への支援に関する事などのお話ができ、とても良い経験になりました。本戦では第2ラウンドで敗退となり、とても悔しかったです。大きな結果を残すことは出来ませんでしたが、全国大会出場は私にとって、とても大きな経験となりました。そして、もともと金融経済に関する知識がほとんどなかった私にとって、これからの人生においての大切な知識を得、学ぶ良い機会となりました。また、この大会に参加していなければ出会えなかった人達との交流ができて本当に良かったです。このような機会を作ってくださった方々に感謝しています。今回の経験をこれからの人生に生かしていけるよう頑張りたいです。ありがとうございました。





四国銀行

高知大会

12月1日(日)開催

主催 四国銀行

参加校一覧 高知県立高知西高等学校、高知県立高知小津高等学校、高知県立山田高等学校、高知市立高知商業高等学校、高知学芸高等学校、土佐高等学校、土佐塾高等学校

申し込みチーム数 15チーム(7校)

運営スタッフ感想 本年は15チーム30名が参加し、予選から決勝ラウンドまで熱戦が繰り広げられました。

決勝ラウンドでは予選2位の土佐高校「チーム土佐」が優勝を成し遂げ、全国大会の切符を手に入れました。

当日の様子は高知ケーブルテレビの年末・年始の30分番組で計10回放映をいただき、他、地元新聞の記事にも掲載いただきました。

参加者の感想では、「大会への参加が経済のことを知りたいと思うきっかけとなった。」「参加できて楽しかった。次回も参加したい。」といった感想をいただき、スタッフも大変嬉しく感じております。

今後もさらに多くの高校生に参加いただけるような大会にできるように趣向を凝らすていきたいと思います。

優勝チーム 土佐高等学校
「チーム土佐」





高知大会代表 土佐高等学校 2年

岸 本 行 広

今回のエコノミクス甲子園には初めての参加でした。事前にYouTubeで前年の大会の様子を見ていてとてもレベルの高いチームばかりが集まっていることを知っていたので自分達が大会で通用するのかなというのを大会前からずっと考えていました。また、3日間という短期間で県外のチームの人々と馴染めるかどうかと緊張していました。しかし、1日目のエコノミカ大会から話しかけてくれた人がいっぱいいて日が経つごとに仲良くなった人が増えていき、嬉しく思いました。

2日目のビジネスラウンドでは、できるだけ多くの商品を来賓の方々に売るという1つの目標に向かって一日中一緒に頑張ってくれたグループのメンバーと出会うことができました。意見を出し合い、最善を尽くそうとする日頃の勉強だけでは経験できないことが経験できてとても良い機会となりました。グループのメンバーと助け合った結果、自分達のグループが1番多くの利益を生み出した時はとても達成感がありました。

3日目の本選では第1、第2ラウンドは運要素もあり勝ち上がったのですが準決勝ラウンドは明らかに他のチームが自分達より勉強で積み重ねた豊富な知識があり完敗でした。少しは接戦に持ち込めるだろうという甘い考えをもっていました。最後はやはり今までの積み重ねが勝負を決めると実感させられました。

ベスト16止まりのこの悔しさをそのままにするのではなく今後の生活に活かすことができなかつたら受験や部活の大会といった違う場面でも同じように中途半端に終わってしまうと思ったのでこれから精進して行きたいと思いました。エコノミクス甲子園で知り合えた友達には感謝がありません。ありがとう！

高知大会代表 土佐高等学校 2年

飯 田 弥 一

人生で初めて「全国大会」に出場することとなった今大会は自分たちも地方大会を優勝して出場権を勝ち取って出場したものの、全国から集まった精鋭が沢山いてピリピリして静かなのかなと思い、不安に思っていたのですが、いざ会場に着いてみると初対面でもみんなとてもフレンドリーでたくさん話しかけてくれたり、自分から話しかけても快く応じてくれて本当に良かったです。今回のメインイベントである3日目の全国大会は運が大きく自分達に働いてくれたこともあり高知県勢最高タイである準決勝ベスト16まで進むことができたり、とてもハイレベルだった予選の早押し、2ndラウンド、3rdラウンド、特に決勝を間近に見ることができ本当に楽しく有意義な時間でした。ですが、個人的にこの大会で最も印象に残っているのは2日目のビジネスラウンドです。と言うのも、ビジネスラウンドでは普段の生活では絶対に経験することのない企画の立案、実際の投資家へのプレゼン、原材料の調達、付加価値の創造、商品の販売などをほぼ全て自分達だけで行うことができ、またその過程で同じ会社の一員として一緒に働いた仲間との親交を深められたからです。この経験は一生忘れないと確信しています。

そして何より、この大会を運営してくれている協会の方々とボランティアであるにも関わらず大会を回してくれた大学生の皆様に感謝を申し上げたいです。本当に楽しく素晴らしい経験をさせてもらい、ありがとうございました。





北九州銀行

福岡大会

12月1日(日)開催

主催 北九州銀行

参加校一覧 近畿大学附属福岡高等学校、福岡県立門司学園高等学校、福岡県立筑紫丘高等学校、福岡県立福岡高等学校、福岡県立東筑高等学校、福岡県立小倉高等学校、福岡県立小倉商業高等学校、福岡県立小倉南高等学校、福岡県立八幡高等学校、福岡県立八幡南高等学校、福岡県立中間高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校、東福岡高等学校、明治学園高等学校、九州産業大学附属九州高等学校、久留米大学附設高等学校

申し込みチーム数 30チーム(16校)

運営スタッフ感想 学生のパワーに圧倒されました。
事前学習もきっちりしている学生が多く、全体としてレベルの高い大会だったと感じました。

優勝チーム 久留米大学附設高等学校
「1人あたりGDP」





福岡大会代表 久留米大学附設高等学校 1年
糸 永 泰 樹

私は、先輩から勧められて友達とエコノミクス甲子園に参加しました。最初は本戦に行けるなど全く思っていませんでしたが、ルールや運に助けられ、本戦に駒を進めることができました。

二日目のビジネスラウンドは、資金調達から商材調達、販売まで全て自分達だけで行うという貴重な体験をすることができました。また、仲間との絆も築くことができ、想定外のハプニングもありましたが、とても楽しかったです。この日の夜に行われた前夜祭では、金融業界で実際に働かされている方々の、興味深いお話を聞くことができ、良い刺激になりました。

三日目のクイズラウンドは、とてもレベルが高いもので、刺激を受けました。これは、予選についても言えることですが、ルールが考え込まれていて、楽しく金融について学ぶことができ、金融への興味が強くなりました。

今年は、クイズで好成績を残すことはできませんでしたが、この悔しさをバネにして、しっかり傾向と対策をして、来年こそはニューヨークを目指します。

最後になりましたが、スポンサーの企業さん、北九州銀行さん、このような場を設けていただきありがとうございました。

福岡大会代表 久留米大学附設高等学校 1年
楠 元 康 生

第14回エコノミクス甲子園全国大会に出場して強く感じた事を一言で表すなら、「自分の視野が広がった。」である。

まず当然ながら、経済についての知識が深まった。このエコノミクス甲子園は、高校生の経済についての知識量をただ問うクイズ大会では無く、事前学習課題が配布されるなど、僕達高校生が経済について学びやすい環境が整備されていたのが良かった。僕は「勉強はつまらないが、学問

は面白い」と考えている。経済の学習をする中で、経済学という学問に触れ、自分の好きな数学を用いた定量的な分析が行なわれていることを知った。やはり学問は面白いなと改めて感じるとともに、自分の視野が広がった。しかし理論的な話はそこまで多くなく、どちらかと言えば経済用語の暗記や経済政策などの内容を単純に暗記しなければならなかった。この単純暗記が僕は好きでは無いのだが、それを競うのがクイズであり、この点で理にかなっていると感じた。つまり、若い世代に金融知力なるものを普及させるという目的と、身に付けた知識量を客観的に、しかも楽しく評価することが出来るクイズという場が上手く噛み合っていた。

経済についての知識が深まっただけで無く、体験できたことも良い点だった。それがビジネスラウンドで、自分たちが自ら会社を動かし、販売して利益を得る体験が出来た。思い通りの利益は出ず、商売の難しさを実感できたことと、社員と協力して作業する中で、様々な地域の人と交流できたことなどにおいて、ビジネスラウンドは自分の視野を広げてくれた。

知らない事は目に見えない。知らない事は活かせない。自分が将来社会に出た時の為に、若いうちに様々なことに挑戦して視野を広げておくことは重要だと考えている。エコノミクス甲子園に参加した動機はそれだったが、小難しい事を抜きにして率直に感想を言えば、「とても面白かった。」





このまちで、あなたと
佐賀銀行

佐賀大会

12月8日(日)開催

主催 佐賀銀行

参加校一覧 早稲田佐賀高等学校、弘学館高等学校、佐賀県立神埼高等学校、佐賀県立佐賀西高等学校、佐賀県立三養基高等学校、佐賀学園高等学校

申し込みチーム数 27チーム(6校)

運営スタッフ感想 5回目となる佐賀大会はこれまでで最多の25チームに参加いただきました。さらに、強豪校が多数エントリーしたため、どこが優勝するのか予想がつかない状況であり、決勝へ進むことができたチームと予選敗退のチームとその点数差は僅差でした。また決勝でも、点数に抜kindでたチームがなく、最終問題終了まで優勝が読めない展開となりました。
今回は1年生が多く、閉会後に「また来年も出ます!」「来年は優勝します!」という声も聞かれ、スタッフとして大変うれしく感じています。
来年も多くの高校生に出場していただきたいです。

優勝チーム 早稲田佐賀高等学校
「CARMEL」





佐賀大会代表 早稲田佐賀高等学校 1年
南 出 敬 仁

エコノミクス甲子園全国大会は学ぶことが多い場所でした。もともと、経済にはあまり興味を持っていませんでしたが、相方の誘いを受け、今回初参加しました。地方大会で優勝し全国大会への切符を手にした時は、あまりに思いがけないことだったので実感が湧きませんでした。けれど全国大会が近づくとつれ、期待や不安がこみ上げてきました。そして満を持して東京へと飛び立ちました。

1日目は、エコノミカ大会が開催されました。事前に相手と数回遊んだ程度だったので、結果はあまり良くなかったのですが、対戦を通して様々な高校の人たちと話すことができ、有意義なものとなりました。

2日目は、筆記試験とビジネスラウンドが行われました。この日の朝、突然「プレゼントがある」と言われたのでワクワクしていましたが、それが筆記試験だと分かったときの落胆度は表現し難いものでした。ビジネスラウンドでは、初対面の人たちと共同で作業をする為、緊張してはいたものの、グループのメンバーが皆フレンドリーで杞憂に終わりほっとしました。実際にビジネスプランをたてて、仕入れをし、販売を行うというこのビジネスラウンドは決して1人で行うことはできません。だからこそ協力し合う大切さや仲間の存在の大きさを実感することができ、とても良い経験となりました。

そして3日目にはエコノミクス甲子園本戦が行われました。第一ラウンドは早押し対決でした。僕たちのチームは一番最初ただけに少し緊張していました。しかし、運が味方し勝つことができました。その後第二ラウンドもなんとか突破して、準決勝進出が決まりました。もしや、優勝も夢ではないのかと思ったのも束の間、準決勝では他の高校に実力の差を見せつけられ敗北してしまいました。悔しかったですが自分の中では納得のいく敗北でした。また、何より楽しかったので満足でした。

今回、金融に関する知識を学ぶ機会や様々な経験を与えてくださったエコノミクス甲子園及びその関係者の方々に

心より感謝致します。

ありがとうございました。

佐賀大会代表 早稲田佐賀高等学校 1年
花 山 晴 百

1日目

福岡空港から羽田空港に行きオリンピックセンターに着いた頃にはもう辺りはだいぶ暗くなってました。移動しただけなのに今日一日色々としたような気分でした。

この後のエコノミカ大会ではいろいろな人と対戦でき、楽しめました。優勝した人の得点がとても高くて驚きました。自分の得点を2倍しても届かなかったです。

2日目

朝早くに起きて同じチームになった方々と一緒に朝食を食べながらお話をしました。この後部屋に移動してそれぞれの役職や皆でどのような事業をするかなどを話し合いました。話し合いの結果、自分が当初考えていたものとは違うような事業案になったけれど、それはそれでいいなと思いました。午後からはそれぞれの部署に分かれてこれからやることの説明を受けました。自分は社長だったので財務の方たちと一緒に説明を受けたのですが、自分には難しくて何言ってるか全然分かりませんでした。チームの中にこういう事が得意な方がいたので心強かったです。この後に販売に向けて皆で色々準備しました。販売会では自分達が思ったような成果を挙げることが出来ませんでした。全て売れたところもあったみたいなんですごいなと思いました。でも黒字だったので良かったです。その後に基調講演があり、前夜祭がありました。アメリカンドッグが美味しかったです。この日は一日すごい疲れしました。

3日目

この日も朝が早く、正直体調がそんなに良くなかったです。第一ラウンドも第二ラウンドも運良く通過でき、準決勝まで行くことが出来ました。でも準決勝で出題された問題が全然分かんなかったです。なんとか二問正解出来たので本当に安心しました。もっと勉強してくるべきだったなと思いました。大会の最後には野中ともよさんのお話がありとても為になりました。

この三日間で普段はすることが出来ないような様々な経験が出来ました。最後にエコノミクス甲子園を開催して下さった方々、応援して下さいました方々に御礼申し上げます。





18ank 十八銀行

長崎大会

12月15日(日)開催

主催 十八銀行

参加校一覧 青雲高等学校、長崎県立大村高等学校、純心女子高等学校

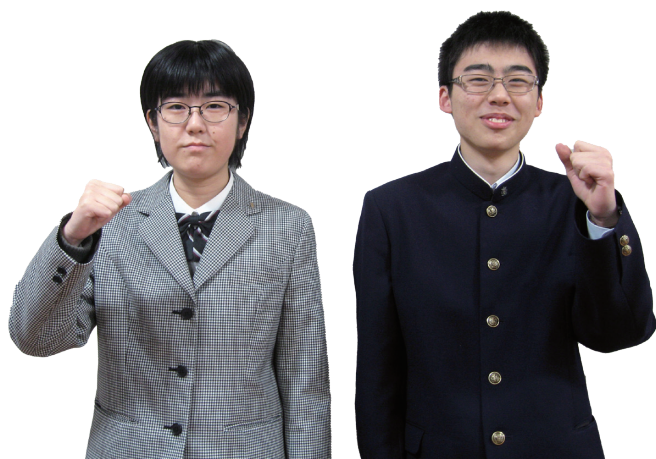
申し込みチーム数 4チーム(3校)

優勝チーム 青雲高等学校
「青雲高校」



長崎大会・総合成績		
1位	青雲高等学校 (青雲高校チーム/浦悠衣・田中優輝)	97 pt
2位	長崎県立大村高等学校 (おむらんちゃんチーム/高塚研志・俵坂仁)	92 pt
3位	青雲高等学校 (SQSC ADA チーム/和田彩愛・安達野乃)	62 pt





長崎大会代表 青雲高等学校 1年

浦 悠 衣

私は金融や経済に関する興味や知識はあまりなく、少しはわかるようになれば良いなという軽い気持ちでこのエコノミクス甲子園に参加しました。それがまさか全国大会に進出するとは思っていませんでした。勉強不足で不安しかなかった全国大会でしたが、出場できて本当によかったと思っています。

特に印象に残っているのは2日目のビジネスラウンドです。まずは短時間で仕上げなければならなかったプレゼン。マスクの入手が難しかったため計画を立て直し、プレゼンで何を話すか考え、ベンチャーキャピタルにプレゼンするまでこれといって役に立つことができませんでした。自分の積極性のなさや気が利かないこと、人前でうまく話せないことを悔しく思いました。しかし、チームのみんなのすばらしい仕事裁きを目の当たりにすることで自分の無力さが分かり、経験を積んでより自分を成長させなければならぬと気づけた良い機会となりました。そしてその後、それぞれが準備をし続け、販売。反省点は色々ありますが、1日かけてチームのみんなと協力して活動し、利益を出すことができた達成感は他では味わえないものでした。

そして3日目のクイズ大会。勉強不足で知識は足りていませんでしたが、運だけはついていて準決勝まで進むことができました。準決勝では確実な知識が必要とされたため、ほとんど正答も出せないまま敗退しました。もっと勉強しておけば良かったという後悔が残りました。しかし、他校の皆さんのエコ甲に本気で取り組む姿に刺激を受け、来年はしっかり対策をして実力を備えた状態で臨もうと思っています。

経験したことがないことばかりで不安でいっぱいでしたが、終えてみると全て良い経験となりました。また、金融経済の知識以上に多くのことを学ぶことができました。この大会を主催し関わった全ての皆様に感謝しております。ありがとうございました。

長崎大会代表 青雲高等学校 1年

田 中 優 輝

エコノミクス甲子園、それは経済という遠くも近い存在

を真面目に勉強してくる、端からみればただのオタクの集まりにしか見えない大会。たが、そこにはそこにいた者しか分からない熱い青春があったと思う。

気づくと私の手は汗でじっとり濡れていた。目の前には大勢の観客。中には部活の顧問や後輩もいるのだろう。横にいる相方からもひしひしと緊張が伝わってくる。本来励ましてあげたいところだが、そんな余裕はない。少し離れたところにいる松江高専に1点をとられ後が無くなっていくのだ。次の問題は確実に取ると拳を強く握りしめて問題の読まれる音に全神経を傾けた。2015年に国連で採択された… これは！生物の授業で扱ったぞ、行ける、いくんだ、ボタンを押せ！と脳が命じた刹那、ボタンを押したときの機械音が静まりかえっている会場に反響した。一瞬、微かな期待を抱いたが、それは儚くも松江高専の二方の声によって打ち砕かれた。

…終わった。もう、全て終わったんだ。

己の知力のなさを激しく恨んだ。ステージを後にしたときに感じた周囲からの同情の視線は特に辛く、客席に戻ったあとも相方に悟られないよう肩を震わせた。その時、初めてこんなにも自分が本気だったか気づき、応援してくれた人に自然と心から感謝していた。直後に食べた昼食のカツサンドは塩辛かったのを鮮明に覚えている。

心から人に感謝し、空腹を満たしたからのだろうか？ 気力が徐々に回復し、気持ちは第3ラウンドにしか向いていなかったね。失うものは何もない。さあ、自分の努力を全て出しきると自分に言い聞かせ昼食会場を、後にした。その後なんやかんやでベスト16に入れたことは驚きだった。

最後になりましたが、エコノミクス甲子園の皆様、松江高専をはじめとする対戦してくださった皆様、そして信頼してくれた相方の浦さんに謝辞を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。





明日の夢 人から人へ
宮崎銀行

宮崎大会

11月10日(日)開催

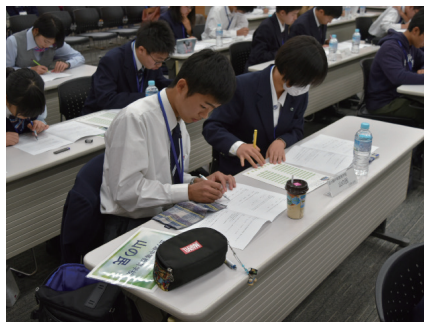
主催 宮崎太陽銀行、宮崎銀行

参加校一覧 日向学院高等学校、宮崎第一高等学校、宮崎県立宮崎西高等学校、宮崎県立宮崎大宮高等学校、宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校、宮崎日本大学高等学校

申し込みチーム数 15チーム(6校)

運営スタッフ感想 当日は小さな失敗もありましたが、参加いただいた高校生、観客の皆さんの理解や、司会のアナウンサーのサポート理解もあって、アットホームな宮崎大会だったのではないかと感じています。

優勝チーム 日向学院高等学校
「日向学院」





宮崎大会代表 日向学院高等学校 2年

下 窪 元 貴

エコノミクス甲子園は棚から牡丹餅で県代表を奪い取りました。県大会ぐらいいは事前教材をやりこんで、新聞でニュース見てれば、経済について興味を持っていたのが良いかもしれませんね。

一日目授業を二限目で切り上げて、中学の修学旅行以来の飛行機に搭乗し東京へやってきた。羽田空港デカすぎるやろと東京に降り立って思った。会場に着いて緊張した面持ちで、エコノミカ大会に参加した。まあ、1勝もできなかったが、久しぶりのカードゲームを楽しめた。

二日目はビジネスラウンドの前に抜き打ちテストがあった。地方予選より解答時間が短かった。そして、ビジネスラウンドは北野高校を中心としたグループで行なった。ここで商品売り込むことの難しさを知った。そして、偶然一緒になった仲間と過ごしたこの一日は、とびっきり楽しかった。

一日目、二日目の夜、本戦に向けて談話室で九州、沖縄、四国の一部の人たちで集まって対策をしたことは忘れられない。情報交換をしたり、各地方予選をどう勝ち上がってきたのかや、そこならではの、ディープな話をしたりしたのは忘れられない思い出だ。

三日目、本戦はめっちゃ緊張した。1次ラウンドは頭がホワイアウトしていたが、相方がカッコよく答えたのでクリアできた。第二次ラウンド、わたしたちは何もできなかったが準決勝にあがれた。準決勝、少し後悔が残るものになってしまった。できれば決勝に行きたかったと思う。準備したやつが最後は勝つのだと思った。最後に、エコ甲に参加できて本当に良かった。

宮崎大会代表 日向学院高等学校 2年

関 優 介

地方大会に出場することになった経緯は、実に単純なものだった。友人から一緒に出場しないかと言われた時、正直あまり乗り気ではなかった。昔から、何か新しいことに挑戦することが嫌いで、安定を望む傾向があった。だが、友人の説得を経て、出場することになった。友人の存在がなかったら、地方大会で優勝し、全国大会で多くの経験をするのがなかったと思う。

地方大会ではクイズに答える爽快感を経験した。クイズ大会とは無縁の生活を送ってきた自分にとって、早押しクイズやボードクイズはとても新鮮なものだった。特に早押しクイズで正解した時の爽快感は、今でも思い出されるほどだ。

地方大会で優勝してから、数か月後に全国大会が始まった。そこでは見知らぬ場所からの多くの人たちと出会った。話し方や生活の様子がそれぞれで異なり、それらに関する話を聞いてとても新鮮に感じた。そして、2日目のビジネスラウンドで彼らとともに行動したという経験は、普段地元でしか活動せず、ガラパゴス状態であった自分にとってとても刺激のあるものだった。彼らと共に行動したあの一日はこれからも決して忘れないだろう。

そして、クイズ大会が始まった。一番印象深いのは最初の早押しクイズだ。ボタンを押し、不安を抱きながら回答を述べる。妙に長く感じた沈黙の後に、正解を知らせる音が会場に鳴り響く。これには地方大会を凌ぐ爽快感を感じた。この経験もまた今回得たい収穫だと思う。

この大会では金融知力だけではなく同世代の学生たちとの交流、クイズを答えるという爽快感など多くの事を経験した。この体験は今後何年たっても忘れることはないだろう。





Kagoshima Bank

はじめよう、あたらしいコト。

鹿児島銀行

鹿児島大会

12月15日(日)開催

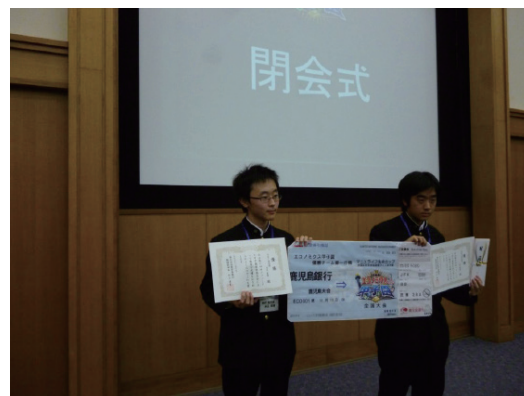
主催 鹿児島銀行

参加校一覧 鹿児島純心女子高等学校、鹿児島県立鹿屋高等学校、鹿児島県立鶴丸高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、鹿児島県立明桜館高等学校、鹿児島県立伊集院高等学校、鳳凰高等学校、霧島市立国分中央高等学校、樟南高等学校、ラ・サール高等学校、れいめい高等学校

申し込みチーム数 26チーム(11校)

運営スタッフ感想 初参加校が3校あり盛り上げてくれた。特に鹿児島純心女子高校のGlasse'sチームは初出場高校ながら3位に食い込み大健闘であった。
初出場予定であったれいめい高校が体調不良で不参加となったのは残念であった。
決勝ラウンドはラサール高校3チーム、鶴丸高校2チーム、鹿児島純心女子高校の争いとなった。2チームが抜け出し、ラサール高校 MMT 肯定派チームとラ・ガナドルチームの優勝争いとなったが、最後は MMT 肯定派チームの優勝で幕を閉じた。
MMT 肯定派チームは全国優勝を目指し、既に意気込んでいた。

優勝チーム ラ・サール高等学校
「MMT 肯定派」





鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校 1年
平 智 悦

この大会において、私は大きく2つのものを得た。1つは人とのつながりであり、もう1つは協働して1つのものを創りあげた経験である。これらは、私が参加した他の部活動系の大会、あるいは科学オリンピックでは得難い貴重なもので、また今後の人生の糧となるものであろうと確信している。

まず人とのつながりという点。宿舎で部屋が近かった6人で、前日の夜一緒に大会へ向けた勉強をしたり、本大会で席が近かったクイ研の人とは、春の競技クイズの大会と一緒にチームを組む約束をしたりと、参加者同士の距離は普通よりはるかに近かったと思う。さらにスタッフや来賓のOBの方とお話する機会もあり、社会人の先輩方と交流できたことも印象深い。

さらに、予選として行われたビジネスラウンドでは、短い準備期間の中、チームメイトと意見を熱く戦わせながら実際のVC投資家の方へプレゼンを行って資金を獲得し、また仕事を分担しながら経理・広告・販売などの実務を手掛けるといふ、信じられないほど貴重な体験を通じて、チームメイトたちととても深い絆を築くことができました。また、ビジネスの実務を肌で感じるのは初めてで、とてもエキサイティングだった。

ネット環境のない者が圧倒的に不利な事前情報発信のあり方や、運要素が強すぎる本大会の第2ラウンドなど、決して不満がないわけではない。しかし結果如何にかかわらず貴重な経験をさせてくれるのがこの大会の大きな魅力であり、また個人的には、この大会を通じて自分の目指すべき道を見つめなおし、「経営コンサルタント」という将来の夢を明確にすることができた。この点でも、ある種私の「人生を変える」大会となったのかもしれない。

鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校 1年
水 足 和 輝

この度は、マニユライフ生命カップエコノミクス甲子園全国大会に出場させていただき、本当に有り難うございま

した。

今回の成績を振り返ってみますと、鹿児島大会では、ルールに助けられる締まらない結果になってしまい、さらに全国大会でも、心理戦の弱さや多答の予想の甘さから勝ち上がることができませんでした。

このような残念な結果にはなりましたが、地方大会からビジネスラウンドの準備、全国大会当日に至るまで、非常に楽しく有意義な経験をさせて頂きました。

ビジネスラウンドでは特に、起業の難しさや楽しさの一端に触れたほか、今まで見たことも無かった会計処理の作業等も見ることができ、一生役に立つ貴重な体験になりました。その後の藤野CIOのご講演にも本当に感謝しております。

地方・全国共に、不勉強から運営の方々に多大なご迷惑をおかけし、チームメイトの足も引っ張ってしまいました。来年度は全国大会にもう一度出場し、より良い成績をのこすことができるよう精進していきたいと思います。

最後になりましたが、大会の運営をしてくださった金融知力普及協会の方々、鹿児島銀行の方々、八ッ橋をくださった京都銀行の方、そしてエントリーの時から応援してくれたクイズ研究会の部員と顧問、家族への感謝を述べて私の感想文とさせて頂きます。本当にお世話になりました。





◎ 沖縄銀行

沖縄大会

12月8日(日)開催

主催 沖縄銀行

参加校一覧 興南高等学校、沖縄県立開邦高等学校、沖縄県立那覇国際高等学校、沖縄県立那覇商業高等学校、沖縄県立球陽高等学校、沖縄県立浦添高等学校、沖縄県立浦添工業高等学校、沖縄県立小禄高等学校、沖縄県立具志川高等学校、沖縄県立中部農林高等学校、沖縄尚学高等学校、昭和薬科大学附属高等学校

申し込みチーム数 44チーム(12校)

運営スタッフ感想 当日の参加は11校36チームとなりました。ショッピングモールで開催したこともあり、参加している高校生の家族・友人、買い物客が観覧し熱気に包まれていました。また、決勝前にMASAマジック(沖縄出身マジシャン)のサプライズ登場もあり、その盛り上げりのまま決勝戦がスタートする流れとなりました。決勝戦は昨年の優勝メンバーがいるチームも進出し、今回の優勝チームを含め接戦となりました。ヘッジをかけた点数の加点が少なくなってしまうなど、正解数だけでは読めない展開で緊張感のある戦いとなり面白かったです。司会の方が生徒さんと舞台上でコミュニケーションを取りながら進行し、和気あいあいとした場面、真剣勝負な場面と会場全体一体感のある大会となりました。

優勝チーム 昭和薬科大学附属高等学校
「ゲリマンダー」





沖縄大会代表 昭和薬科大学附属高等学校 2年

伊佐 知駿

地方大会で弁当と500円分の図書カードをもらって気持ちよく帰る予定だったのですが、手違いででっかいボードと東京への切符を手に入れてしまいました。決勝のルール分からなかったんだけどな……結局バブル崩壊一回も起こらなかったし。

そんな鳥頭で漠然と感じていたのは不安、不安、そして不安でした。大海を常に見ていてもその向こうにいる怪物は知りません。でもすぐその沖縄銀行さんからの無言の圧力に恐れおののいて必死に勉強しました。行員の方を派遣していただいて負けたらね…

勉強していると、年末ごろエコ生（協会による生放送）でビジネスラウンドなる企画をするという発表がありました。他の参加者も書いていると思いますが、簡単に言うと「一日で企画・仕入れ・販売するから企画案を募集する」という内容。これで二週間ほど勉強に手が付けられなくなった。日頃から不満を見つけては改善する商品・アイデアを考えるのが趣味なものですから。まあしかし、ほとんどが今回の企画条件（金額やらターゲット層やら）に合わないのだから一から考えることになりました。朝起きたら何しようかな、寝る前にもどうしようかな、眠りも浅かったのでおそく寝ているときも考えていたかもしれません。そして提出締め切りの前日に一つのアイデアを提出しました。

『手作り保水液キット』

化粧品は高いが原価は安いことを突いた企画案でした。採用されたかって？されていません。その後知ったことですが、薬機法にクリティカルヒットしていました。来年の参加者に忠告です。法律は確認しておきましょう。アイデアが採用されないうえ、やっていない課題の山が残ります。

そうそう、同時期に準決勝用の問題も作っていました。日の目を見ることはありませんでしたが、一応載せておきます。解答はこの感想の最後に。

直接投資と間接投資、海外の債券を購入するのは何投資？

結局やりたい勉強全部できないまま全国大会に向かうことになりました。飛行機について銀行のおごりで昼食。し

ばらく時間があつたので、東証の見学に行きました。ぜひ一度見てみるといいと思います。ほかにも第一回国債の債券なども展示されていたし。

900字以上書いてまだ大会の内容に入っていないことに自分で驚いています。まあ、書いている人はほとんどいないはずなのでまあ、いいか。

ようやく会場のオリンピックセンターの話。会場に着くと、先についているチームがまあたくさん。お互いによそよそしくて気分が悪くなりそうでした。その後すぐにエコノミカ大会。どこと対戦したかはほとんど覚えていないが、最初に早稲田佐賀と対戦した記憶がある。お互いに内気だったけど、確か地方で「特定口座」を単独回答したという記事を思い出して話したら少し打ち解けて話せた…かな？地方大会のレポートニュース、全部確認しておいたほうがいいですよ。余談ですが、カード大会主催からもらった様々な資料の中に、針なしホッチキスがついていました。とても便利。無茶苦茶使っています。もっばら握力を鍛えるために。筋力がないので握りしめるだけで精いっぱいなのです。

さて、終わった後各部屋に行くのですが、13回大会の報告書を読む限り他のチームとの相部屋と聞いていました。それが開けてびっくり、個室でした。チームメイトと一緒にですらない。部屋のサイズも二畳ほどでまさに独房。話では例年の部屋が取れなかったそうですが、しかし、結果よかったと思います。というのも、二人で勉強できないのでみんな出てきます。そして大交流会に。部屋が近かったラサール、日向学院、土佐の南九州大集合メンバー（高知も実質南九州…ではないか…、皆さんやさしい方でした）で三日の日程の二晩ともしゃべり倒していました。勉強はしなかった気がする……まあともあれ仲良くなったと思う。行く前はお互いによそよそしく過ごすかと思っていたもので。あつ、夕ご飯の提供はありませんでした。コンビニで買っておきましょう。

そして二日目、聞いていたビジネスラウンドの日。食べる前にチーム分けの紙が配られます。今だったら言ってもいいかな、十案中の第八希望のチームでした。ほら、『手作りチョコキット』、別に男子で参加したくなるわけじゃないですか。不安に思いながら朝食を食べに行きます。ほかのメンバーを見つけられず、二人で食べていたらほかのメンバーに拾われました。県立福島、近大和歌山、鳥取西と同チーム。しかし思う、なぜ全員男子なのだろう。男子だけでチョコキットを作れって？

ここで食後大部屋に集められたかと思うと前で何かでそごそして突然筆記テストが始まりました。カルロスゴーンが現れたのは後で知った話。後ろの席の人にはよくわからなかった。過去の例では夕食後に実施していたというので、すごい衝撃でした。それもビジネスラウンドの途中。来年はエコノミカ大会中に出題されるのではと思っています。そして問題難度はとんでもない。本戦と問題を差し違えたのではないかと思うほどでした。ソルベンシー・マージンの求め方なんて知らないって。

ダメージを受けながら、チーム別の部屋に入ってその部屋でベンチャーキャピタルに企画のプレゼンをすることに。福島の社長が素晴らしいプレゼンをしました。コテンパン



にされました。卸売だ、付加価値をつけられていないなどいろいろな言われましたが、一番心に刺さったのことは、「それ、あなた欲しい？」

いらないです。反射的に返していました。口から出ていたら窓から突き落とされていたと思います、チームメイトに。その後30分後に再プレゼンをすることになりました。まとまるわけないよね。

終わったと思いながら再プレゼン。何も言わずに満額(15000円)くれました。それじゃだめだよと、無言で言われるのが一番怖い。その後ほかのグループメンバーに頭を下げまくってパンケーキミックスを売ることになりました。あんなわがままを聞いてくださりありがとうございました(特に近大和歌山の方)。

仕入れなどいろいろあって、販売会で全国のチームが集結。想像しようと思えばできるけど、まあうさかった。そりゃ、必至だからね。何々いりませんかー、それぞれ販売中で一す、元気ですが企業説明会のような冷静な感じをイメージしていたのでビジネスってたいへんだなあと遠目で見ていました。

結果は冒頭の10分で20セット完売。そのあと数量調整で残っていた在庫を売りさばいていました。利益は最終的に6000円ぐらい、おそらく全体で二位にはつかなかったのでしょうか。人生で一番長い一日でした。不満を上げるとしたら、印刷費が高すぎて商品化に入れたい資料を刷ったら利益が吹き飛ぶのでできなかったことです。評価基準に商品の質を加えてほしいかった。

結果に満足して帰る気分になっていたのですが、話によると明日が本戦ということ。前夜はよりによってエコノミカしていた気がします。初日の大会だけでは物足りなかった。

さて大会の日。昨日よりもご飯が食べられた。荷物を取って会場裏手へ。ここで反省点、キャリーバッグの分だけ荷物タグを受け取った。そのあと荷物をすべて手放すのですが(この時携帯をカバンに入れ忘れてそのあと大変なことになったっけ)、その後新幹線帰宅組と飛行機帰宅組の荷物を分けるのにも使われるらしく、つけなかったリュックサックが何とも言えないところに置かれていて探すのに苦労しました。気を付けましょう。いないか、そんな人。

その後早押しクイズに向けて待機中、試合順が近かった倉敷天城とだべる。二年連続の全国大会の方がいた。舞台上で読み上げられる問題をバンバン答えてた。レベルが違う。その後、相手に二問先取して何とか勝利しました。これで沖銀に怒られない。しかし第二ラウンド、負けてしまった。ルールはおそらく報告書の最後に書かれているはずなので割愛しますが、厳しかった。言い訳をすると左右の人数の差が小さすぎて読み切れなかった。毎ターン全員が一方に集まった状態から移動する、というルールだったら負けても仕方がないと思うのだけれど、そうすれば過半数が正解の時読みあいになるので…はい負け犬の遠吠えです。夜の勉強(遊び)メンバーの日向学院は無正解で突破したそう。まじか、日頃の行いって大切だな…

そういうわけで次の出番は敗者復活ラウンドに。これは完全に実力不足でした。一周目こそ答えられましたが、「～経済となる広辞苑の用語を答えなさい」この問題では五つ

目が出たあたりから、思いつかない。そばからドミノのように不正解が続く。「東洋経済」なんて広辞苑にあるわけがなく負けてしまいました。ただ、いい問題だったな…

そのあとについては書きません、というか書けません。参加してないので。ただ、問題が分からない人でも楽しめるようルールが練られていたので、観客席であれこれ言いながら観戦していました。あと、決勝ラウンド、あれハッキングだよな…

そんなわけで重たい三日の日程が終わりました。幾何かの後悔を残してしまいました。まずは色々話した人との連絡交換。沖縄には経済好きなんてほとんどいません。経済用語使って会話できる人たちなんてほとんどいないのに…。あと大会本戦。とても悔しい。こんな負け方で終わってしまうとは。来年高三ですがこれでは終われないので来年も出たいと思います。推薦取れなさそうだけど。

追記 要約はしたのですが文字数が減らない。二万字近い文章を圧縮したつもりがまだ四千字近いって…おそらくダントツ一位ですが許してください。

追追記 自作問題の答えを付け忘れました。正解は間接投資。理由は字数が大変なので省略します。

沖縄大会代表 昭和薬科大学附属高等学校 2年

早川 雄基

今回のエコノミクス甲子園においてはとても貴重な経験をさせて頂きました。

まず、友達に誘われて地方大会にエントリーしました。せっかくの出場ともあって、頂いた事前教材や、学校の政経の教科書を使い、猛勉強しました。その結果幸いな事に地方大会で優勝する事ができました。県代表という事もあって、更に経済の勉強を重ねました。地方大会から2ヶ月が経ち、遂に全国大会を迎えました。初日は"ビジネスラウンド"という、実際に高校生がビジネスを計画して、実際に足を運び、材料を仕入れて販売するというとても、現実味のあるイベントでした。予め振り分けられていたチームの仲間と協力して何回も何回も計画を練って販売にまで至りました。僕はその過程で経理を担当しました。振替伝票や損益計算書、貸借対照表などを作成しました。合計金額が合うまで何回も計算を要しました。しかし、本当に貴重な経験だったと思います。商品を計画して、材料を仕入れて、販売するという一連の中にはとても大きな工夫があり、多くの努力があつてのことなのだと実感できました。その翌日はいよいよ大会本番でした。初戦は普通の早押しクイズで、勝ち上がる事ができました。その次はシーソーゲームという惜しくも敗れたラウンドでした。そのラウンドではクイズでは正解できたものの、ルールの上で惜しくも敗退してしまいました。ですが、そのラウンドで大きく学べた事が一つあります。それは経済は運も付き物だということです。経済は運も大事な要素なのだと分かりました。

この大会を通して経済について多くの事を学び、そして、一緒に協力できる頼もしい仲間と出会える事ができました。





この大会を運営してくださった、大学生の皆さん、スポンサーの皆さんにおかれましては、誠にありがとうございました。本当に有意義な時間でした。





インターネット大会 ————— 12月15日(日)開催

主催 住信 SBI ネット銀行

優勝チーム N 高等学校

参加校一覧 静岡県立浜松西高等学校、静岡県立浜松北高等学校、静岡サレジオ高等学校、近畿大学附属広島高等学校 東広島校、茨城県立水戸第一高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、精道三川台高等学校、福島県立相馬高等学校、福岡県立修猷館高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校、福井県立藤島高等学校、福井県立武生高等学校、盛岡白百合学園高等学校、熊本県立熊本商業高等学校、熊本県立八代高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、浜松学芸高等学校、沖縄県立球陽高等学校、江戸川学園取手高等学校、栃木県立足利高等学校、栃木県立真岡高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立佐野高等学校、東京学芸大学附属高等学校、本郷高等学校、愛媛県立松山西中等教育学校、常総学院高等学校、山梨県立都留高等学校、山梨県立上野原高等学校、宮城県仙台二華高等学校、安田女子高等学校、宇都宮短期大学附属高等学校、大阪府立天王寺高等学校、大分県立宇佐高等学校、大分県立大分豊府高等学校、北陸高等学校、北海道千歳高等学校、北海道函館商業高等学校、加藤学園暁秀高等学校、仙台北百合学園高等学校、仁愛女子高等学校、京都府立南陽高等学校、N 高等学校、AICJ 高等学校、国立師範大学附属高等学校(台湾)

「へんかくかつよう」



申し込みチーム数 69 チーム (45 校)

運営スタッフ感想 今回で7回目の開催となるインターネット大会では、マイナス金利や他業種からの銀行業界参入など現在の金融業界を取り巻く環境について幅広く出題いたしました。インターネットを通じての大会ですので、他の大会と違って非対面での開催となりますが、皆さんの高レベルな解答を見て、熱心に取り組まれている皆さんの姿が目につかぶようでした。この大会をきっかけに金融経済に興味を持って理解を深めて頂ければ、大会実施者として大変嬉しく思います。

ご参加いただいた高校生の皆さま、開催にあたりで尽力いただいた関係者の皆さま、本当にありがとうございました。

インターネット大会・総合成績		
1位	N高等学校 (へんかくかつようチーム/立花 冠・渡辺 桃香)	175 pt
2位	渋谷教育学園渋谷高等学校 (リンドリンドチーム/中島 芹・妻鹿 涼介)	158 pt
3位	安田女子高等学校 (スタビライザーチーム/山根 理紗子・砂田 七彩子)	138 pt
4位	加藤学園暁秀高等学校 (第一級特異点チーム/高野 伶央・富科 慶佐)	131 pt
5位	愛媛県立松山西中等教育学校 (K&Eチーム/飯田 翔飛・今井 愛貴)	122 pt





ネット大会代表 N 高等学校 2年

立 花 冠

エコノミクス甲子園に出る前は、私は金融・経済に関して、全く無知と言ってもいいほどでした。また、早押しクイズもやったことがありませんでした。しかし、大会に応募すると、教材が配布されることを知り、金融・経済を勉強してみたいといった軽い気持ちで、応募締め切りが終わっていなかったインターネット大会にエントリーしました。すると予選を運よく突破し、全国大会に進むことができました。そういった経緯で、出場した全国大会でしたが、大会が終わった今、たくさんの思い出が残っています。

なので、それらを振り返ってみようと思います。

一日目は、エコノミカ大会とルール説明等がありました。周りがほとんど制服でいる中、オレンジのパーカーで会場に入ってしまったのを覚えています。エコノミカは、大会が始まる5分前に初めてルールを知りました。最初の方に戦った人は、時間をかけてしまったことを謝りたいです。やりながらルールを覚えていったのですが、なかなか奥深いものでした。相手のアセットをなくしていくか、それとも自分のストックを増やしていくか。楽しみながら、経済を学ぶことができました。結果は、なぜか5勝1敗でした。最終試合で負けてしまった方は、かなりエコノミカをやりこんでいるように見えました。エコノミクス甲子園にでるとエコノミカが配られるので、全国大会までやりこむのも、一つの楽しみ方だと思います。悔しい。

二日目は、ビジネスラウンドがありました。全く見ず知らずの人たちと、一緒に株式会社を作っていくのは、最初はどうかと思いましたが、共に朝ごはんを食べるところから始まり、最後には三日目のクイズで、チームが同じ人たちを応援するまでになりました。

三日目はクイズ本戦でした。どのラウンドもルールが作り込まれており、楽しむことができました。結果は乏しいものでしたが、もう一度リベンジしたいと思いました。最後に、今回の大会を通して金融知力だけでなく、たくさん思い出を作ることができました。これができるのは、金

融知力普及協会やスポンサー企業、金融機関や運営スタッフ、エコミクス甲子園に関わるすべての皆様の協力のおかげでございます。素晴らしい大会をありがとうございました。

ネット大会代表 N 高等学校 2年

渡 辺 桃 香

ペアと会うのは全国大会の時が4回目でした。1回目は事前学習教材を渡してもらうため、2回目はインターネット大会、3回目は事業計画書作りと提出用の写真を撮るためでした。インターネット大会の際の事前に提出する小論文は、通話しながら Google ドキュメントで共有して書き上げました。

ビジネスラウンドでは、顧客層を考えて値段設定を行ったり、広告用のポスターを作ったりと日頃の高校生活では学べないマーケティングの手法を実際に行うことで学びました。定款作成や契約書作成など今まで経験のないことだらけで最初は右も左もわかりませんでしたが、最後の締め切りには間に合いほっとしました。

本選では第一ラウンドを通過し第二ラウンドで敗退、敗者復活戦でも敗退という結果に終わってしまいました。しかし、ビジネスラウンドで同じ会社だった人たちが決勝まで残っており、それが自分のことのように嬉しく思いました。クイズ等の知識だけでなく、瞬時に理解し決断する能力を求められる部分も多々あり、ただ覚えるだけではなく実践できるかの大切さを学びました。

講演会や前夜祭などで色々な方のお話を聞いて見聞を広めることができ、それをこれからに生かしていきたいと思いました。まだ創立して間もない、かつ通信制高校であることから様々な方に N 高について聞かれたりして、とても嬉しかったです。

最後に、エコノミクス甲子園を開催して下さった方々、応援して下さいました方々に御礼申し上げます。





1 日目

■エコノミカ大会

今回のエコノミクス甲子園全国大会では、大会初日に「三井住友 DS アセットマネジメント杯エコノミカ大会」を開催しました。全国大会に出場する高校生には事前にエコノミカ令和パックを配布しており、「令和パックの部」と「オリジナルデッキの部」の2部門に分かれて多くの高校生に参加してもらいました。対戦相手はランダムで、対戦が終わり次第新たな相手を探してもらうという形式で行い、限られた時間ながら対戦を多くできた高校生が沢山いました。令和パックは従来のスターターデッキよりも分かりやすく簡単なルールであったこともあり、カードゲームをやったことがないという高校生にも楽しんでもらえたと思います。また、対戦を通じて高校生同士のコミュニケーションが生まれているところも見られ、アイスブレイクとしてのエコノミカ大会の意義を感じることができました。

表彰式では、それぞれの部門の上位入賞者に景品が贈呈されました。また、三井住友 DS アセットマネジメント様のご厚意により、入賞者の他にくじで選ばれた10名の高校生にも豪華商品が贈呈され、大会の結果に関わらず多くの高校生に楽しんでもらえました。三井住友 DS アセットマネジメントコミュニケーション推進部部長の伊藤様からは、昨今の世界情勢や、その中でいかに生き抜いていくかといった力強いお言葉、そして高校生への激励を賜りました。社員の方々にも大会中に多大なるご支援をいただきました。末筆にはなりますが、ここに感謝の意を表します。

2 日目

■筆記クイズ

大会2日目はビジネスラウンドに先立ち、朝8時半から筆記クイズが行われました。ほとんどは4択問題でしたが、定義を確認する問題や計算が必要な問題など難しいものも多く出題されました。また、それに加えて制限時間は15分と高校生にとって厳しい条件になりましたが、各チーム協力して問題に取り組む姿が見られました。

60点満点のクイズで平均点が30.5点ほどと、とても難しい問題でしたが、京都代表洛北高校のペアが53点を叩き出すなど高得点のチームも複数あり、3日目に向けて自信をつけられたチームもあったようです。





■ ビジネスラウンド

ビジネスラウンドは昨年までのプレゼンテーションラウンドに代わって、今年から設置されたラウンドです。

事前に高校生から募ったビジネス案の中から、独自性や実現性を踏まえて10案が選定され、各案について4または5校で1チームを作り、各チームが模擬店を運営しました。各チームは事業計画書の作成に始まり、ベンチャーキャピタル役との事業資金折衝、仕入れ、販売、決算書の作成までを行いました。

各チームの発表から決算書の完成までを1日でやってしまう大変厳しいスケジュールでしたが、殆ど初対面であるとは思えないほどに連携が取れていました。その結果、ほとんどのチームは利益を計上することができ、最も利益を出したチームはスマートフォンの除菌セットを販売し60%強という素晴らしい純利益率を記録しました。

その後はレオス・キャピタルワークス株式会社代表取締役社長の藤野英人様より基調講演をいただきました。



■ 前夜祭

模擬店での販売と、基調講演聴講の後、前夜祭として立食パーティーが行われました。前夜祭には高校生の他、地方大会主催金融機関の方々、ご来賓の方々も参加され、年齢の垣根を越えた交流が会場内のあちこちで行われました。また、地方大会主催金融機関の方々に各都道府県の特産品を持ち寄っていただき行った抽選会では、豪華な品々を前に大いに盛り上がりしました。高校生は束の間の休息を楽しんでいました。





3 日目

■ 第1ラウンド「運命の分かれ道！ 相対取引クイズ」

今年の第1ラウンドも昨年に引き続き、1対1のタイマン形式で早押しクイズを行いました。出題問題数は1組につき最大3問で、正解の場合だと1点獲得、不正解の場合だと1点減点となり、2点差をつけたチームが勝利となります。不正解すると減点になるため、慎重さも求められるルールでしたが、問題文の序盤で果敢にボタンを押して解答する高校生も多く、白熱した戦いが繰り広げられました。

また、ラウンド後半に行われたクイズ研究会所属の高校生有志による「クイズ研究会対決」では、クイズを題材とするWebメディア「QuizKnock」様より、こうちゃん様による問読みが行われました。問読みの他にも、出題された問題や早押しボタンを押すタイミングについての解説もしていただき、会場は大変盛り上がりしました。

このラウンドの勝者は第2ラウンド、敗者は第3ラウンドに進出しました。

勝利チーム（第2ラウンド進出）

新潟、洛北、昭和薬科、広島学院、東海、寒河江、今治西、N高、県立福島、ラ・サール、江戸川取手、上田、慶應SFC、土佐、日向学院、聖ウルスラ、北野、栄東、倉敷天城、都立武蔵、早稲田佐賀、松江高専、岩泉



■ 第2ラウンド「抜け出せ！ レッドオーシャンクイズ」

第2ラウンドは、第1ラウンドのタイマン早押し対決で勝利したチームが進出しました。高校生は4択問題に解答しますが、それだけでなく正解したチームは“シーソー”の反対側に動くかそのまま動かないか選択しなければなりません。もし“シーソー”のチーム数の多い側にいた場合は帽子が没収され、各チーム2つある帽子がなくなり、さらに“シーソー”の重い方にいた場合敗退となります。クイズに正解することはもちろんですが、左右のチーム数のバランスを考え、他のチームの動きを予測することが必要となります。

高校生はどのチームもペアで熱心に相談しながら4択問題に解答していました。また、正解した後も左右のチーム数を数えながらペアで作戦を考えていました。

準決勝ラウンド進出チーム

新潟、土佐、洛北、北野、日向学院、都立武蔵、栄東、早稲田佐賀、松江高専、聖ウルスラ





■ 第3ラウンド「耐え抜け！上場廃止クイズ」

惜しくも第1ラウンドで敗れてしまったチームが参加する第3ラウンドも4択クイズでした。このラウンドでは、各チームを上場銘柄に見立て、2問連続で不正解してしまうと「上場廃止」となり敗退してしまいます。つまり、残っているチーム数が規定に達するまで「上場廃止」にならないことが勝ち抜けの条件となります。また、1問不正解すると「監理銘柄」扱いになり、ペアのうち1人だけで問題に答えることになります。そうすると、ペアで相談することができず、個人の実力が重要となるので、「監理銘柄」となる際、どちらが解答者になるか熱心に相談するチームが多く見られました。

第2ラウンドで10チームが勝ち抜けたので、この第3ラウンドで勝ち抜けるチームは23チーム中4チームだけでした。この非常に少ない枠をかけてレベルの高い戦いが繰り広げられ、途中全員正解の問題が出るなど、白熱したラウンドとなりました。

準決勝ラウンド進出チーム

高志、城東、高松、青雲



■ 敗者復活ラウンド「滑り込め！アップオアアウトクイズ」

敗者復活ラウンドには第2ラウンド、第3ラウンドで惜しくも敗退してしまった32チームが参加しました。ルールは単純な多答クイズ。“山手線ゲーム”の要領で32チームが順にクイズに解答します。問題は南米南部共同市場（MERCOSUR）加盟国を答える答えの少ないものから、広辞苑に掲載されている「〇〇経済」など答えの多いものなど多様です。

スポットライトに照らされたステージ上のマイクに会場の全視線が集中する中で、高校生たちは難しい問題にも正答し、会場を沸かせていました。また、惜しい解答や広辞苑に掲載されていない意外な「〇〇経済」にステージ上の高校生や観客がどよめくこともありました。

準決勝ラウンド進出チーム

岐阜、江戸川取手





■ 準決勝ラウンド「市場を読み取れ！マーケティングクイズ」

準決勝ラウンドは第2ラウンド、第3ラウンドそして敗者復活ラウンドから勝ち上がった16チームによって行われました。各チームは8チームずつの2組に分かれ、ボードクイズに挑みました。このボードクイズは高校生が予め作った問題を高校生が出題するという珍しい形式で行われました。各チームには自分たちで作った問題と準決勝までに敗退した2チームが作った問題の合計3問が与えられ、そのうち1問を出題しあいました。ボードクイズの正答数に、自チームが出題した問題に正解したチーム数に応じた倍率をかけ、最終得点となりました。この倍率は正解したチーム数が多かったり、逆に少なすぎたりすると低くなる仕組みで、適切な難易度の問題の出題が勝利へのカギとなります。

どの問題も質が高く、熱戦となりました。中には2択の問題を作成し、正答率をコントロールして高倍率を得ようと工夫しているチームもありました。

決勝ラウンド進出チーム

新潟、北野、高松、都立武蔵、栄東、江戸川取手





■ 決勝ラウンド「連結せよ！ブロックチェーンクイズ」

全国の高校生の頂点が決まる決勝ラウンドは、暗号資産を支えるブロックチェーンという技術を題材にしたルールで行われました。

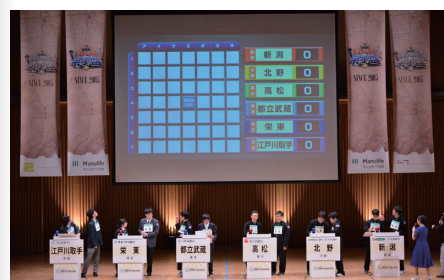
このルールでは、クイズに正解することによって、中央のブロックを起点に、既に置かれたブロックの隣に新たなブロックを置き、チェーンを作ります。最長チェーンに含まれる自チームのブロック数が得点となります。

正解チームは、新たなブロックを2つ置くことができます。更に、早押しボタンを押して正解したチームは、既につながれたチェーンを繋ぎ直すこともできます。最長チェーンを作るには、他チームが置いたブロックをうまく活用しなければならず、他チームの動向を分析することが求められる極めて難しいルールです。

序盤から中盤にかけて、どのチームも自分のチェーンを伸ばすことに努めました。そして9問目には、最長のチェーンが2つある、接戦となりました。最終問題で早押しボタンを押して正解した高松高校が繋ぎ直しを行い、最長のチェーンを作ったことで、大阪大会代表・北野高校の優勝、香川大会代表・高松高校の準優勝が決まりました。

最終成績

優勝 大阪代表 北野
準優勝 香川代表 高松
第3位 新潟代表 新潟
第4位 東京代表 都立武蔵

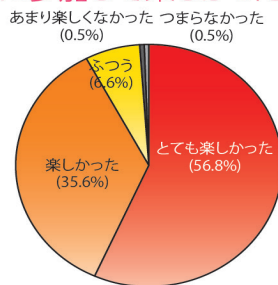




参加者アンケート *Participant Questionnaire*

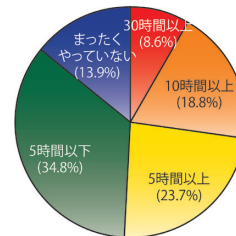


Q. 地方大会に参加して楽しかったですか？



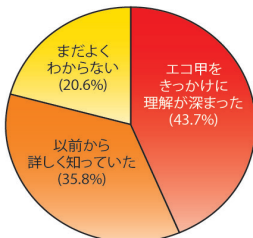
9割以上の参加者が参加して楽しかったと答えています。主催している金融機関様の成果です。

Q. 大会に備えてどれくらい勉強しましたか？



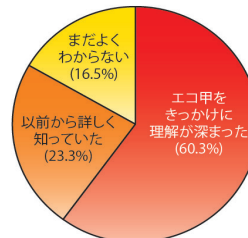
約半数の参加者が5時間以上勉強したと答えています。約14%のまったくやっていない生徒へのアプローチが課題です。

Q. マルチ商法やねずみ講について



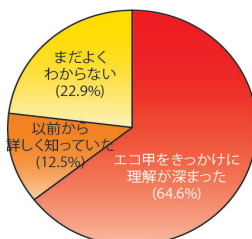
4割以上の生徒がエコノミクス甲子園をきっかけに理解を深めており、犯罪被害の予防にもつながっていると言えます。

Q. リスクとリターンについて



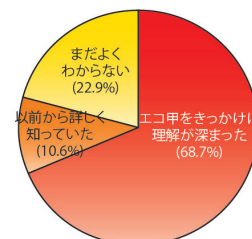
経済学の基本であるリスクとリターンについて、6割近くの生徒がエコノミクス甲子園をきっかけに理解を深めています。

Q. 株式や外貨などの資産運用について



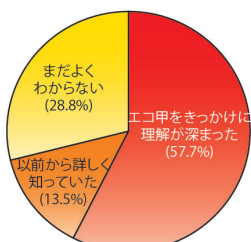
資産運用の基本となる株式や外貨については、6割以上の生徒がエコノミクス甲子園を通して理解を深めてくれました。この大会が金融教育に対して貢献できていると言えます。

Q. 保険の仕組みや種類について



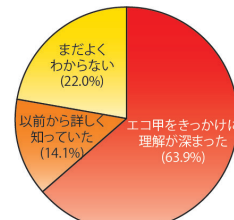
4つの具体的な事柄の中でも、特にエコノミクス甲子園を通して理解が深まった割合が高いのが保険についての知識です。

Q. ローンの仕組みについて



ローンの仕組み等も学校で習うことはありませんが、バイクの購入など場合によっては高校・大学で関係することもあります。

Q. 年金の仕組みについて



近年、ニュースで取り上げられることが多くなった年金についても、6割強の生徒がエコノミクス甲子園をきっかけに理解を深めてくれました。今大会をきっかけに、日ごろのニュースについての興味・関心も大きくなることでしょう。



■地方大会

大会名	取材 (TV)	取材 (新聞)	取材 (その他)
北海道		ニッキン	
岩手	テレビ岩手	岩手日報 盛岡タイムス	
秋田		秋田魁新報	
山形	YTS 山形テレビ局	山形新聞 日本金融通信	
福島		福島民報 福島民友新聞	
茨城		茨城新聞	
栃木	とちぎテレビ	下野新聞	
群馬	群馬テレビ	上毛新聞 群馬経済新聞	
千葉	チバテレビ	毎日新聞 千葉日報	
新潟	テレビ新潟		
富山	チューリップテレビ	北日本新聞 富山新聞	
福井	FBC 福井放送	福井新聞	
長野		長野日報	
岐阜	中京テレビ テレビ愛知 岐阜放送 CCN	岐阜新聞 中部経済新聞	
静岡		静岡新聞	
愛知		中部経済新聞 ニッキン	
三重	三重テレビ 中京テレビ ZTV		

大会名	取材 (TV)	取材 (新聞)	取材 (その他)
滋賀	ZTV	朝日新聞 産経新聞 京都新聞 中日新聞	
京都	KBS 京都 テレビ大阪	読売新聞 京都新聞	
奈良	奈良テレビ	奈良新聞	
和歌山	朝日放送 テレビ和歌山	わかやま新報	
鳥取	山陰中央テレビ	日本海新聞	
島根		山陰中央新報	
岡山		山陽新聞 日刊工業新聞	瀬戸内経済レポート
広島	テレビ新広島		広島 FM
山口	山口朝日放送	山口新聞	
徳島		徳島新聞	
愛媛		愛媛新聞	
高知	高知ケーブルテレビ	高知新聞	
佐賀		佐賀新聞	
宮崎	宮崎ケーブルテレビ	夕刊デیلیー新聞 宮崎日日新聞	
鹿児島	MBC		
沖縄	沖縄テレビ		FM 沖縄

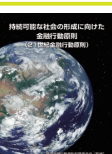
■全国大会

テレビ	テレビ新潟	新潟一番「エコノミクス甲子園全国大会 新潟代表に密着」
新聞	ニッキン	「エコノミクス甲子園・全国大会 46校が金融知力競う 優勝は大阪の北野高校」
新聞	日本教育新聞	「金融の知識競い合う エコノミクス甲子園 大阪・北野高が初優勝」
新聞	山口新聞	「宇部高専女子ペアが出場 エコノミクス甲子園」
新聞	東奥日報	「エコノミクス甲子園全国大会 弘前高、準決勝進めず」
WEB	Quick M	「高校生が激アツ対決！エコノミクス甲子園 大阪代表の北の高校が初優勝」
WEB	QUIZ JAPAN	「北野高等学校が初出場で初優勝!!! 『第14回エコノミクス甲子園』全国大会レポート (PART.1) (PART.2)」
WEB	マイナビ	進路のミカタ「第14回エコノミクス甲子園 全国大会・優勝 大阪府立北野高等学校」



エコノミクス甲子園では各企業・団体様から寄付していただいたテキストを、事前学習教材として無料で参加生徒に送付しております。

事前学習教材の内容から何題かクイズが出題されるので、生徒達も大会前にしっかりと勉強してくれており、単純にテキストを配布するよりも高い学習効果を上げています。

 ■ 今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎 (作成：金融知力普及協会)	 ■ もっと知りたい税のこと（平成 30 年 6 月） (作成・寄贈：財務省) 財務省 Web サイト https://www.mof.go.jp/
 ■ 初めての「リート」 今日から始められるかんたん不動産投資 (作成・寄贈：不動産証券化協会) 不動産証券化協会 Web サイト https://www.ares.or.jp/	 ■ 基礎から学べる金融ガイド (作成・寄贈：金融庁) 金融庁 Web サイト https://www.fsa.go.jp/
 ■ マナブとメグミのお金のキホン BOOK (作成・寄贈：全国銀行協会) 全国銀行協会 Web サイト https://www.zenginkyo.or.jp/	 ■ 少額短期保険ガイドブック 2019 (作成・寄贈：日本少額短期保険協会) 日本少額短期保険協会 Web サイト http://www.shougakutanki.jp/
 ■ そんぽのホント（フレッシューズガイド） (作成・寄贈：日本損害保険協会) 日本損害保険協会 Web サイト http://www.sonpo.or.jp/	 ■ わかりやすい投資信託ガイド 2019 年版 (作成・寄贈：投資信託協会) 投資信託協会 Web サイト https://www.toushin.or.jp/
 ■ これであなたもひとり立ち (作成・寄贈：金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/	 ■ わかりやすいリートガイド 2019 年版 (作成・寄贈：投資信託協会) 投資信託協会 Web サイト https://www.toushin.or.jp/
 ■ 大学生のための人生とお金の知恵 (作成・寄贈：金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/	 ■ 前払式支払手段で利用者のみなさまへ (作成・寄贈：日本資金決済業協会) 日本資金決済業協会 Web サイト https://www.s-kessai.jp/
 ■ 18 歳までに学ぶ 契約の知恵 (作成・寄贈：金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/	 ■ ほけんのキホン (作成・寄贈：生命保険文化センター) 生命保険文化センター Web サイト http://www.jili.or.jp/
 ■ 株式会社制度と証券市場のしくみ (作成・寄贈：日本証券業協会) 日本証券業協会 Web サイト http://www.jsda.or.jp/	 ■ 進学にかかるお金と奨学金の話 (作成・寄贈：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会) 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 Web サイト https://www.jafp.or.jp/
 ■ 持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 (作成・寄贈：環境省) 環境省 Web サイト http://www.env.go.jp/	 ■ 10 代から学ぶパーソナルファイナンス (作成・寄贈：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会) 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 Web サイト https://www.jafp.or.jp/



エコノミクス甲子園は、高校生の金融経済リテラシーを高めるという理念にご賛同いただいた、
各社様のご支援により成り立っています。
感謝の思いを込め、ここにご協賛をいただいた各社をご紹介します。

プラチナスポンサー



Manulife

マニユライフ生命

ゴールドスポンサー



Wiennomori Corporation



RHEOS CAPITAL WORKS

シルバースポンサー



大和投資信託
Daio Asset Management

ブロンズスポンサー



近畿日本ツーリスト



Grace & Mercy
日本 G & M 文化財団

地方大会主催金融機関の皆様





Special Thanks (順不同)

後援・協賛・協力の各社様はじめ、お力をお貸しいただいたすべての皆様(肩書は当時)

レオス・キャピタルワークス株式会社
代表取締役社長

藤野 英人様



認定 NPO 法人金融知力普及協会
専務理事

渡邊 英二



マニユライフ生命保険株式会社
常務執行役員 兼
チーフ・バンカシュアランス・オフィサー

松尾 嘉則様



マニユライフ生命保険株式会社
常務執行役員
チーフマーケティングオフィサー

浅井 鈴美子様



株式会社 QuizKnock
ユーチューバー

こうちゃん様



ときわ総合サービス株式会社
総務部長

大枝 康二様



三井不動産株式会社
ビルディング本部
日本橋一丁目オフィス 所長

佐伯 正人様



株式会社グッドバンカー
代表取締役社長

筑紫 みずえ様



一般社団法人日本金融人材育成協会
理事

松田 大様



株式会社 MS & Consulting
リレーション事業本部
マネージャー

角田 聡様



株式会社近畿日本ツーリスト関東
代表取締役社長

高川 雄二様



ラッセル・インベストメント株式会社
運用部
シニア・ポートフォリオ・マネージャー

箱崎 真紀子様



レオス・キャピタルワークス株式会社
取締役運用本部長

湯浅 光裕様



株式会社一休
執行役員宿泊事業本部長

巻幡 隆之介様



認定 NPO 法人金融知力普及協会
理事長

金子 昌資



株式会社ウィーンの木
代表取締役社長

森 正文様



マニユライフ生命保険株式会社
専務執行役

勝矢 宏様



認定 NPO 法人金融知力普及協会
理事

野中 ともよ





金融知力普及協会をお支えいただいている各社

サンメッセ株式会社 SMBC 日興証券株式会社 公益社団法人日本証券アナリスト協会
日本証券業協会 マニユライフ生命保険株式会社 三井住友 DS アセットマネジメント株式会社
三井不動産株式会社

問題監修

荻野 昭一 先生（北海道大学 名誉教授） 各地方大会、全国大会でのボランティアの皆さま

金融知力普及協会 ボランティアスタッフ

赤塚孝紀	杉原 諒	鈴木悠希	中川原杏奈	縄田寛希	遠藤 優
池田 怜	須永智也	高橋昂汰	堀島正道	古谷和弥	北島 拓哉
小澤公弥	谷 尚 俊	竹中颯太郎	山本 桐也	岡本秋星	池田麟太郎
越智耀亮	中村徹舟	田島祐也	大城奈々	住吉康大	中里 静
籠尾健太郎	平本 舜	橋場芽衣	神谷涼介	御手洗伸	西川 陽之
久米智尋	丸山大貴	橋本信朗	亀山尚輝	横山智紀	岡辺公志
児玉優希	森 愛 美	村上将紀	齋藤賢太	澤田昂大	渡辺 幸輝
斎藤有紗	山口温大	脇田直樹	仙田晴紀	濱元貴大	木原健太郎
逆井遥暉	山本亜侑	井村一政	山田怜旺	藤井俊秀	
佐々木洸輔	井関友洋	関原悠吾	山村玲雄	松田直晃	
佐々木美玖	大坪かれん	小谷健太	佐々木翼	松原尚生	
笹山順平	大日方究	栗野息吹	佐藤賢斗	山根有輝也	
下條航大	門谷春輝	童 菲	末武大河	宝蔵蓮也	

アドバイザー

クリエイティブ・ユークレイル・エイト 藤田雄亮



第14回大会
スタッフリーダー
門谷 春輝

こんにちは。第14回エコノミクス甲子園全国大会のリーダーを務めました門谷春輝です。
全国大会の前日、私が会場を歩いていると、全国大会出場者のある高校生がびっしりと情報を書き込んだ10冊くらいのメモ帳を熱心に読んでいるのを目にしました。そのメモ帳にあるような金融・経済知識に関する勉強が、時にはつらく、膨大な時間を要するものであったことは想像に難くありません。ただ、少しでも知識を得たいという貪欲さや熱意が彼らを学びへと駆り立てたのだでしょう。今年の全国大会に向けた準備に1年間関わってきた者として、高校生が青春をかけて準備して挑む、本家の甲子園さながらの熱意に支えられたこの大会に関われたことを大変光栄に思います。

また、今回の全国大会では、ビジネスの一連の流れを体験してもらうことを目的として、初めて「ビジネスラウンド」を実施しました。大会に向けて覚えた金融知力をビジネスの場面に応用する機会を設けることができたことは、「本当の金融知力」をつけるために非常に大きな意義があったと考えています。ドイツの詩人・ゲーテは「本で読んだ知識は、それを体験してこそ本当の知識になる」と遺していますが、知識や情報のデータベース化が急速に進んでいく現代においては、経験に裏付けられた「本当の知識」を重ねていくことがますます重要になっていくだろうと考えています。

最後に、ボランティアスタッフを代表して、この大会を支えてくださったすべての方に御礼を申し上げます。来年度以降も、より充実した大会を作り上げるため、スタッフ一同精進して参りますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い致します。



第14回大会
サブリーダー
高橋 昂汰

第14回エコノミクス甲子園のボランティアスタッフサブリーダーを務めました、高橋昂汰です。まず、開催にあたって多大なるご支援を頂いた関係者の皆さま、そしてこの大会に参加していただいた全国の高校生の皆さまに御礼を申し上げます。

今回は参加者の皆さんが主体的に楽しめる大会となるよう、高校生自らがクイズの問題文を考えて出題するラウンドや、商品の模擬販売を行うビジネスラウンドなど多くの新しい取り組みを実施しました。初めての企画ばかりで準備段階では難航続きでしたが、参加者の皆さんに少しでも金融経済を身近に感じてもらいたい一心で、スタッフのそれぞれが創意工夫を重ねていきました。大会終了後、参加者の方から「まさに夢の舞台だった」「得られるものがたくさんあった」という声をいただけて、今は安堵の気持ちでいっぱいです。

ただその一方で、運営面で多くの課題を残したのも事実です。改めてこの大会に関わる職員、スタッフ全員で「残すべき点」「変えるべき点」をはっきりさせ、より参加者の皆さんに満足していただけるような次回大会を開催することができるよう精進して参ります。今後ともエコノミクス甲子園をよろしくお願いいたします。



第14回大会
サブリーダー
鈴木 悠希

第14回エコノミクス甲子園のサブリーダーを務めさせていただきました、鈴木悠希と申します。

第14回大会が盛況のうちに無事に終了したことを嬉しく思うとともに、ご参加いただいた高校生の皆さん、また開催にあたりご協力をいただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は、全国大会2日目に行われましたビジネスラウンドのプロジェクトリーダーを務めさせていただきました。このラウンドは、第13回大会まで実施していたプレゼンラウンドに代わるものとして企画され、高校生たちに事業計画を立ててもらい、実際の会社経営になぞらえて、事業資金の獲得・仕入れ・販売・決算など幅広い企業活動を実体験してもらいました。本来、1日ではなしえないこのプログラムを、優秀な仲間たちと議論しながら、実施が可能となるように準備を進めました。この過程で、あるスタッフが「培ってきた能力を最大限発揮できる場があってもいい。個性的な能力を発揮するのを妨げてはならない。」と私に教えてくれました。これは、私をハッとさせるとともに、大事な指針として準備・運営を行ってきました。私たちが提供するエコノミクス甲子園とは、1人1人の高校生たちが、「金融知力」というものを軸にしながら、個々人の能力・個性を発揮できる場です。今年度も引き続き、私たちの誇れる後輩たちを筆頭に、よりよいエコノミクス甲子園を作れるように努力しておりますので、本年も格別のお引き立てをよろしくお願い致します。

また、出場される高校生の皆さんとは、全国大会という檯舞台でお会いできることを心から楽しみにしております。





第15回大会
スタッフリーダー
下條 航大

皆さんこんにちは。第15回大会ボランティアスタッフリーダーを務めます。下條航大です。

エコ甲全国大会の正式名称は、「全国高校生金融経済クイズ選手権」です。その名前からうかがえるように、高校生の皆さんに金融経済に関心を持ってもらい、その知識・見識を深めてもらうことがこの大会の目標です。高校生にとって金融経済は決して身近なものではなく、これに関心を持つことは周りの高校生にはない大きな武器になるはずです。エコ甲に魅了されその後の人生設計に大きな影響を受けた高校生は少なくないでしょう。そういう意味では、エコ甲は皆さんにとって挑戦・成長することができる場の1つであると私は信じています。

また、エコ甲は私たち大学生スタッフにとっても同様に挑戦・成長の場です。エコ甲の活動の中で、知識を得て、経験を積み、新しいことに挑戦し続けています。

私たちがなぜ大学生という限られた時間をエコ甲に投入しているかというと、エコ甲への恩返しの一環として大会を成功させたいという想いがあるからです。その想いによってエコ甲は成長・発展を続けています。

第14回大会では従来のプレゼンラウンドに代わってビジネスラウンドという新しい試みに挑戦しました。記念すべき第15回大会も前回大会同様に挑戦を続けていきます。

スタッフ一同全力を尽くします。地方大会・全国大会で皆さんにお会いできることを楽しみにしております。



第15回大会
サブリーダー
谷 尚 俊

この度、第15回エコノミクス甲子園のサブリーダーを務めることになりました。谷尚俊です。私は第11回の全国大会に岡山県代表として出場し、予選で敗退しました。その翌年も出場しましたが、勉強が足らず地方大会で敗退しました。今大会の運営では、自身の経験を生かして精進したいと思います。

第14回エコノミクス甲子園は、YouTuberのこうちゃん様をお呼びし、大変に盛り上がった大会になりました。ビジネスラウンドを始めるなど内容面でも大きく刷新を行ない、エコ甲の歴史に大きな1ページを刻んだ大会となりました。今年度の大会は、より高校生目線の大会にしたいと考えています。エコノミクス甲子園は第15回という大台を迎えようとしており、大会を通じて高校生にどのような経験を与えることができるか、もう一度考え直す時期に来ていると考えています。スタッフとして大会を運営するうえで、参加者である高校生の姿を常に意識しながら職務をこなしていきたいと思います。全国大会出場者や、上位入賞者に限らず、より多くの高校生に「勉強したからクイズに答えられた!」という成功体験を提供できる大会になるよう、尽力いたします。



第15回大会
サブリーダー
杉 原 諒

次回、第15回大会のサブリーダーを務めます杉原諒から、ご挨拶申し上げます。

さて、このエコノミクス甲子園にご参加、ご協力頂いた皆様の中にはご存じの方もいらっしゃると思いますが、「経済学」(economics)の語源はギリシア語のοίκονομίαです。このοίκονομίαという言葉は日本語で表すと「家政」、つまりは家計の遣り繰りという意味になります。これは内的な言葉です。家内奴隷を用いながらいかに生産活動を行っていくか、これが古代ギリシアの人々の関心事でした。翻って現代社会に生きる我々の関心事も経済活動にあると言えるでしょう。けれども現代社会を支えるeconomicsは外的な言葉ではないでしょうか。21世紀は我々個人の関心が経済利益にあったとしても、その関心が社会に及ぼす影響をより深刻に議論するようになった時代です。エコノミクス甲子園は参加者に社会と関わり合う契機を提供する場でありたいと思います。

エコノミクス甲子園は「普通のクイズ大会」ではありません。プレゼンラウンドから一歩踏み込んだ内容になったビジネスラウンド。その他各ラウンドも決断と実行が求められます。「知っているだけでは勝てない…」こう感じた高校生は少なくないはずです。私が全国大会に出場した際にも実感したことでした。しかし実際の社会でも同じことです。こうして高校生が社会で活躍するために成長していきます。ここにエコノミクス甲子園を開催する意義、参加して頂く意義があるのではないのでしょうか。

最後にはなりますが、第15回大会もより良い大会にしていくためにスタッフ一同尽力致しますので、今後ともエコノミクス甲子園にご参加、ご協力頂きますよう宜しくお願い致します。



エコノミクス甲子園 過去開催実績

開催回数	地方大会開催年	全国大会開催日	参加校数	参加チーム数	優勝校
第 1 回	2006	2007 年 2 月 18 日	25	33	ラ・サール高等学校
第 2 回	2007	2008 年 1 月 13 日	90	237	開成高等学校
第 3 回	2008	2009 年 1 月 25 日	154	425	東大寺学園高等学校
第 4 回	2009	2010 年 1 月 10 日	201	535	ラ・サール高等学校
第 5 回	2010	2011 年 2 月 12 日	237	600	灘高等学校
第 6 回	2011	2012 年 1 月 22 日	244	647	東大寺学園高等学校
第 7 回	2012	2013 年 2 月 17 日	335	860	東海高等学校
第 8 回	2013	2014 年 2 月 2 日	378	1,023	千葉県立千葉高等学校
第 9 回	2014	2015 年 2 月 15 日	401	1,134	宮崎県立宮崎西高等学校
第 10 回	2015	2016 年 2 月 28 日	410	1,121	新潟県立新潟高等学校
第 11 回	2016	2017 年 2 月 5 日	448	1,171	金沢大学人間社会学域学校 教育学類附属高等学校
第 12 回	2017	2018 年 2 月 18 日	517	1,297	長崎県立長崎西高等学校
第 13 回	2018	2019 年 2 月 17 日	473	1,250	福井県立藤島高等学校
第 14 回	2019	2020 年 2 月 9 日	479	1207	大阪府立北野高等学校



エコノミクス甲子園全国大会 県別出場校一覧(前半)

回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
開催年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
北海道			旭川東	旭川東	札幌西	旭川東	旭川東	札幌旭丘
青森								青森
岩手				水沢	盛岡第三			
宮城				仙台第一	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台第二
秋田			秋田商業	秋田商業	秋田中央	横手	秋田	秋田商業
山形							山形東	山形南
福島		福島【東北】	福島【東京】			会津学園【関東】	福島	福島
茨城							竹園	土浦第一
栃木							宇都宮【ネット】	矢板東
群馬							富岡	前橋
埼玉			浦和	浦和	早稲田本庄	早稲田本庄	栄東	春日部
千葉	県立船橋【東京】			渋谷幕張	渋谷幕張	市川	渋谷幕張	県立千葉
東京	開成	開成	開成	開成			立川	立川
神奈川			聖光学院	聖光学院	横須賀	逗子開成	聖光学院	聖光学院
新潟								国際情報
富山			片山学園	高岡商業	片山学園	高岡	高岡	高岡
石川		金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢泉丘
福井			高志	高志	福井高専	福井高専	藤島	藤島
山梨					甲府南【関東】	甲府南	甲府南	甲府南
長野								長野
岐阜					県立岐阜	県立岐阜	県立岐阜	岐阜東
静岡						島田商業	三島	浜松西
愛知	南山女子【大阪】	滝	名大附	名大附	名大附	旭丘	東海	東海
三重						津	三重	川越
滋賀								
京都								
大阪	星光学院						清風南海	星光学院
兵庫		灘【関西】		灘【関西】	灘【関西】	灘【関西】		関西学院【ネット】
奈良			東大寺【大阪】	東大寺	奈良学園	東大寺	智辯奈良C	智辯奈良C
和歌山								
鳥取								鳥取西
島根							松江北	浜田
岡山		岡山白陵	岡山朝日	岡山朝日	岡山白陵		岡山城東	岡山白領
広島						広大福山【中国】	修道	広島学院
山口							宇部	宇部
徳島					城東	城ノ内	城ノ内	徳島市立
香川		観音寺第一	高松	観音寺第一	高松	高松	高松	高松
愛媛			愛光	愛光	松山東	松山西	松山西	松山西
高知								高知学芸
福岡			西南学院				修猷館	修猷館
佐賀				致遠館【九州】	致遠館【九州】			
長崎					長崎北	長崎南山	長崎商業	佐世保北
熊本						熊本【九州】		
大分								
宮崎							宮崎西	宮崎第一
鹿児島	ラ・サール【福岡】	ラ・サール【九州・熊本】		ラ・サール	ラ・サール 鶴丸【敗者復活】	ラ・サール	ラ・サール	鶴丸
沖縄		昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	那覇国際	那覇国際
中国								
台湾								
出場校数	5	10	16	20	24	25	34	40

【 】内は所在地以外の県で実施された予選(第1回)・地方大会名。第2回のラ・サールは2チーム出場

は全国大会優勝校



エコノミクス甲子園全国大会 県別出場校一覧(後半)

回数	第 9 回	第 10 回	第 11 回	第 12 回	第 13 回	第 14 回	
開催年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
北海道	札幌南	札幌南	札幌南	札幌南	札幌南	北見北斗	初出場
青 森	青森	青森	弘前	青森	弘前	弘前	2年連続 3 回目
岩 手			盛岡中央	盛岡第三	一関第一	岩泉	初出場
宮 城	仙台二華	仙台二華	仙台第一	古川黎明	仙台第二	聖ウルスラ	初出場
秋 田	秋田西	秋田	秋田	由利	秋田商業	秋田	2年ぶり 4 回目
山 形	山形東	山形東	鶴岡南	山形南	山形南	寒河江	初出場
福 島	福島高専	白河	福島	福島	福島	県立福島	4年連続 8 回目
茨 城	水戸第一	土浦第一	並木中等	土浦第一	並木中等 竹園【ネット】	江戸川取手	初出場
栃 木	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	6年連続 7 回目
群 馬	高崎女子	前橋	ぐんま国際 アカデミー	四ツ葉学園	中央中等	中央中等	2年連続 2 回目
埼 玉	栄東	栄東	浦和	栄東	県立川越	栄東	2年ぶり 5 回目
千 葉	渋谷幕張	柏	東葛飾	渋谷幕張	渋谷幕張	渋谷幕張	3年連続 7 回目
東 京	渋谷	早稲田	お茶の水 女子大附属	早稲田	早稲田	都立武蔵	初出場
神奈川	横浜賀	慶応義塾	聖光学院	栄光学園	湘南	慶應 SFC	初出場
新 潟	新潟明訓	新潟	新潟	新潟明訓	新潟	新潟	2年連続 4 回目
富 山	高岡	高岡	富山	富山	富山中部	富山	2年ぶり 3 回目
石 川	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	6年連続 11 回目
福 井	藤島	高志	羽水	藤島	藤島	高志	4年ぶり 4 回目
山 梨	甲府南	甲府南	甲陵	甲府南	甲府南	甲府南	3年連続 9 回目
長 野	諏訪清陵	松本深志	松本深志	松本深志	松本深志	上田	初出場
岐 阜	県立岐阜	県立岐阜	県立岐阜	県立岐阜	県立岐阜	岐阜	6年連続 9 回目
静 岡	静岡雙葉	静岡	知徳*	知徳*	御殿場南	浜松学芸	初出場
愛 知	滝	滝	滝	東海	旭丘	東海	2年ぶり 4 回目
三 重	川越	宇治山田商業	四日市商業	伊勢	桜丘	暁	初出場
滋 賀		水口東	膳所	守山	水口東	県立守山	2年ぶり 2 回目
京 都	洛北【ネット】		洛北	洛南	洛北	洛北	2年連続 4 回目
大 阪	開明	金寶千里 星光学院【10 回記念】	星光学院	星光学院	星光学院	北野	初出場
兵 庫		瀧	瀧 甲陽学院【ネット】	神戸女学院	瀧	神戸女学院	2年ぶり 2 回目
奈 良	智辯奈良 C	東大寺	東大寺	東大寺	東大寺	青翔	初出場
和歌山				智辯和歌山	智辯和歌山	近大和歌山	初出場
鳥 取	鳥取西	湯梨浜	青翔開智	湯梨浜	青翔開智	鳥取西	5年ぶり 3 回目
鳥 根	松江商業	隠岐	情報科学	松江商業 横田【ネット】	松江高専	松江高専	2年連続 2 回目
岡 山	倉敷精思	倉敷精思	倉敷天城	倉敷精思	倉敷天城	倉敷天城	2年連続 3 回目
広 島	修道	広島学院 近大東広島【ネット】	広大福山	安田女子	広島学院	広島学院	2年連続 4 回目
山 口	宇部	下関西	下関西	大島商船	山口	宇部高専	初出場
徳 島	徳島市立	城東	徳島市立	徳島市立	城東	城東	2年連続 4 回目
香 川	高松	高松	観音寺第一	高松	高松	高松	3年連続 10 回目
愛 媛	松山西	愛光	愛光	今治西	松山東雲	今治西	2年ぶり 2 回目
高 知	高知小津	土佐	高知学芸	高知学芸	土佐塾	土佐	4年ぶり 2 回目
福 岡	筑紫丘	大牟田	修猷館	福工大城東	福岡	久留米大附	初出場
佐 賀		致遠館	致遠館	弘学館	弘学館	早稲田佐賀	初出場
長 崎	精道三川台	精道三川台	長崎西	長崎西	精道三川台	青雲	初出場
熊 本			八代				
大 分			安心院				
宮 崎	宮崎西	宮崎第一	宮崎第一	宮崎大宮	宮崎第一	日向学院	初出場
鹿児島	鶴丸	国分中央	鶴丸	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	3年連続 9 回目
沖 縄	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	琉球	昭和薬科	昭和薬科 N 高【ネット】	2年連続 10 回目 初出場
中 国			甘泉				
台 湾				台湾師大附			
出場校数	40	44	48	47	46	46	

* 静岡「知徳」は前校名「三島」





■第1回



■第2回



■第3回



■第4回



■第5回



■第6回



■第7回



■第8回





第9回



第10回



第11回



第12回



第13回



第14回





認定NPO法人

金融知力普及協会

Association for the Promotion of Financial Literacy

協賛



Manulife

マニユライフ生命



Wiennomori Corporation



RHEOS CAPITAL WORKS



大塚投資信託